

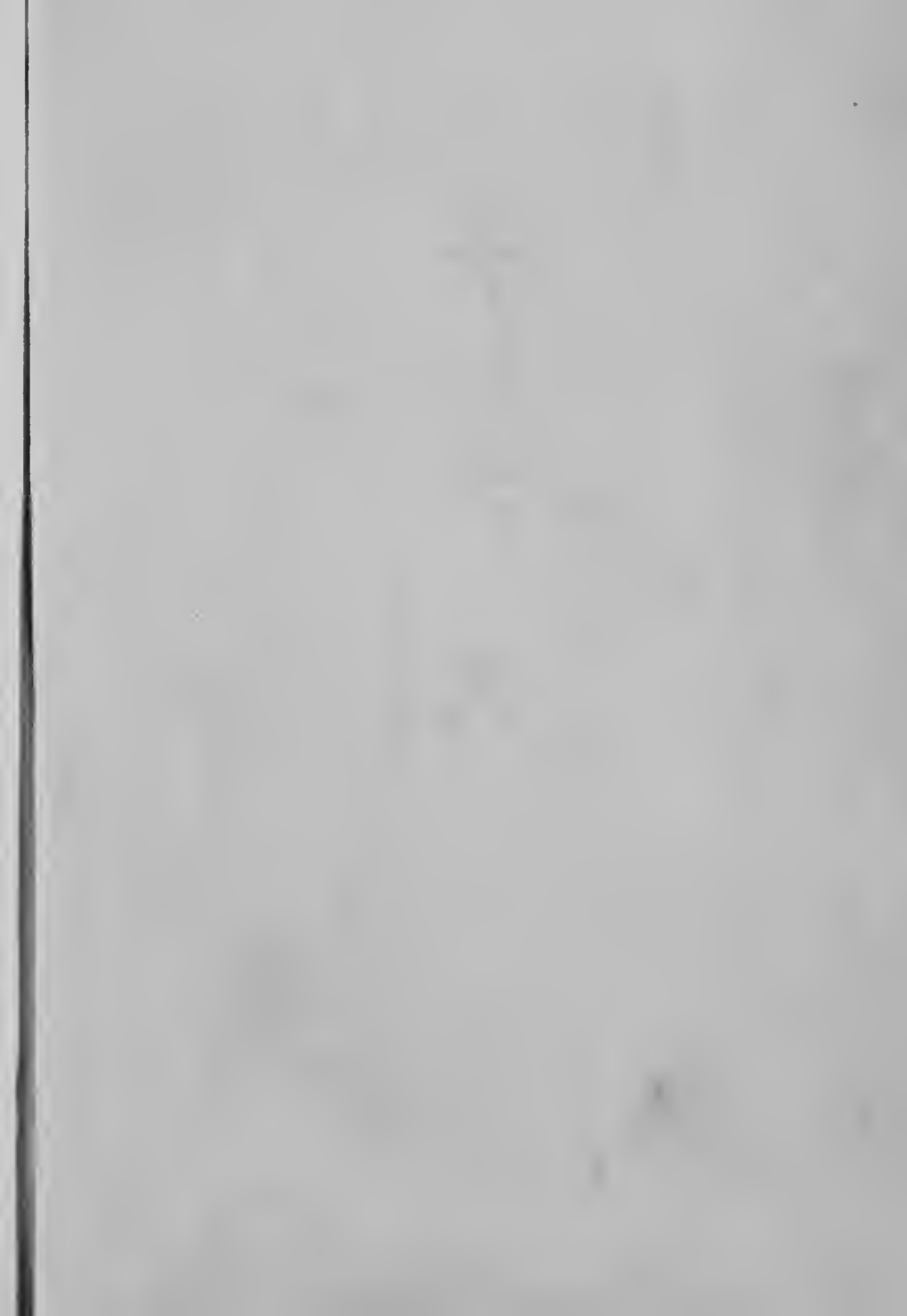
長 守 善 著

# ナ チ ス

ヒットラー運動・思想・政策――

日 本 評 論 社 版





## は し が き

資本主義が多くの缺陷を含んでゐることに誰しも異論はあるまい。だが我々は其の缺陷の故を以て、此の制度の下に於ける一切の善美なものをも醜惡なものとして一括して破壊し去り、これに代へるに一つの階級のみの利益を代表する制度を以てせんとするマルクシズムに左擔することとは出来ない。これに反して資本主義の危機の原因を制度そのものに見ずして、其の思想的背景を爲すところの個人主義的自由主義を退けて、國民全體の利益を調和せんとする普遍主義的立場から、社會の改造を企てるものに、ファッシズム及び國民社會主義がある。

イタリヤにファッシスト政府が確立されて既に十年、其の間に多くの社會的實驗も行はれた結果、今やファッシズムに關する限り、漸次權威ある研究も現はれるに至つた。しかるに國民社會主義にあつては、嘗てファッシズムが蒙つた以上に甚だしい歪曲が加へられてゐる。其の指導者ヒットラーは權力慾の權化と見做され、ナチスは暴力團體と思惟され、其の綱領是一片

のデマゴギーとして片付けられ勝ちである。

破壊を事とする者の眼には、國民社會主義は反動思想として映るかも知れない。だが事實は容赦なく進展する。今や國民社會主義是一片のデマゴギー、反動の名を以て片付けられるには餘りに力強い根を、ドイツ國民の間に張りつゝある。本書は此の新興運動の思想及び政策綱領に全面的解剖を加へ、正しい認識に到達することを以て目的とする。

もとよりさゝやかな本書がよく此の使命に耐へたか否かについては危惧なきを得ない。資料の乏しさによる缺陷も多いであらうし、著者自身の主觀に禍された點があるかも知れない。大方の叱咤を待つ次第である。

本書の完成は徹頭徹尾、恩師土方成美博士の御援助に負つた。博士の御示教なくば、著者は執筆の勇氣を持たなかつたであらうし、博士の御靈力なくば、本書は世に出る機會を持たなかつたであらう。此處に心からなる感謝を捧げる。

昭和八年三月八日

著者



## 目次

第一章	社會民主主義の破綻	一
第二章	國民社會主義運動	二〇
第一節	ヒットラー小傳	二〇
第二節	國民社會主義運動の擡頭と現狀	二六
第三節	國民社會主義運動の綱領	三〇
第四節	ナチスの構成分子	三六
第五節	中産階級	四六
第三章	國民社會主義の思想體系	五〇

第一節 國民社會主義思想の起源	三〇
-----------------	----

第一項 浪漫主義	三二
----------	----

第二項 國家社會主義及講壇社會主義	三九
-------------------	----

第三項 キリスト教社會運動	四三
---------------	----

第四項 民族主義運動	四八
------------	----

第二節 國民社會主義と國民主義	五六
-----------------	----

第三節 國民社會主義と社會主義	四二
-----------------	----

第四節 國民社會主義とマルクシズム	五五
-------------------	----

第四章 ナチスの政治理論	五九
--------------	----

第一節 國家觀	五九
---------	----

第二節 身分階級國家	六六
------------	----

第三節	政治形態	一九五
-----	------	-----

第四節	外交政策	二〇九
-----	------	-----

第五章	ナチスの經濟政策理論	二二〇
-----	------------	-----

第一節	ナチスの經濟原則	二二〇
-----	----------	-----

第二節	金融及財政	二三一
-----	-------	-----

第一項	金融資本	二三二
-----	------	-----

第二項	利子	二四一
-----	----	-----

第三項	税制	二五六
-----	----	-----

第三節	工業	二六〇
-----	----	-----

第四節	農業	二六九
-----	----	-----

第五節	勞働問題	二八〇
-----	------	-----

第六節 失業問題	二六七
----------	-----

第六章 國民社會主義とファッシズム	二九四
-------------------	-----

後記	三〇五
----	-----

## 第一章 社會民主主義の破綻

民主主義の危機が叫ばれてゐる今日、議會制度が政治形態として最高のものであるか、或ひは他の異なる政治形態に代位さるべき運命を負ふものであるか、此處には論斷の限りではないが、既に一方にはスターリンの指導下にあるソヴェート・ロシヤ、他方にはムツソリニのファシズム獨裁が新たな政治形態として世界の表面に嚴然として實在してゐる。

資本主義的民主制の動搖と、それに伴ふ既成ブルジョア諸政黨の凋落、及びファシズムとコンミュニズムとの對立の尖鋭化の問題は多少ともに多くの國の悩みであらう。其の典型的な姿を我々はドイツに於て見る事が出来る。

ドイツは其の特殊な國狀、選舉制度の結果數多の政黨の對立があり、思想的には極左コンミュニズムから極右ファシズムに近いものまでを含み、其の間には社會民主黨を初め、宗

教的色彩濃厚なカトリック中央黨、重工業家を背景とする人民黨、帝制復興を夢み、大地主資本家の支持に立つ國權人民黨等、夫々特殊の立場、獨自の主張を有する二十に近い政黨があり、其の政狀は現代のあらゆる政治思想の縮圖だと云へる。從來これらの諸政黨が賠償問題、失業問題、等々をめぐつて、妥協、或ひは抗爭を續け、ドイツ政界を益々混亂せしめてゐる。

しかしながら共和國成立以來最近までドイツ政界を支配し來つた勢力は社會民主主義であつた。マルクス、ミューラー、ブリュニンゲと歴代内閣の首班者は其の所屬政黨を異にしてゐたけれども、要するに彼等はワイマル憲法擁護派であり、社會民主黨の支持の下に政權を維持し來つたのである。

しかるに其の後の情勢は社會民主主義の支配を最早不可能ならしめるに至つた。即ち近年に於ける共產黨と國民社會黨との目覺ましい躍進によつて社會民主黨は他の中間諸政黨と共に漸次凋落し初めた。ドイツが政黨政治の基礎に立つ限り、組閣の唯一の途は數政黨の協力

にあるが、妥協性乏しき前記二政黨の擡頭は此の唯一の可能性を奪つた。假りに議會に於ける中間諸政黨のブロック結成が可能なりとするも、それを以て共產黨及び國民社會黨の反對を押し切ることは出来ない。況んや與黨必らずしも信を置くに足らず、其の向背常ならざることは歴代内閣の經驗し來つたところである。此處に於てかドイツ政局は必然的に獨裁的傾向を辿らざるを得なくなつたのである。此の傾向は既に前ブリューニング内閣に初まつた。ブリューニングは一九三〇年十二月一日憲法第四十八條に基く第一回緊急令發布以來、中譯的な短期の議會召集の外には、重要事項の決定及び遂行は殆んど緊急令の發動にのみ俟ち、形式的にも内容的にも獨裁によつて時局を切り抜けたのである。パーベン超然内閣が見も角も命脈を維持し得た所以、シュライヘルを首班とする軍閥内閣の存在が許された理由も此處にある。かくて七〇年も前にジョン・スチュワート・ミルが英國について「議會は漸次政治に参加し得なくなるであらう」と豫言した言葉が、今や其の儘ドイツに妥當するに至つたのである。

かくの如く、ドイツ國民大衆を左右兩極に驅り、中間諸政黨を顛落の淵に誘致した原因は何か？

我々はこれを社會民主主義の行詰りであると斷言するに躊躇しない。賠償問題、失業對策、農村救済、財政の確立等ドイツに課せられた重要問題は數限りなくあつたが、其の多くに於て從來の社會民主主義的政府は失敗した。此處に前ライヒスバンク總裁ヒャルマール・シャハトの所論を引用しやう。

戦後のドイツの爲すべき唯一の使命は、國民的感情を培養し、ドイツに残された一切のものを集め、最大の節約と勤勞とによつて生産力を高めることであつた。しかも社會民主主義によるマルクシズム的制度はドイツ國民を没落の淵に導くことにしか貢獻しなかつた。イギリスやフランスに於ては社會民主主義的政黨と雖も國民の利益擁護を怠らなかつた。ドイツ社會民主主義が道德的文化的方面に残した害惡は外面に現はれた以上に甚だしいものがあるが、これを暫らく措くとしても、單にドイツ經濟に及ぼした罪科のみでも看過し難い。



社會民主主義制度の根本的疾患は、第一に國家機關の驚くべき過大視である。官僚主義の跋扈、及びそれに伴ふ官吏數の増加は行政機關の生産力を高めた。

社會主義的理論家の頭に描かれた生産國營の夢は早くも革命直後に破れたが、一九一九年三月二十三日の社會化法は、社會化に適した企業を一定の賠償によつて國有にすべき權限を國家に與へた。其の結果一九二九年には電力事業の如きは官公營に屬するもの五三%、私人企業に残されたものは僅かに四七%に過ぎない。その他ガス、電車事業の如きもこれに屬するが、かゝる獨占的公營事業は無税でありながら、一度損失を生ずれば一般國民の租税によつて償はれてゐる。

第二の失敗は社會保險問題である。云ふまでもなくドイツは戰前に於て社會保險制度を設けた最初の國である。しかるに社會民主主義は戰後に於てそれを盲目的に擴張し、此の制度濫用の弊に陥つた。ドイツ社會保險の總費用は一九一三年には十億ライヒスマルク弱であつたが、今日では八十億ライヒスマルクに達してゐる。戰前にはなかつた失業保險を除くも、

他の部分（疾病、癆疾、老年、從業者、貧窮、災害等諸保險）のみでも戦前の四倍に達してゐる。此の巨額の國家支出がドイツの如く窮迫せる國民經濟上耐へ難き負擔たるは勿論、其の結果個人企業經營の國有化が益々促され、延いては全產業界に著しい弊害を残すは必然である。

第三の税政は賃銀問題である。イギリスと同じく戦前のドイツにあつても、賃銀はある程度まで協定賃銀によつて決定されてゐた。しかし此の協定賃銀は當時一定の企業にのみ限られ、それによる労働者數は一九一四年末には約二百萬に過ぎなかつた。革命政府は其の成立の數週間後に早くも、労働組合に對して共同賃銀協定の合法的權限を與へた。爾來政府の強制によつて此の強制賃銀制度は益々發達し、今や一千二百萬の労働者が共同賃銀協定に與るに至つた。しかも同時に此の制度は今や企業家と労働者との間の自由な結合ではなく、國家が謂ゆる調停制度に基いて恣に賃銀の決定に干涉するのである。即ち一九二三年以後は調停制度に關する命令によつて、政府によつて任命された議長を戴く調停委員が裁停を行ふこ

とになつた。其の結果企業家の利潤は經濟的條件でなしに、政治的事情によつて左右されるに至つた。これらの結果による最大の害惡は個人の責任感の破壊である。社會民主主義制度は個人の責任感と個人の機能とに代へるに官僚制度を以てせんとするのである。

ドイツに於ける總従業者數の三割は官公署か、國家、州、市町村が決定的支配力を有する事業に従事し、隨つて彼等は直接にか間接にか、國家的團體の事業に雇傭されてゐる。このことは經濟上個人の企業活動力を低下せしめ、卑屈な依頼心を助長する。

殊に社會保險制度の擴張が如何に個人の責任感を低下せしめるかは、甚だしく濫用されてゐる失業保險制度の上のみならず、疾病保險制度の上にも數多の實例がある。一九二八年一月一日強制疾病保險制度が海員に對しても適用されるに至つて以來、ハムブルグ、アメリカ航路は其の年報に於て、其の従業者の罹患數が前年迄平均の六倍半に増加したと報じた。失業保險、疾病保險の濫用に至つては更に甚だしく、其の結果政府でさへも若干の變更を加へるの止むなきに至つた。勞働義務の觀念、自力更生の努力、即ち國民の繁榮を齎すべき源

泉が社會保險制度の濫用によつて破壊され、節約心は消滅し、浪費的傾向が高まつた。

勞働賃銀制度も同様な惡影響を與へた。社會民主主義的勞働組合が其の政治的權力増大によつて賃銀の平均化を企てるに従つて、却つて勞働者は賃銀が實際の勞働能力に應じて決定されることを望むに至つた。

以上の結果は著しく國民の租稅負擔を増大した。ドイツに於ては一九三〇年評價國民所得六百二十億乃至六百五十億ライヒスマルクであつたが、其の内三百億ライヒスマルク、即ち總國民所得の四五%以上が租稅と社會的支出（社會保險）とに奪はれた。

かゝる政策が國家財政及び國民經濟を根本的に破壊することは明らかである。今や財源は涸れ、外國信用は杜絶した。かくて社會民主主義制度は其の支柱を失つたのである。<sup>1)</sup>

以上の如くシャハトも亦社會民主主義の行詰りを指摘してゐる。此處に一九三一年乃至三二年の兩年度のドイツ歳出入決算を見るに、一般會計に於て歳入六百五十六億一千四百萬ライヒスマルクに對して歳出七百一億二千三百萬ライヒスマルク、差引四十五億九百萬ライヒ

1) Hjalmar Schacht; Das Ende der Reparationen, S. 176ff.

スマルクの歳出超過であり、特別會計に於ては歳入二億七千二百萬ライヒスマルク、歳出十七億八千七百萬ライヒスマルク、差引十五億一千五百萬ライヒスマルクの歳出超過を示してゐる。右歳出の内社會保險支出は四十二億七千百萬ライヒスマルク、危機手當は四十一億五千三百萬ライヒスマルクである。これだけの事實を以てしても社會保險制度が如何にドイツ財政の重大な負擔になつてゐるかゞ理解されるであらう。しかも此の制度の濫用はシャハトの云へる如く個人の依頼心を助長し、失業者數は最近に於て六百萬に達した。かくて社會民主主義的政府は財政的にも破綻したのみならず、失業救済にも失敗し、延いて今日の獨裁的傾向を誘致したのである。

## 第二章 國民社會主義運動

### 第一節 ヒットラー小傳

國民社會主義運動の擡頭と現狀とに論及するに先立つて、我々は此の運動を今日の如く優勢ならしめた指導者ヒットラー其の人の生ひ立を見なければならぬ。

アドルフ・ヒットラーは一八八九年四月二十日イン河畔のオーストリア小邑ブラウナウに於て下級税關吏の長男として生れた。國籍はオーストリアであつたが、家系はニーダーバイエルから出てゐる。

彼の幼少の時、其の父はドイツのバッサウ峡谷の税關に赴任したが、間もなく恩給を支給されてリンツに來り、オーストリアの小都ラムバッハに小地所を求めて、自ら耕作に従事し

つゝ其の生計を立てるに至つた。

彼の父は貧しい水呑百姓の子であつて、僅か三グルデンの旅費を持つてウィーンに到り、其處で手細工を習つたが、これに満足することが出来なかつたので、刻苦して後二十三歳にして小吏になることが出来たのであつた。それで彼は其の息子のアドルフを偉大な官吏に仕上げることに其の念願であつた。しかしヒットラーは畫家になり度いと願つてゐた。彼は官吏が嫌で／＼たまらなかつた。彼の言葉を借れば「自分の時間を持ち得ず、事務所に縛られて坐つてゐることを考へただけで、ぞつとした<sup>1)</sup>」此の父子の極端な意見の相違が表はれた時にヒットラーはまだ十二歳であつた。十三歳の時其の父は急死した。同年彼は重い肺患に罹つた爲にそれまで通つてゐた實科學校を退くと共に、醫者の勧告によつて、彼の母は亡夫の遺志によつて子供を官吏に仕上げることを諦めた。そして彼女は其の息子の乞ひに任して美術學校へ入れる決心をした。少年ヒットラーは美術家たんとする憧れに病苦も忘れた。だがそれは彼に取つては短い夢であつた。其の二年後母を失つたのである。此の時から彼の生

1) Adolph Hitler ; Mein Kampf , 12 Aufl. S. 6.

活苦が始まつた。父の僅かな遺産は母の重患の爲に殆んど使ひ果たされてゐたのである。

十六歳の時彼は青雲の志を抱いて二、三着の着物のはいつた行李を財産としてウィーンに來て美術學校の入學試験に應じたが、幸か不幸か失敗した。彼の希望は斷たれた。其の後の五年間は文字通り苦難の連続であつた。最初に彼は大工の徒弟になり、後にペンキ屋になつた。當時の生活について、ヒットラー自ら其の著「我が闘争」の中でかう述べてゐる――

「私が最初には見習大工として、次には一介の繪書きとして、自らパンを求めねばならなかつた此の五年間は、悲惨と苦痛其の物であつた。かうした苦勞によつて得たパンとても飢を凌ぐにも足りなかつた。此の飢こそは當時私の傍を離れないで、あらゆる勞苦を分けた唯一の伴侶者であつた。私の買ひ求めた書物は悉く、此の激しい飢を忍んで獲たものである。一度オペラ見物に行けば、其の後に飢餓が終日私に付き纏つた。私の生活は此の殘酷な友との不斷の闘争以外の何物でもなかつた。にも拘らず私は、此の時代に嘗てなかつた程の勉強をした。仕事の餘暇に、極く稀れに食物を節してオペラを見に行く外には、私の唯一の友人は



多くの書物であつた。」

同時に此の職場から職場に渡り歩いてゐる困苦の時代に、彼の社會問題に關する眼が開かれた。殊にウィーンは當時最も不合理な社會形態を具へてゐた。素晴らしい富と甚だしい貧窮とが、ハプスブルグ專制下に相對立してゐた。ヒットラーはかう云つてゐる——

「ウィーンは政治的精神的のみならず、經濟的にも、古いドナウ王國の中心であつた。地位の高い軍人、官吏、藝術家、學者等の一團が勞働者大衆に對立し、貴族や商人の富が國民の甚しい貧窮に對立してゐた。豪莊な宮殿の前の廣場には數千の浮浪者の群が溢れてゐた。

社會問題を研究するにはドイツの如何なる都會よりもウィーンが便利であつた。<sup>2)</sup>同時に彼を驚かせたことは、彼の周圍の此の虐げられた下層階級に於ける甚だしい道德的頹廢であつた。そして彼は總ての道德的墮落の原因を國民的誇りの缺乏の中に認めると共に、社會問題の解決と國民精神の鼓吹とは相離るべからざるものであると考へたのである。即ち彼自ら「一國民の國民精神鼓吹の問題は、第一に健全な社會狀態創造の問題である」と云つてゐる。

2) Hitler; a. a. O., S. 23.

幸にも一九〇九年から一九一〇年頃に至つて、彼の新たに得た獨立の製圖家としての職業は、稍々生活を樂にしたので、益々熱心に社會問題の研究に没頭した。しかも一方では彼は少年時代から抱いてゐた藝術家としての生活に對する憧憬を捨てることが出來ないで、秘かに彫刻家たるべく努力してゐた。

一九一二年の春彼は初めて憧れの街ミュンヘンに來た。此處こそ彼は「眞のドイツの都會」であることを感じた。彼によれば、此の古いバイエル之都「ミュンヘン」を知らずしてはドイツを知つたものとは云へないし、ミュンヘンを見ずしては、ドイツの藝術を語ることが出來ない」のである。實にドイツ的な傳統に充たされたミュンヘンの空氣は若きヒットラーの心を完全に捉へ、彼の生涯と切り離すべからざるものとなつた。

此の藝術的香り高き都に於る生活苦と闘ひつゝ、彫刻家たるべく精進した大戰勃發までの二ヶ年間の生活は、彼の生涯に於て、最も楽しい、安らかな生活であつたと自ら追想してゐる。

一九一四年動員令が下るや、彼は愛國的感情に燃えて、一ドイツ人として、ドイツ國民と

眞のドイツ人の國家としてのドイツ國家との防衛の爲に劍を執つた。即ち彼は其の故郷オーストリアを以て、外國民族によつて汚された國として嫌惡して、八月三日バイエル國王ルードウィッヒ三世に宛て、バイエル軍從軍の請願をして許可されたのであつた。かくて彼はリスト聯隊に編入されて、フランドル戦線に送られた。その途中で初めてドイツの守り、ライン河を見た。其の時のことを彼は次のやうな感激の言葉を以て描いてゐる――

「遂に我々は義務を果たす爲にミュンヘンを去るべき日が來た。我々が西方に向つて進軍する途中で初めて私はライン河を見た。我々は此の河を貪慾な敵から死守せねばならないのだ。ほのかな朝靄を通して曙光が、ニーダーワルドの自由の像を照らすのを見た時、長蛇の如き輸送列車からは自ら『ドイツ！　ドイツ！　なべての上に！』の歌が曉天に向つてほとばしり出た。私の胸は感激につぶれさうだつた。」

爾後四年間、彼は終始歩兵として戦線に活動した。間斷なき第一線に於ける活動は幾度か彼の生命を脅かした。一九一六年十月七日にはソンヌの戦闘に於て重傷を負つて、ベルリン

近郊のベールリッツ衛戍病院に送還された。一九一七年の初め、ミュンヘンの補充軍に加つて再び西部戦線に赴いた。一九一八年十月十四日、イーゼル河畔の戦闘の際、猛烈な毒ガスに當つて殆ど失明しかゝつた爲に、ボンメルンのパーゼワルク衛戍病院に送られた。其處で彼は革命に遭つた。彼の眼が次第に快癒に向ひつゝあつた十一月十日、牧師から帝政の没落と共和國の成立とに關する總ての事情を聞かされたのである。四年間の殘虐な戦争の結果がこれか？ 其の時の彼の憤激の狀は次の言葉に如實に現はれてゐる――

「私は母が死んで、其の棺を送つて以來、泣いたことはなかつた。青年時代に運命が苛酷であつた時に、私は却つてそれに對して頑強になつた。永い戦争の間に、私の戦友が相次いで斃れるのを目撃しては、自分の苦痛を訴へたりすることは罪惡だと思つた。彼等はドイツの爲に死んだのではないか！ 更に此の最も激しい闘争を行ふべき秋に、毒ガスの爲に眼を犯されて、最早永久に見えなくなるのではあるまいかとの懸念に戦慄してゐた時でさへ、良心の叫びは私の耳朶を打つた。情けない者よ！ 大衆が汝よりも數百倍も不幸になりつゝある

のに、汝は女々しく泣くのかと。かうして私は祕かに私自身の苛酷な運命を耐へ忍んで來たのであつた。だが今と云ふ今は、どうして泣かないでゐられやうか？ 私は初めて此の祖國の最大の悲運に際會して、今こそ一切の個人的苦惱の如きは何でもないことを知つたのだ。かくて一切は無駄に終つた。あらゆる犠牲も窮乏も、死の懸念に圍まれつゝ忍んだ飢渴も、二百萬人の死も、總ては無駄になつたのだ。……ドイツの母達が痛む心を以て其の最愛の子等と再び相見る希望もなく戦地に送つたことによる祖國人の犠牲の意味がこれだつたのか？ これこそ一國の破廉恥な裏切者の仕業ではないか？<sup>3)</sup>」

ドイツがマルクシストの手に落ちたことは、彼に取つて耐へ難い汚辱であつた。此の日に彼は自己の使命をはつきりと知り、自身の個人的幸福を願つてゐた過去を清算した。彼は遂に立ち上つた。終生政治家として戦ふ決心の付いたのは、實に此の時の興奮からであつた。

一九一八年十一月の末、ヒットラーはミュンヘンに歸り、其の所屬聯隊の補充部隊に編入されたが、それは既に「勞兵會」の支配するところであり、ヒットラーに取つては何もかも

3) Hitler; a. a. O., S. 223 f.

氣に食はぬことばかりであつた爲に、一時トラウンシュタインに行つたが、翌年三月再びミュン、ンに歸つた。

大戰中にミュンヘンには北部工業地帯から多數の勞働者が雪崩れ込んでゐた。しかもクルト・アイスナーは早くも一九一四年頃から此の地方に潜入して、戰爭に倦んだ勞働者、軍人、知識階級の間に猛烈な革命思想を鼓吹しつゝあつた。かくてミュンヘンの實權は十一月七日に既に勞兵會の掌握するところとなり、翌年四月の初めにはアイスナーとトラーとはゾヴェート共和政開始を宣言し、ヘルリン政府に對して「帝國からの分離」をスローガンとして、其の支配を維持せんとした。ヒットラーは兵舎の中から猛然と反對した。爲に彼の身邊も危くなり、一度は中央委員會の監察官によつて拉致されかゝつた位である。しかしアイスナーの暗殺と、それに引續くゾヴェート政權の壊滅とによつて、ミュンヘンは靜穩に歸した。

ヒットラーは第二歩兵聯隊に於ける革命事件の審問委員に任命され、次いで養成士官になつた。秩序回復直後の當時のミュンヘンでは、新らしい運動乃至思想に關して嚴密な調査が

行はれた。それでヒットラーは一夕其の公的資格に於て、新たに編成された「ドイツ労働黨」の會合に臨席した。此の席上に於て偶々彼はゴットフリード・フェーダーの「利子奴隸制の打破」に關する講演を聞いて多大の感動を受けた。彼はこれこそ刻下のドイツに於て解決すべき最大の問題であると共に、將來のドイツ國民の核心に觸れるものがあると考へたのである。此處に於て彼は此の若き運動を全國的な大衆運動にまで育て上げる決心を以て、第七番目の黨員として入黨した。これが今日彼の率ひる國民社會主義ドイツ労働黨の前身である。間もなく彼は其の才幹を認められて、アントン・ドレクスラーに代つてその首領になつた。

毎水曜日に此の小政黨はミュンヘンのカフェーに集つて討論し、毎月一回、後には二回、演說會を公開し、彼等自ら立看板を立て、招待券を配布して、熱心に同志の獲得に努めた。しかし其の結果は極めて慘めであつた。其の時のことを彼はかう述べてゐる——

「私は今もなほ當時のことをまざ／＼と覺えてゐる。初めて八十枚の招待券を配布した夕

刻、今夜こそ來會者が多いぞと胸を躍らせて待つてゐた。ところが一時間も定刻より遅らせ  
て開いた會場で見たものは、依然として例の七人だけだつた<sup>4)</sup>と。

しかし彼等の不屈の努力は次第に効果を表はし聴衆が増加し始めた。一夕其の講演會に於  
て、ヒットラーは自ら約三十分間に亘る演説をしたが、それは聴衆に多大の感動を與へた。  
此の時に初めて彼は「自分は人を説服する能力を持つてゐる」ことを知り、自己の稀れに見  
る雄辯を自覺したのである。

一九二〇年二月二十四日、新運動最初の大衆演説會が約百名の聴衆の前に開かれた。其の  
席上で初めて二十五ヶ條の黨綱領を發表した。此處に於てヒットラーは漸く世人から注目を  
受け始めたのである。

これまでのヒットラーの波瀾に富んだ境遇は、爾後の政治思想並に活動の上に多大の影響  
を與へた。

4) Hitler; a. a. O., S. 389.



第一に幼少時を過した土地ブラウナウは、ニュルンベルグの愛國的本屋ヨーハン・フィリッ  
プ・バルムがフランスの暴虐を非難した小冊子「壓制下のドイツ」を販布した廠で、一八〇  
六年ナポレオンの命によつて銃殺された場所である。近隣の古老から此の物語を聞かされた  
ヒットラーの幼い心には、此の時代に早くも愛國的感情が芽生えつゝあつた。

次いでドイツのバッサウ及びオーストリアのリンツの如く、獨逸國境地方に於ける學校生  
活は、彼をして此の國境を撤去し、ドイツ人は唯一の國家に統一さるべきことが、自然的、  
歴史的必然であることを痛感せしめた。かくて當時彼が非常な情熱を以て勉強した學科は歴  
史と地理とであつた。

其の兩親に早く死に別れて、十五歳にして既に生活上の困難と、社會制度の不合理とを經  
験したことは、彼の鞏固な意志を創り上げると同時に、社會問題に多大の關心を持たしめる  
結果になつた。しかし彼がウィーンの職場を轉々してゐる間に知り得たマルクシズムは、何  
等彼に取つて魅力にならなかつたのみならず、却つて社會民主黨の壓倒的指導下にあつた勞

を代表しない、非ドイツ的土臺に立つものであつて、畢竟議會は責任の歸趨なき饒舌家の舞臺に過ぎなかつた。

更にヒットラーが此のウィーン時代に於て實際に見聞した二つの國民主義的運動があつた。一はシェーネラーの汎ドイツ運動であり、他はリューガーのキリスト教社會運動であるが、此の二運動は若きヒットラーの心を強く捉へ、彼の將來の方向の上に多大の影響を與へたものであるが故に、此の機會に於て暫らく述べなければならぬ。

ヒットラーによれば、ハプスブルグ黨があらゆる手段を以て、ドイツ主義を根絶せんとしたのに對して、ドイツ人の眼を開き、此の慘めな王權の壓制から祖國を蘇らしむべき急務を見抜いたことは汎ドイツ運動の功績である。しかしながらヒットラーがウィーンに出た時には既に此の運動はキリスト教社會運動の勢力に押されてゐた。此處に於てヒットラーは汎ドイツ運動が最初の華々しい登場にも拘らず、忽ち衰へたに反して、一方キリスト教社會黨は非常な勢力を以て發展したのは何故かといふ疑問から、此の二運動、延いて其の首領ゲオル

グ・フォン・シェーネラーとカール・リューガーとの興味ある比較に及んでゐる。故に此處にはヒットラー自身をして語らしめよう。

其の才幹に於ても、根本問題の認識とに於ても、シェーネラーの方が優れてゐた。彼はリューガーよりも遙かに正しくオーストリアの必然的没落の運命を洞察してゐた。しかし彼は人情の機微を察することが出来なかつた。此の點に於てはリューガーに強味があつた。

汎ドイツ運動の目標は理論的には正しかつたが、此の理論的認識を大衆に植ゑ付けることに失敗した。シェーネラーはブルジョア社會の狭い範圍にのみ支持者を見出さうとした。此の大衆の意義の無理解が彼の失敗の原因である。

リューガーは此の點に於て正にシェーネラーと對蹠を爲してゐる。彼はブルジョア上層階級の政治的勢力のみを以てしては、現代に於ては最早新運動の勝利を齎らすに足りないことを知つてゐた。此の故に彼は其の活動の重心を被壓迫階級の上に置くと同時に、舊勢力をも出来るだけ利用する爲に、既存の有力な制度をも全くは排斥しなかつた。これによつてリュ

働者の個人主義的な暴行を嫌惡した。彼は労働者の一般的權利擁護と其の生活改善との手段としての労働組合と、政治的階級闘争の機關としての労働組合との區別を判然と認識したのである。彼は階級闘争を事とする労働組合を、マルクシズムの、國際的ユダヤ人の陰謀の機關と見做して、彼の青年らしい理想から、正面これに反對した爲に、其の仲間から壓迫されて職場を失つたことは一再でなかつた。

同時にヒットラーは民族闘争の國たるオーストリアの首府ウィーンの放浪生活に於て、國の單位は民族でなければならぬことを知つた。オーストリアハングリーの如く多數民族の強制的結合は、畢竟國民の道德心墮落の原因であつて、ドイツは同一血液、同一言語、同一文化の純粹なドイツ民族によつて結成されねばならないと云ふ信念が、彼に取つて不動のものとなつた。

反ユダヤ主義思想を抱くに至つたのも亦、此のウィーン時代である。彼は少年時代にはユダヤ人のことを餘り聞かなかつたし、彼の兩親も此の「選民」の話を、其の子供に聞かせる

ことを努めて避けた。彼が始めて反ユダヤ思想に接したのは、ウィーンで反ユダヤ主義新聞「國民新聞」を通じてであつた。殊に彼のユダヤ人憎惡の念は、偶々ガリシャのユダヤ人の極端な非國家的生活を目撃して強められた。

同時に後に彼の運動のスローガンの一つとなつた反議會主義的傾向も亦、ウィーン時代に芽生へた。一日彼は議事堂の壯麗さに眼を奪はれながら傍聴に出掛けた。其の結果彼が得たものは議員連の無責任に對する嫌惡の氣持以外の何物でもなかつた。其の時の模様を彼は次の嘲笑的な言葉で述べてゐる――

「數百人のこれらの國民代表者は、ある重大な經濟問題討論の爲に出席してゐた。……其の案の内容は辛じて聞き取られる程度の低い聲で討論された。といふのは彼等の中にはドイツ語でなしに、スラヴ語で話す者もあつたから。私は其の時まで新聞で知つてゐたことを目の當り見たのだ。手振り身振りで、様々の國語で叫び合つてゐる連中を見て、私は吹き出さざるを得なかつた<sup>5)</sup>」と。彼の見解によれば、當時のオーストリア議會はドイツ國民大衆の利益

5) Hitler; a. a. O, S. 83.

を代表しない、非ドイツ的土臺に立つものであつて、畢竟議會は責任の歸趨なき饒舌家の舞臺に過ぎなかつた。

更にヒットラーが此のウィーン時代に於て實際に見聞した二つの國民主義的運動があつた。一はシェーネラーの汎ドイツ運動であり、他はリューガーのキリスト教社會運動であるが、此の二運動は若きヒットラーの心を強く捉へ、彼の將來の方向の上に多大の影響を與へたものであるが故に、此の機會に於て暫らく述べなければならぬ。

ヒットラーによれば、ハプスブルグ黨があらゆる手段を以て、ドイツ主義を根絶せんとしたのに對して、ドイツ人の眼を開き、此の惨めな王權の壓制から祖國を蘇らしむべき急務を見抜いたことは汎ドイツ運動の功績である。しかしながらヒットラーがウィーンに出た時には既に此の運動はキリスト教社會運動の勢力に押されてゐた。此處に於てヒットラーは汎ドイツ運動が最初の華々しい登場にも拘らず、忽ち衰へたに反して、一方キリスト教社會黨は非常な勢力を以て發展したのは何故かといふ疑問から、此の二運動、延いて其の首領ゲオル

グ・フォン・シェーネラーとカール・リューガーとの興味ある比較に及んでゐる。故に此處にはヒットラー自身をして語らしめよう。

其の才幹に於ても、根本問題の認識とに於ても、シェーネラーの方が優れてゐた。彼はリューガーよりも遙かに正しくオーストリアの必然的没落の運命を洞察してゐた。しかし彼は人情の機微を察することが出来なかつた。此の點に於てはリューガーに強味があつた。

汎ドイツ運動の目標は理論的には正しかつたが、此の理論的認識を大衆に植ゑ付けることに失敗した。シェーネラーはブルジョア社會の狭い範圍にのみ支持者を見出さうとした。此の大衆の意義の無理解が彼の失敗の原因である。

リューガーは此の點に於て正にシェーネラーと對照を爲してゐる。彼はブルジョア上層階級の政治的勢力のみを以てしては、現代に於ては最早新運動の勝利を齎らすに足りないことを知つてゐた。此の故に彼は其の活動の重心を被壓迫階級の上に置くと同時に、舊勢力をも出来るだけ利用する爲に、既存の有力な制度をも全くは排斥しなかつた。これによつてリユ

ーガーは大なる犠牲的精神と大膽な闘争心とを有する不動の支持者を、没落に瀕しつゝある廣大な中産階級に於て獲得したのである。更に彼は其の賢明なカトリック教會に對する政策によつて、間もなく其の青年僧侶達の支持をも受けることが出來た。しかるに此の運動も亦失敗した。<sup>6)</sup>

此處に於てヒットラーは此の二運動の失敗が今後のドイツ社會運動の上に貴重な教訓を残すものとして、其の失敗の原因の検討に進んでゐる。

彼によれば汎ドイツ運動失敗の原因は次の三點に歸せられる。

第一は社會問題に對する理解の不足である。其の結果支持者はブルジョア層のみに限られた。

第二は大衆の獲得よりも議會闘争を先にしたことである。

第三は國民の精神的要求を無視して、カトリック教と激しく戦つたことである。

これに反してキリスト教社會黨は汎ドイツ運動に於て缺けてゐたものを全部具へてゐた。

6) Hitler; a. a. O., S. 106 ff.



しかし同時にこれは他の缺陷を持つてゐた。即ち

第一に此の運動の反ユダヤ主義は人種的根據に立たずして、宗教的理由から出發してゐた。此の種の反ユダヤ主義運動に對しては、ユダヤ人は久しく慣れ切つてゐた爲に少しも痛痒を感じなかつた。

第二にそれが眞の「國民主義」運動である爲には、ウィーンに運動の重心を置くべきではなかつた。ハプスブルク國家は救はれるには餘りに墮落し過ぎてゐた。しかるにキリスト教社會黨がウィーンを救ふことによつて、オーストリアをも救ひ得ると期待したことは、やがて其の黨自身をも他の墮落的な諸政黨と選ぶところなからしめるに至つた<sup>7)</sup>。

以上の二運動の比較から、ヒットラーは結んで云ふ。

「若しキリスト教社會黨が大衆に對する賢明な認識に加ふるに、汎ドイツ運動の人種問題に對する正しい理解を有し、より國民主義的であつたか、若しくは反對に汎ドイツ運動が其の反ユダヤ主義の目的と國民主義思想の意義との正しい理解に加ふるに、キリスト教社會黨の

7) Hitler; a. a. O., S. 111.

如き實際的賢明さ、殊に社會主義的思想をも具へてゐたとすれば、此の運動はドイツを救ふことに成功してゐたであらう」と。<sup>8)</sup>

此のヒットラーの言葉を見れば、彼自身が後に率ひるに至つた國民社會主義の方向が判然と觀取されるのである。

## 第二節 國民社會主義運動の擡頭と現狀

國民社會主義ドイツ労働黨（以下省略してナチスと呼ぶ）が、大戰終末直後僅か七名のドイツ労働黨から發達し、一九二〇年二月二十四日のミュンヘンに於ける、最初の公開大衆演說會によつて、初めて其の活動が世人から認識されるに至つたものなることは、前節に於て述べた。

此の大衆に對する最初の喚び掛けは確かに成功であつた。「アレスト・リトウスク條約とヴェルサイユ條約」なる演題の下に、ヴェルサイユ條約の不當と、ドイツ國民覺醒の急務とを説

8) Hitler; a. a. O., S. 133 f.

く、火のようなヒットラーの言葉は、完全に聽衆を魅了し去つた。これこそ媾和條件に對して、國民の抱く不滿を公然と叩きつけた第一聲だつたのである。實際聯合國によつてドイツに向つて提示された媾和條件は餘りにもウィルソンの十四ヶ條の原則と懸け離れてゐた。それによればドイツは、エルザス・ロートリンゲン、ザール地方、オイベン、マルメディー、ボーズン、上部及び西部プロシヤの大部分、北シユレジャの一部、即ち領土に於て七萬五千平方キロメートル、人口に於て約六、七百萬人を失はねばならなかつた。其の結果、重要な石炭産地の三分の一、及び鐵礦產地の大部分を失ひ、ドイツの鐵產額は戰前の二割に激減する。更にドイツは其の商船總噸數中の十分の九、爾後五ヶ年間二十萬噸宛を提供し、二ヶ年以内に二百億金マルクを支拂ひ、ドイツ陸軍は十萬以下に制限すること等が要求された。ウィルソンの謂ゆる民族自決權の跡は、事ドイツに關する限り何處にも認められなかつた。しかも國內に於ては革命後の混亂は依然として續き、殊に右翼社會主義派と左翼社會主義派、これに配するに中央黨を初めとするブルジョア諸政黨の抗争は激甚を極めた。流血の慘事はドイツ各都

市で繰返された。一月十六日のリープクネヒトとローザ・ルクセンブルグ虐殺の報は正に此の紛亂の山であつた。此の全國的騷擾に際しても政府は民心の歸趨を示すことが出来なかつたのである。

ヒットラーも「我が闘争」の中で、當時のドイツの情勢を次のやうに述べてゐる。

當時國民は二つに分れてゐた。一は有識階級を含んだ極く少數の國民主義者であるが、彼等は其の思想と目的とを皮相な精神的武器によりて貫かんとした。他はこれに對立する勞働者大衆であるが、彼等は多かれ少なかれ、極端なマルクシズム運動に結び付き、一切の精神的抵抗を暴力によつて破らうとした。彼等は國民全體の利益を忘れて、故意に外國の支配に自己を委ねんとする徒黨であつた。かゝる情勢下にあつてドイツの復興に取つて最も重要なことは、如何にして武器を製造するかに非ずして、如何にして武器を擔ふに足るべき國民を作り上げるかにあつた。<sup>9)</sup>

此處にヒットラーは彼の使命を見たのである。そしてかう云つてゐる――

9) Hitler; a. a. O., S. 364. f.

「故にドイツ國民の政治的權力恢復の問題は、第一に我が國民の自主心の恢復にある。而してそれは一に非國民的大衆を國民主義化することによりてのみ達せられる。

かくて我々は既に一九一九年に、我々の新運動の最高の目的は、大衆の國民主義化にあることを知つたのである。<sup>10)</sup>」

此のドイツ民族の更生をスローガンとする國民社會主義運動が、ヴェルサイユ條約の苛酷さに悲憤し、諸政黨間の無自覺な抗爭と新政府の無力とに失望した大衆に歡迎されたことは當然である。ナチスの勢力は漸次増大した。演說會毎に増加する聴衆は堂に溢れた。

一九二〇年三月十二日、汎ドイツ主義者カップの指導の下にルットウィッツ、エールハルト等の國民主義者によつて興された謂ゆるカップ一揆の際には、ナチスは熱心にこれを支持した。

同年夏初めて國民社會主義運動のシムボルとして黨旗ハーケンクロイツ（鉤十字）が制定された。ヒットラーによれば其の地色の赤は綱領の社會主義的性質を、白は國民主義的性質

10) Hitler; a. a. O., S. 365.

を象徵し、ハーケンクロイツは反ユダヤ主義を表示するものである。

一九二二年五月のロンドン會議は、ロンドン計畫書の名に於て賠償總額を一千三百二十億マルクと決定し、向後三十二年間ドイツは毎年二十億マルク支拂ひ、更に其の外に輸出貿易額の二割六分に相當する金額を支拂ふべきことを決定した。しかし此の負擔は到底ドイツの耐へ得るところではなかつた。當時ドイツの全産業は未だ復興の途上にあり、數百萬の歸還兵は復職の機會なくして街頭に溢れ、勞働者の生産能力は體育的にも道德的にも著しく低下し、頻發するストライキにドイツ産業は悩んでゐたのである。かゝる情勢下にあつて、賠償の重壓は徒らにドイツ經濟混亂を煽るのみである。國民の憤懣は彼等を驅つて、賠償絕對反對を標榜するナチス運動に投ぜしめた。同年にはナチスは既にバイエルに於ける有力な政黨になつた。同時に猛烈な迫害が反對者の手によつて加へられるに至つた。一は社會民主黨とカトリック中央黨との連帯になるバイエル政府の壓迫と、他は共產黨の攻撃とであつた。殊に後者の新聞紙による攻撃と演說會場の攪亂とは次第に激しくなつた。これよりさき、一九

二〇年十二月ナチスは「フェルキシエ・ベオバハター」を買収して黨機關紙とした。又ヒトラーは「暴行に對抗するには暴行を以てする外はない」<sup>11)</sup>と揚言して、さきに會場整理の爲に設けた組織隊(Ordnertuppe)をして、反對者の妨害に當らしめた。現在のナチスの突撃隊(謂ゆるエス・アー、Sturmabteilung)の起源である。

一九二一年十一月二十四日ミュンヘンのホーフブローハウスザールの大集會に於て、突撃隊は會場を襲撃した共產黨系労働者と初めて正面衝突を行ひ、これを撃退した。一九二二年夏あらゆる國粹的團體が共和國保護法に反對して、ミュンヘンのケーニヒブラッツに大聯合示威運動を行つた時、ナチスは六百の突撃隊を參加せしめ、ヒトラー自身は七萬の群集の前で演説し、激勵した。次いで一九二二年十月に國粹團體によつてコーブルグで開催された「ドイツ・デー」には八百の突撃隊が參加した。爾後突撃隊はナチスの宣傳と示威運動との缺くべからざる機關となつた。

一九二二年の初め、ブリヤンに代つて内閣を組織したボアンカレは、ドイツに賠償支拂の

11) Hitler; a. a. O., S. 393.

誠意なしとして、イギリスとの協調政策から強力政策に轉換し、其の結果として、一九二三年一月佛白聯合軍のルール占領が敢行されたのであつた。

戦争直前には年額約九千萬噸の石炭を産出し、ドイツ製鐵業及び染色工業繁榮の源泉たりしルール地方の占領は、恢復を急務とするドイツに致命的な打撃を與へた。殊に此の占領の目的たるや、單に賠償金支拂の強制手段たるに止らず、他方には炭坑や鐵道の管理によつて直接に賠償金を取立てんとするにあつた。よつて佛白兩軍は盛んに石炭、コークスを徵發し、鐵道を強制管理して其の收入を抑へ、國有林を伐採し、其の他工場の製品を沒收した。此の無辜の國民の頭上に課せられた高壓手段は、此の地方の愛國的感情を著しく刺戟した。しかし其の對抗策としての消極的抵抗は失敗に終つた。何となればそれはフランスには何らの痛痒を感じしめざるのみならず、却つて一時的にもせよルール地方の全産業を全く荒廢せしめたからである。必然の結果として全ドイツ經濟は破局的混亂に陥つた。マルク紙幣の暴落と物價の狂騰とは極度に國民生活を脅かした。尤も此のインフレーション的傾向は早くも一九二一



年十一月上旬シュレジャ問題決定の際に始まりかゝつてゐた。假りに當時マルク價下落の上に現はれた數字を示せば左の通りである。

一九二二年五月      一ドル……………六二マルク

八月      /      八四〃

九月      /      一〇五〃

十月      /      一五六〃

十一月      /      一二七〇〃  
(十一月十二日上部シユレジャ問題決定)

次いで一九二二年七月以降、巨額賠償金支拂とマルク爲替投機に加ふるに、ラテナウの暗殺はドイツ政界並に財界に對する不安を高め、マルクは再び左の如く落調を辿り始めた。

一九二二年七月      一ドル……………四九三マルク

八月      /      一一、二〇〇〃

十一月      /      八、〇〇〇〃

此の勢に拍車をかけたものが右のルール占領である。一九二三年一月には對米一ドルにつき四萬マルクの相場は同年十一月中旬には一ドルに付き四萬二千億マルクと云ふ驚くべき暴落を示し、マルク紙幣の國內價值もそれに準じ、マルク紙幣は文字通り反故化したのである。

ゼームス・エンゼルは當時のドイツ一般國民の窮乏を指摘して云ふ「ドイツ人の大部分に取つて恐ろしい受難と絶望の時期であつた。此の五年間を通じて彼等は飢餓と隣合せに住み、彼等の貯へは飛び去り、彼等の商品は翌日の僅かな食物の代償として消え去つた。大工業家、金融資本家、投機者、地主等の少數の繁榮は、一般國民の困惑と窮乏との上に何物も齎らさなかつた。此の時代に國民の健康と力とは甚だしく損はれた。同時に心理狀態も必然的に惡化し、國民道德は此の苛酷な條件が課せられた時には正に最低に達した」<sup>12)</sup>

此の混亂の結果ラインランドには分離運動さへも起り、此の前後はドイツに取つて最も憂ふべき存亡の秋であつた。

此の消極的抵抗の失敗から八月十二日クノー内閣は瓦解し、シュトレーゼマンがこれに代

12) James W. Angell; The Recovery of Germany, p. 57.

り九月其の中止を命じた。ヒットラーはクノーの此の失敗を次の如く嘲笑してゐる——「ドイツに取つての一つの禍は、此の商人たる政治家クノーが政府を企業と見做し、企業として取扱つたことである。『フランスはルールに石炭があるから占領したのではないか？』故にクノー氏に取つては、ストライキの敢行によつて、フランスが石炭を獲ることが出来なくなれば、企業の利潤が無くなつた結果として即刻に撤退するだらうと考へたことに少しも不思議はない。<sup>13)</sup>」

民衆の憤怒と絶望とは其の極に達した。何人かゞ起たなければならぬ。ヒットラーは叫んだ、「國民は犠牲によつてのみ救はれるのだ！」と。

一九二三年十一月八日、ドイツ革命五週年記念日の前夜、ヒットラーは將軍ルーデンドルフと共に、ミュンヘンのビュルガーブローイ・ケラーに於て、バイエル政府首腦者、即ち統治者カール、首相クニリーング、第七師團長ロツソー、警視總監ザイサー、高等法院長ボエナー等と語らひ、「十一月制度の終末とドイツ國民假政府の樹立」とを宣言した。しかし此

のドイツ國民假政府はカール、ロツソー、ザイサー等の裏切りの爲に脆くも失敗し、ヒットラーは逮捕され、ナチス本部は完全に攪亂され、機關紙の發行は禁止された。

翌年三月彼は禁錮五ケ年、六ヶ月後保釋の判決を受けて、ランヅベルグの獄に下つた。

此のミュンヘン一揆は一時ナチス運動を根絶せしめたかに見えた。しかしヒットラーの植ゑ付けた國民主義の種は益々根強く生長しつゝあつた。一九二四年十月獄中で書いた「我が闘争」の一卷を抱いて出獄した彼は、間もなく其の勢力を恢復した。

一九二八年五月のドイツ總選舉には八十萬九千の得票を以て、議會に初めて十二の議席を獲得した。ナチスの議會闘争は正に此の時から始まる。

各聯邦議會に於てもナチスは目覺ましい躍進を續け、就中チュリンゲンに於ては、一九三〇年一月人民黨とナチスとの聯立内閣が成立し、ナチス黨員フリックが内務大臣として入閣した。

一九三〇年ヤング案の成立は再度國民を刺戟した。受諾か拒絶かの問題に付いて、國論が

沸騰した。其の成立を迎へた、謂ゆるワイマール憲法擁護派に對して、ナチスはフリーゲンベルグの率ゐる國權黨、デュスターベルグの鐵兜團と提携して、受諾反對運動を起して、六百萬の支持者を得た。

ナチスのヤング案反對の態度が、如何に當時の人氣に投じたかは、同年九月十四日の總選舉の上に競面に表はれてゐる。即ち此の選舉はナチスをして六百萬の得票と、一〇七の議席とを獲しめ、ナチス運動發展の上に一時期を劃した、極めて重要な意義を持つものなるが故に、それに基く各政黨の分野を掲げよう。

### 三五選舉區

#### 議席數

五七七

#### 選舉權者數

四二、九八二、九一二

#### 投票者數

三五、二二四、四九九

#### 有效投票數

三四、九五六、四七一

#### 各政黨當選者數並に得票數

## 第二章 國民社會主義運動

四〇

獨逸社會民主黨

一四二

八、五七五、二四四

國民社會主義獨逸勞動黨

一〇七

六、三七九、六七二

中央黨

六八

五、一八六、六三七

バイエル人民黨

一九

獨逸共產黨

七七

四、五九〇、一六〇

獨逸國權人民黨

四一

二、四五七、六八六

獨逸人民黨

三〇

一、五七七、三六五

經濟黨

二三

一、三六一、七六二

獨逸國家黨

二〇

一、三二二、〇三四

獨逸農民團

二〇

一、一〇八、〇四三

キリスト教社會人民奉仕團

一九

八六八、二六九

獨逸農民黨

六

一、〇七三、五一六

農民同盟

四

ハンノヴェル黨

四

人民保守黨

三

四五七、〇八三

ヤング案の實施によつて一應賠償問題は解決したものゝ如く信じられた。しかしながら戦債並に賠償問題は世界經濟機構の上に於ける痛である。就中ドイツに取つて賠償金支拂の唯一の途は外資の借入によつて國內産業を繁榮せしめ、外國貿易の伸張を計るにあつた。其の結果はドイツの經濟機構に於ける基礎を益々脆弱ならしめた。一九三〇年末ドイツの短期外資總額は百三億マルクに達した。其の前年十月ニューヨーク株式市場の破綻に次ぐ世界經濟恐慌の深刻化は、此の脆弱な基礎に立つドイツ金融財政の上に最も直接的に反映した。加ふるに國內政治的不安があり、アメリカを初め、イギリス、スイス、オランダ等の債權國は資金を續々と引き揚げ始め、七月初めには十四億マルクを割る形勢になつた。かゝる情勢下にあつてフーヴァーのモラトリウム聲明は却つてドイツへの危惧を深めしめることにしか役立たなかつた。七月十三日のダナート銀行破綻に端を發して、ドイツは激しい金融恐慌に襲はれた。他面に於て近年國際貿易上の傾向たる各國の關稅の障壁は、ドイツ輸出貿易を不振ならしめ、これらの原因が相俟つて國內産業を壓した。必然の結果として失業者は増大し、一

九三二年の初めには其の數六百萬と推算された。ブリューニングを首班とする中間聯立内閣は此の難局に處すべく餘りに無力であり、それだけに國內政局を不安ならしめた。緊急令に次ぐに緊急令を以て時局を彌縫せんとしたが、民意は既に中間社會主義から離れ、國民大衆は右翼國民主義か、左翼共產主義かに奔つた。

一九三一年十月十一日のハルツブルグに於ける國民社會黨、國權黨及び鐵甲團の右翼諸團體の聯合による「國民反對派」の示威運動は、正に此の無力無策な聯立内閣に對する挑戦であつた。他面には金融資本の桎梏からの解放、ヤング案廢棄、失業者救済等の共通の問題を挾んで左右兩政黨の對立は尖鋭化し、一步誤れば市民戰爭にまで進展すべき危機を醸し出した。

一九三一年秋、相次いで行はれた各支分國議會選舉の結果は、中間諸派の益々急激な顛落と、國民社會黨並に共產黨の對立激化を物語る以外の何物でもない。就中國民社會黨はあらゆる地方選舉に例外なしに目覺ましい躍進の跡を示してゐる。



次いで本年一月のリッペ＝デットモルド、メクレンベルグ＝シュテレリッツ、及び四月のプロシヤ、バイエル、ウエルテムベルヒ、ハムブルグ、アンハルトに於ける選舉の結果も亦同斷である。殊に特記すべきは、共和國成立以來社會民主黨の牙城であり、且つドイツ政界の死命を制するプロシヤ議會に於て、國民社會黨は前回の六名から一躍百六十二名を獲得して、社會民主黨を蹴落したことである。

これに先立つ二月十三日の大統領選舉に於てはヒットラー自ら出馬した。

ヒンデンブルグ

一八、六六一、七三六

ヒットラー

一一、三三八、五七一

テールマン（共產黨）

四、九八二、〇七九

デュターベルグ（鐵甲團）

二、五五七、八七六

ウインター（革命黨）

一一一、四五六

右の結果を以てしてはヒンデンブルグの得票はなほ憲法規定の絶對多數に達しなかつた爲

に、次いで四月十日決選投票が行はれた。

ヒンデンブルグ

一九、三六七、六八八

ヒットラー

一三、四一九、六〇三

テールマン

三、七〇五、八八九

此の結果ヒットラーは落選したが、共產黨のテールマンを約一千萬票の大差を以て引き離した。

當時中間派諸新聞紙は右の結果を以て、穩健派の勝利なりとして、内政的安定と、協調的外交政策を維持するものとしてヒンデンブルグの勝利を祝福した。果してさうだつたらうか？

其の翌日早くもブリュニング内閣は失業問題解決策としての土地管理案に關聯して瓦解し、それに代るバーベン内閣の下で、七月三十一日聯邦議會總選舉が行はれた。其の結果は左の通りである。

國民社會黨	二三〇	一三、七三二、七七九
社會民主黨	一三三	七、九五一、二四五
共產黨	八九	五、二七八、〇九四
中央黨	七五	四、五八六、五〇一
バイエル人民黨	二二	一、一九〇、四五三
國權人民黨	三七	二、一七二、九四一
獨逸人民黨	七	四三四、五四八
國家黨	四	三七一、三七八
經濟黨	一	一四六、〇六一
農民團	一	九一、二八四
キリスト教社會黨	四	三六四、七四九
農民黨	二	一三七、〇八一
ウユルテンベルグ農民黨	二	九六、八五九

かくの如く國民社會黨は前回の二倍以上、即ち二百三十の議席を擁して、第一黨になり、

聯邦會議議長はナチス派のゲーリングが選ばれるに至つた。

最初バーベン内閣が成立した時、其の背後にナチスの有力な支持があるものと一般に信じられてゐた。しかるに八月十三日の組閣問題に關する政府とナチスとの交渉決裂以後、兩者は激しく對立するに至つた。此のバーベン對ヒットラーの乖離の結果は、政府のナチスに對する彈壓となつて現はれ、ナチスの突撃隊の如きは屢々苛酷な騷擾鎮壓令及び死刑令によつて其の活動を拘束されるに至つた。九月四日經濟振興を目的とする謂ゆるバーベン經濟計畫に關する緊急令が公布されたが、大膽な戻稅制度を骨子とする此の案は、左翼からは有産者を保護するものと見られ、右翼からは社會化への道程なりと非難された。同月十三日此の問題を中心として共產黨から内閣不信任案が提出され、騷擾裡に議會は解散された。次いで十一月六日に行はれた總選舉の結果は左の通りである。

新

舊

社會民主黨	一二一	一三三
共產黨	一〇〇	八九
中央黨	七〇	七五
バイエル人民黨	一八	二二
國權人民黨	五〇	三七
獨逸人民黨	一一	七
國家黨	二	四
キリスト教社會黨	五	五
經濟黨	二	二
農民黨	六	二
ハシノヴェル黨	一	一

此の内注目すべき現象はナチスが三十五名を減じたるに拘らず、共產黨は十一名を増加したことである。しかしながら此の結果を以て直ちにナチス衰退の兆と、共產黨進出の希望とを示すものだと斷定することは早計である。蓋し今回のナチスの減少はバーベン・シユライ

ヘルの壓迫の下に右翼政府黨たる國權黨に蠶食されたと信すべき理由があると同時に、他面共產黨の増加も社會民主黨の犠牲に於てのみ得られたものだからである。

以上述べた如くナチスは今日まで正に驚異すべき急テムボを以て發展し、今や其の動向は單にドイツ國內のみならず、世界の視聽を集めてゐる。とは云へナチスは現在まで一絲亂れず、坦々たる途を歩いて來た譯ではない。他のあらゆる團體、運動がさうである如く、ナチス陣營内に於ても、感情の齟齬、救ひ難い意見の對立があつた。其の顯著な例は一九三〇年春のオットー・シュトラッサー一派の革命的國民社會黨の樹立、シェリングアース中尉以下五名の共產黨への轉向、一九三一年四月のシュチンネスの除名等である。

ナチスが將來如何なる運命を擔ふべきか、何人も豫斷し得ないところであるが、失業問題、軍備制限撤廢問題、對議會問題、等々の重要問題を廻つて愈々激化さるべき共產黨との對立、乃至はシュライヘルによつて代表されてゐる軍閥との關係に於ける將來のナチスの動向こそは、尠なからず我々の關心をそゝる問題である。

## 第二節 國民社會主義運動の綱領

一九二〇年二月二十四日のミュンヘンに於ける最初の大衆演說會に於て、二十五ヶ條のナチスの綱領が發表されたことは前に述べた。此の綱領こそはナチス運動の指針を爲すものであるから、此處に其の全文を掲げやう。

### 國民社會主義ドイツ労働黨綱領

ドイツ労働黨綱領は暫定的綱領とす。但し指導者は、將來生すべき大衆の不滿に基き黨存續を可能ならしむる目的を以てする外は、本綱領に於ける目的達成後と雖も、新たな規定を加ふることを禁止す。

一、我々は各民族自決權を基礎として、一切のドイツ人が大ドイツの下に團結することを要求す。

二、我々は他國民に對するドイツ國民の平等の權利を要求す。此の故を以て我々はヴェルサイユ平和條約とサン・ゼルマン平和條約との廢棄を要求す。

三、我々は我が國民の扶養と、我が過剩住民移住との爲に土地（殖民地）を要求す。

四、國民たり得る者はドイツ人のみとす。ドイツ人たり得る者は、宗教の如何を問はず、ドイツ民族のみとす。故にユダヤ人は總てドイツ人たることを得ず。

五、國民たらざる者は、單に外來者としてドイツに居住する權利を有すると共に、外人法の適用を受くべき義務を有す。

六、國家の行政と立法とを決定する權利は國民にのみ賦與すべし。故に我々は國家、聯邦、市町村を通じて、各種の官公職は國民のみに與へらるべきことを要求す。

我々は個人の性能を無視し、黨略のみを以て官公職を獨占する腐敗的議會政治を克服す。

七、我々は國家が國民の營業と生活との安全保護を以て第一の義務と爲すべきことを要求す。國家の全住民の生計維持困難なる時は、外國人を國外に放逐すべし。



八、ドイツ人ならざる者の將來の移住を禁止す。我々は一九一四年八月二日以後ドイツに移住したる一切の非ドイツ人の即時國外退去を要求す。

九、あらゆる國民は平等なる權利義務を保有すべし。

一〇、各國民の第一の義務は心身を健全ならしむる點にあり。個人の活動は全體の範圍内に於て、専ら萬人の利益を計るを目的とし、決して全體の利益に衝突すべからず。此の故に我々は次の條項を要求す。

一一、不勞所得の廢止。  
利子奴隸制の打破。

一二、一切の戰爭に基く財産と生命との莫大なる犠牲に對比すれば、戰爭による個人的致富は國民に對する犯罪と見做さざるを得ず。故に我々は一切の戰時利得の完全なる沒收を要求す。

一三、我々は一切の（從來）既に社會化されたる企業（トラスト）の國營を要求す。

一四、我々は大企業に於ける利益參加を要求す。

一五、我々は大規模の養老制度の確立を要求す。

一六、我々は健全なる中産階級の創設と其の維持、百貨店の即時共有化、及び小營業者に對する其の低廉なる貸與、並に國家、聯邦、市町村に對する販賣の際に、一切の小營業者に優先權を與ふべきことを要求す。

一七、我々是我々の國民主義的要求に合致せる土地改革、共同利益を目的とする土地の無償沒收に關する法律の制定、地代の廢止、一切の土地投機の禁止を要求す。

## 註 釋

ナチスの綱領第十七條に對して反對者側から曲解せる解釋を加へられる結果として次の如き説明を加へねばならない。

黨は私有財産制の基礎に立つが故に「無償沒收」なる言葉は法律の制定に俟つべき

ことは云ふまでもない。不法に獲得され、又は國民の幸福の見地から管理されない土地は、必要に應じて沒收せねばならない。このことは第一にユダヤ人の土地投機會社に向けられる。

一九二八年四月十三日

ミュンヘン、アドルフ・ヒットラー

一八、我々は共同の利益を阻害するが如き行動を爲す輩に對して、斷乎たる鬭爭を行ふべきことを要求す。公民に對する犯罪者、高利貸、買占人は、其の信教、人種の如何を問はず死刑に處せらる。

一九、我々は唯物論的世界秩序に味方するローマ法をドイツ共同法を以て補正することを要求す。

二〇、一切の有能にして勤勉なるドイツ人に教育を授け、指導的地位に就かしむる目的を以て、國家は全國民教育制度の根本的改革を立案すべし。百般の教育機關の教育原則は實生活上の要求に合致せざるべからず。國民思想の培養は教授（國民學）開始の當初に於て爲す

べし。我々は其の身分職業の如何を問はず、國費を以て貧困なる父兄の子弟に特に必要なる精神教育を施すことを要求す。

二一、國家は母子の保護、幼年勞働の禁止、體操及びスポーツの義務の立法制定による身體鍛練の實施、一切の健全なる青年教育團體に對する最大の援助、によつて國民の健康を増進せしむべし。

二二、我々は傭兵隊の廢止と國民兵の完成とを要求す。

二三、我々は故意の政治的僞瞞と、其の新聞紙による流布とに對する鬭爭を要求す。

ドイツ新聞紙の創刊許可に關し、我々は左の條項を要求す。

a、ドイツ語を以てする新聞紙の編輯者、及び其の協力者は總てドイツ人たることを要す。

h、ドイツ以外の新聞紙の販賣は國家の許可を要す。右の新聞紙はドイツ語を以てするを得ず。

c、非ドイツ人のドイツ新聞紙に對する金融上の援助、又は干涉は法律を以て禁止し、これが違反の罰則として、該新聞紙の發賣禁止、及び關係外國人の即時國外追放を要求す。

共和國益に反する新聞紙は禁止す。我々は國民生活上有害なる藝術、及び文學の法律的禁止と、これに違反せる機關の閉鎖とを要求す。

二四、我々は國家に於ける、あらゆる信教の自由を要求す。但し國家の存立を害せず、又は「ドイツ人種の道德觀に反せざるを以て條件とす。

我が黨は宗教的に一派に拘束されることなく、既成キリスト教を以て其の立場とす。黨は我々の内外に於けるユダヤ的唯物論的精神を克服すると共に、我が國民の永遠の強化は左の原則により、専ら内部より達せらるべきことを確信す。

私益に對する公益の優先。

二五、以上の諸原則遂行の爲に、我々は國家の強力なる中央權力の確立、國家全體に對す

る政治的中央議會の無條件の權威と、其の一般的組織とを要求す。

國家に委任されたる範圍内の法規實施の目的を以てする身分階級會議、職業階級議會の創設。

黨指導者は以上の條項實施貫徹の爲、必要あらば生命を捧げることを辭せず。

一九二〇年二月二十四日

ミュンヘン

此處に見るが如く此の綱領は、あらゆる政治的、經濟的、文化的政策について網羅的に體系付けられたものでもなく、其の要求事項の配列も整然としてゐない。しかるに一九二六年五月二十二日のナチス總會の席上に於て、「此の綱領は不變である」ことが宣言された。蓋し其の謂は、フエーダーの言を以てすれば、言葉の變更や、各條項の意義徹底化の爲の補正をも禁止するといふ意味に非ずして、其の根本精神を變更してはならないといふにある。<sup>14)</sup>故にそれは四圍の情勢の變化によつて、適宜な變革補正の加へられることは必要でもあるし、又當然期待されなければならない。

14) Gottfried Feder; Das nationalsozialistische Programm, S. 11.

ナチスの陣營内に於ても、此の綱領の不備缺陷は夙に認識されてゐるところであり、随つてフェーダーの如きはこれに對する補足案として次掲の綱領案を作成した。勿論これは其の根本精神に於てナチスの綱領を一步も出でゐないが、其の補足乃至衍衍として、ナチスの行はんとするところを、より明瞭に示してゐるやうに思はれるが故に、此處に其の全部を掲げやう。

## ナチスの國家及び經濟綱領

### 一、國家政策的原則

ドイツ國家はドイツ人の故郷なり。

#### a、外交政策

1、一切の階級のドイツ人を包含せる統一的國民國家の確立。

2、外國に於けるドイツの利益の有力なる代表。

#### b、人種政策

- 3、ユダヤ人及び、あらゆる非ドイツ人の公的生活上に於ける責任ある地位よりの排斥。
- 4、東方ユダヤ人、其の他の寄生的外國人來住の禁止。益なき外國人並にユダヤ人は排斥せざるべからず。

c、國民政策

- 5、ドイツ文化及び運命を共にすべきドイツ人のみが、國民の權利を享有することを得。

- 6、ドイツ人にあらざる者は、ドイツ外客として外人法に服従すべし。

- 7、ドイツ人の權利と要求とは、外國人のそれに優先す。

二、經濟政策の原則

國民經濟の課題は需要供給に存し、金融資本をして最高の利得を爲さしむべきものに非ず。

- 8、國民社會主義は原則として私有財産制を承認し、且つそれを國家の保護下に置く。



9、但し國民全體の幸福の見地より、個人の手に集積すべき富に關しては一定の限度を置く。

10、一切のドイツ人は全體の幸福と文化との促進を目的とする團體を構成す。

11、一切のドイツ人は、かゝる一般的勞働の義務の範圍と、私有財産制の根本的承認との下に於て、自由なる營業の能力と、自由なる勞働所得の處分權とを享有す。

12、農業をも含む經濟生活の全領域に互り、小、中、大の經營を適宜に混合せしむべし。

13、從來既に社會化されたる事業は總て國有化すべし。

14、暴利、奸商並に國民の費用と犠牲とに於て、顧慮なく利己的富を追求する者は死刑に處せらる。

15、一切のドイツ人に對する勞働義務年限の制定。

### 三、金融政策の原則

貨幣制度は國家の支配下に立ち、金融力を以て國家内に國家を立つることを得ず。故に我

我は利子奴隷制の打破を企圖す。右の目的達成の手段は左の如し。

16、國家及び國民をして大金融資本に對する利拂義務より解放すること。

17、ライヒスバンク及び發券銀行の國有化。

18、一切の大公共事業（水力の利用、交通路の開発等）に於て資金調達を爲すには、無利子の國庫證券發行の方法を以てし、借入金の方法を回避すべきこと。

19、保證準備を有する幣制の確立。

20、無利子貸附を目的とする官公立建築産業銀行の創設（幣制改革）。

21、社會的國民經濟的原則に基く税制の根本的改革（税制改革及び免稅）。

#### 四、社會政策的原則

22、終身年金制度の國有化による大規模の老年保險の確立。一切の急迫せるドイツ人に對し、一定の年齢、又は永久的營業無能力に應じて相當額の年金を支給す。

23、生産事情に従事する總ての者が、其の能力と年齢とに應じて、國民經濟的使命遂行

の爲に共同の責任を以て、其の事業に参加し、且つその収益に参加せしめらる。

24、名譽ある勞働に基かざる戰時並に革命時の利得、及び貪慾と暴利によつて得たる財産を沒收し、これを社會事業建設に使用する。

25、第二十項に基き新設されたる公共的建築産業銀行によつて、全國的な住宅新設によつて住宅難を緩和す。

## 五、文化政策の原則

政治的に自由にして、經濟的に健全なる國家の基礎に於ける、一切の科學と藝術との興隆を以て我々の最高の文化的使命とす。此の目的の爲に左の事項を要求す。

26、偉大なるドイツ精神生活の傳統によつて、肉體的に健全にして、精神的に自由なる青年の育成。

27、完全なる信教と良心との自由。

28、キリスト教の信條告白に對する特別なる保護。

29、ドイツの道德感に矛盾し、且つ國家及び國民の阻害を内容とするが如き宗教の壓迫。

30、有害なる著作、新聞紙、著書、藝術、演劇等の禁止。

31、ドイツ高等專門學校に於ける教授の自由、及び特殊技能ある指導的階級の養成。

## 六、軍事政策の原則

32、總ての自由なるドイツ人に對する武裝許可による國民の防衛。

33、傭兵制度の廢止。

34、嚴格なる階級的訓練を基礎とする專門將校團の下に於ける祖國防衛の爲の國民軍の編成。

## 七、其の他の諸改革

35、新聞制度の改革。ドイツ國民の要求に背馳する一切の新聞紙の發禁。虛偽又は故意に歪曲せる報道に對する最大の責任。

36、甚だしく頽廢せる現行選舉運動並に被選舉者の無責任（責任免除）の除去による選舉法の改革。

37、職業代表會議の創設。

38、土地所有權——（土地所有權の原則的承認、個人的資本による土地金融の不許可、特に外國人及びユダヤ人に對する國家の先買權、不注意に管理されたる土地の國家的強制管理）

民法改革——（財産の一方的保護に對する現行法律に對し、個人的名譽、其の健康のより嚴重な保護）

39、國 法 改 正

國家的形態——ドイツの本質に合致せる政體は、最高の首長の下に統一されたる國民主義的統治制度なりとす——此の首長が國民選舉君主か、大統領かは後の國民投票に一任す。聯邦制度——相互に異なる起源と歴史とに基き、鞏固なる內的結合によるドイツ國家

は、當然各支分國の廣汎なる内政的自治權によつて制限す。

聯邦國家の任務は、旅券、關稅、及び陸海軍の對外的ドイツ國民の代表にあり。

以上の綱領の全部について論評することは差當り本書の目的でもなく、其の閑暇もないが、其の主要なものに付いては後に逐次説明しやう。

## 第四節 ナチスの構成分子

一九一九年には僅々七名の黨員を擁した「ドイツ勞動黨」から僅かに十三年後の今日、中央議會に於て二百二十九の議席を獲得して最大多數黨になり、過般の大統領選舉には一千三百四十萬票の支持を得たナチスの躍進の跡を辿れば、正に驚歎する外はない。

然らば此の加速度に増大したナチスの勢力は何處から來たか、又如何なる階級層の支持によるものであるか、これを研究することが本節の任務である。

詳細な數字を以て論證することは困難であるが、フランクフルター・ツァイツング紙は第一

回のナチスの躍進を物語る一九三〇年九月十四日の總選舉の結果に付いてかう述べてゐる。

「以上の選舉の結果の分析によつて、社會主義的二政黨は其の舊勢力を維持した。此の二政黨の勢力は一九二八年の議會に於ける四二・二％に對して一九三二年には三八・二％である。勿論これは一見すれば、衰退を物語るやうであるが、議員の絶對數は却つて十二名（二百七名に對する二百十九名）を増大した。このことは此の二政黨が最初から其の選舉民をよく動員し得た證左である。……これに反しナチスの勢力は一九二八年に既に殆んど動員し盡されてゐた。それ故に一九三〇年に於ける議員の増員（四百九十二名に對する五百七十六名）は大部分他のブルジョア諸政黨の占める所となつた。ナチスの勢力増大が大部分無產黨以外の諸政黨の犠牲によるものなることは、二、三の比較數を擧げるだけで證明される。例へばナチスが最も多くの支持を得たのは、ホルシュタインの二七％、ボムメルン、プレスラウ、南ハンノヴァーの二四・二％、バルツ、フランクフルト・アン・デア・オーデル、フランケン、東プロシヤ、メクレンブルグ、ウェーザー＝エムズ、東ハンノヴァーの二〇％強であ

る。これに對して南北ウエストファーレンでは一二%及び一三・八%、ベルリンでは一二・八%、ライプチッヒでは一四・一%である。故にナチスは社會民主黨及び共產黨の犠牲に於ては、中間諸政黨の犠牲によつて其の得票を増したのである。而してこれらの中間諸政黨は直接に其の從來の支持者を失つたのみではなく、新有權者の支持をも失つたのである。」更に云ふ、――

「勿論ヒットラーの勢力は今日の客觀的狀勢から推せば、未だ其の頂點には達してゐない。世界經濟恐慌の嵐のたゞ中に、賠償の重壓に喘ぐドイツ民衆は、其の生活の窮迫が高まるに従つて何らかの制度の變革を求め、其處に逃避せんとする願望が熾烈である。其處にナチスの勢力扶殖の餘地がある。

其の基礎は二千百萬の無產勞働者の存在である。一九二五年の統計によれば、右の二千百萬の勞働者中一千五百萬は狹義の勞働者であり、五百五十萬は銀行會社の使用人及び下級官公吏である。更に他方に小商工業者の群がある。此のプロレタリア大衆群に對して謂ゆる資



本家の數は抑々其の何パーセントに當るか？　しかるに現在のドイツ政黨の分野は毫も此の社會的階級層を反映してゐない。即ち前掲の一九三〇年九月の總選舉には、約八百五十萬の社會民主黨、約四百五十萬の共產黨の得票があつた。合計一千三百萬票、これだけがプロレタリア團體の得票の全部で、残りの多數勞働者は社會主義的諸政黨に反對だつたと見なければならぬ。

故に從來はナチスはこれらマルクシストから得票を奪はずとも、五百五十萬の使用人、五百五十萬の小商工農業者を味方にすればよかつたし、また事實上も此の階級こそがナチスの中心勢力であつた」と。

かくてフランクフルター・ツァイツング紙は少くとも一九三〇年の選舉に於ては、ナチスは無產黨の陣營に喰ひ込み得ず、其の増加は一に中間諸政黨の犠牲と、新有權者たる青年の支持とに俟つものだと結論してゐる。

又ハンス・イエーガーはローテ・アウフバウ誌上<sup>15)</sup>に於て、右選舉の結果によるナチス陣營

15) Hans Jäger ; Der Rote Aufbau, III. Jg. 1930, Heft 10, 529/35.

を左の階級群に分類してゐる。

ナチス得票數

ブルジョア	六、三四〇、〇〇〇
中産階級	三二五、〇〇〇
農民	一、七九〇、〇〇〇
勤人	一、一三〇、〇〇〇
労働者	一、七四〇、〇〇〇
	一、三五五、〇〇〇

そしてイエーガーは右表の中で、労働者は大部分新有権者たる青年労働者だと云つてゐる。勿論イエーガーは左翼的反對側から見たものであつて、右の數字に絶對的公平さは認められないとしても、此の表に於て觀取されることは、中産階級（イエーガーは中小商工業者を指すのであらう）、觀念上中産階級に屬すべき勤人及び農民に大部分の支持を得てゐる事である。

以上は一九三〇年九月總選舉の結果によるものであるが、其の後の地方選舉を資料とし

て、ウエルナー・シュテファンはツァイトシュリフト・フュア・ポリチーク誌<sup>16)</sup>上で興味ある研究を發表してゐる。

第一に彼は一九三一年の秋に行はれた各支分國議會選舉の結果を、其の地方の經濟的、宗教的事情によつて左の四群に分けた。

## 第一群

ナ チ ス アルジョア諸政黨 社會主義諸政黨	アラウンシュワイグ		アンハルト		シャウムアルグーリッペ	
	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一
	二六・六	三〇・〇	二〇・四	三六・三	一八・一	二七・〇
	二六・一	二〇・九	三〇・三	一七・一	三〇・五	二二・〇
	四七・三	四九・一	四九・一	四六・五	五一・四	五一・〇

これらの北方諸國は九五乃至九九%まで新教徒であり、經濟的には農業が最も發達して

16) Werner Stephan; Zeitschrift für Politik, Dezember. 1931, Mai, August, 1932.

るが、工業も相當繁榮してゐる。而して此の地方ではナチスはブルジョア諸政黨の犠牲に於て勢力を増加し、社會主義諸黨は舊勢力を維持した。

## 第二群

ナチス ブルジョア諸政黨 社會主義諸政黨	メクレムアルグーシユウエーリン	
	一九三〇	一九三一
	二一・八 三六・四 四一・八	四一・〇 一八・五 四一・八

此の地方も亦新教徒が多く、主として農業が行はれたるが、同じくナチスは中間諸政黨の得票を奪つて二倍の勢力になつた。

## 第三群

ナ チ ス アルジョア諸政黨 社會主義黨	ハムブルグ		ブレーメン	
	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一
	一九・二	二六・二	一二・〇	二五・六
	二九・三	二二・九	四〇・一	三〇・二
	五〇・〇	四九・五	四五・五	四二・一

これらのハンザ諸都市は新教徒であつて、商工業が盛んに行はれてゐるが、ナチスの勢力は他地方に比して甚だしく微弱であるに反して社會主義プロックは甚だ強力である。

#### 第四群

ナ チ ス	ヘッセン		オルデンブルグ	
	一九三〇	一九三一	一九三〇	一九三一
	一八・五	三七・一	二七・三	三七・三

アルシヨア諸政黨	二七・五	一〇・六	二六・九	一六・九
中央黨	一三・九	一四・三	一七・一	一七・六
社會主義黨	四〇・一	三八・〇	二八・七	二八・二

此の地方ではカトリック舊教が二三乃至三一%を占め、ヘッセンでは農工業が行はれ、オルデンブルグは主として農業地であるが、ナチスは後者に於ては前者程勢力を増大し得なかつた。此の地方で特殊な地位にあるのはカトリック教徒の支持する中央黨であつて、其の勢力は却つて増大した。このことはナチスがカトリックの支持を得なかつた證左である。

第二に彼は一九三二年四月二十四日に於けるプロシヤ、バイエル、ハムブルグ、アンハルトに於ける選舉及び三月のリッペーデットモルド、一月のメクレムブルグ・シユテリッツの選舉の結果を左の通り分類してゐる。

# 第一群

社會主義諸政黨	プロシヤ	
	一九三〇	一九三二
中央黨	三七・三	三四・四
ナチス	一四・七	一五・三
其他	一八・五	三六・二
其他	二九・五	一四・一

プロシヤは工業地方であり、大部分新教徒であるが、なほナチスは其の勢力を倍加した。

# 第二群

社會主義諸政黨	パイエル		ウウルテムベルヒ	
	一九三〇	一九三二	一九三〇	一九三二
社會主義諸政黨	二六・八	二二・三	二九・九	二五・九

中 央 黨	ナ チ ス	其 の 他
三一・一	一七・九	二四・二
三二・六	三二・五	一二・六
二〇・五	九・四	四〇・二
二〇・五	二六・四	二七・二

此の南獨二州は三分の二は舊教徒であり、宗教的色彩が極めて濃厚であると共に、農民の勢力が大である。従つて此の地方に於ては中央黨の勢力は牢固として動かし難く、他の政黨の勝敗は一に農民の向背によつて決定されるのであるが、ナチスは此の地方に於ても躍進の跡を示してゐる。

## 第三群

中 央 黨	社會主義諸政黨	ハム ブ ル グ	ア ン ハ ル ト
一・五	五〇・〇	一九三〇	一九三二
一・四	四六・七	一九三二	一九三〇
一・二	四九・三	一九三二	一九三二
一・二	四四・〇		



ナ チ ス アルジョア諸政黨	一九・二二 二九・三	三一・三 二〇・六	二〇・四 二九・一	四〇・八 一四・〇
-------------------------	---------------	--------------	--------------	--------------

此の北部二州は商工業地で新教徒が大部分であるが、なほ社會主義諸黨が最も勢力を占めてゐる。

#### 第四群

社會主義諸政黨 ナチス アルジョア諸政黨	リフベールデットモルド	メクレムアルグーシュテリッツ
	一九三〇 一九三二	一九三〇 一九三二
三九・三 二二・四 三五・五	三九・二 三〇・七 二七・六	四〇・五 二二・六 三六・九
		三六・二 二三・八 四〇・〇

此の北部農業二州は殆んど新教徒であつて、ナチスは國權黨の犠牲によつて僅かに其の

得票を増してゐるに過ぎない。

第三に彼は本年六月の國會總選舉の結果を左の如く示してゐる。

	一九三〇	一九三二
ナチス	一八・三	三七・三
ブルジョア諸政黨	二八・九	一〇・六
中央黨	一四・八	一五・七
社會主義諸政黨	三七・六	三六・一

以上の諸選舉の結果の分析に基いて、シュテファンの結論せんとすることを總括すれば、大略次の四點に歸着する。即ち

- 一、ナチスは宗教的にはカトリックの支持を得ないこと。
- 二、社會主義諸政黨は膨脹はしなかつたが、舊勢力を維持したこと。
- 三、就中ナチスは工業地方に於ては甚だしい躍進を遂げ得なかつたこと、及び其の結果と

して

四、ナチスの勢力増大は主としてアルジョア諸政黨の崩壊によつて齎されたことである。

此の結論は前に引用したフランクフルター・ツァイツング紙、及びイエーガーの所説に一致する。しかしながら此のシュテファンの分析に於て、重大な誤謬は、社會民主黨、社會労働黨及び共產黨が社會主義的プロックを構成すると見做し、一括してナチスと對比せる點である。現下のドイツ狀勢にあつては、既述の如く社會民主黨も亦、他の中間諸政黨と共に分解過程にあり、ナチス或ひは共產黨の何れかに蠶食されつゝあるが故に、右の分析に於ては寧ろ共產黨と分離して、ナチスとの勢力消長關係を對比すべきであつた。

とまれ右のシュテファン並にフランクフルター・ツァイツング紙、イエーガーの所説等を綜合すれば、ナチスの中心勢力が勤人、中小商工業者等の謂ゆる中産階級者、農民、青年等であることがわかる。而して同時に此の點から右の論者は異口同音にナチスの發展性をも此

の範圍内に限らんとしてゐる。しかるに最近の狀勢は此の斷定を裏切り、勞働者大衆も亦、社會民主主義の陣營からナチスに投じつゝあることは、プロシヤ其の他の工業地方の選舉に於けるナチスの壓倒的勝利が物語つてゐる。

## 第五節 中 産 階 級

抑々中産階級とは何か、資本家と無産者との如く、明確な限界を引くことが出来るか否かが第一に提起される問題である。

ヒットラーによれば――「總て國民の團體は三大階級に分つことが出来る。即ち一方では人類の最も優秀な極端に立ち、勇氣と犠牲心によつて特徴付けられた、あらゆる道德の意味に於て優れた階級があり、他方ではあらゆる利己的な慾望と惡徳との存在の意味に於て最も俗惡な人間の屑が其の對蹠に立つてゐる。此の兩極端の間に第三の階級として、輝かしい英雄主義もなければ、其の代りに犯罪もない、廣大な中間層がある。

一國民團體の發展時代は、最も優秀な部分の絶對的指導によつて特徴付けられる。通常の規則的な發展時代は、中間的要素の慎重な支配によつて特徴付けられる。而してかゝる場合には兩極端の確執は相互に平衡せしめられ、乃至は消滅する。

國民團體崩壞の時代は最惡の要素の支配によつて決定される。

しかし此處に注目すべきことは、私の謂ゆる中間階級としての大衆は、兩極端が相互に闘争し合ふ時に初めて表面に現はれるものであるが、兩極端の一が完全に支配せる場合には、彼等は常に勝利階級の下に従屬せしめられるのである<sup>17)</sup>と云つて、國民に三階級のあることを認めてゐるが、此の分類にあつては純粹に經濟的立場からでなく、寧ろ多分に倫理的要素が加つてゐる。

フューダーも「我々はドイツ中産階級に於て、ドイツ國民の最も價值ある部分を認め、且つ國家、地方團體が中産階級を維持する爲に、あらゆる努力を惜まざることを要求する」と云ひ、更に「經濟理想は多數の中小營業者の自由な存在である」と述べてゐる。同じくナチ

17) Hitler; a. a. O., S. 580 f.

スの綱領第十六條も亦、「健全なる中産階級の創設と維持」とを要求し、「小營業者に對する最大の顧慮」を必要としてゐるが中小營業者の外に、如何なる社會群を中産階級に屬せしめるかは明らかにされてない。

實際、中産階級の社會的意義が重視されるに至つたのは、比較的近來に屬し、随つてそれが資本主義爛熟期の所産であることには、概して一致してゐるが、其の内容を構成する分子に付いては區々に定義されてゐる。

ウエルニツケは中産階級概念に關して次の如く述べてゐる。

「従前の中産階級政策は中流農商工業者から出發し、且つ中産階級概念を規定するものは、獨立せること、即ち熟練勞働力と中小資本とが結合せる點にあつた（スヒスランド教授）。しかるに他の中産階級研究家は、例へばテオドル・フリツチの如く、其の範圍を擴大せんとして、金權主義と社會民主主義との間にあつて、此の兩極端を克服し、自ら支配權を獲得せんとする、あらゆる階級群を含み、随つて官吏、勤人、自由職業等も中産階級運動に加へん

とする。故に此の一派は、獨立、資本所有、中間的所得の如き經濟的方面からのみでなく、政治的方面からも定義付けんとした。しかしながら科學的には此の兩者共に、未だ中産階級の完全な把握と限定とに成功してゐない。何となれば、彼等は道德、文化、進歩を擔ふものとしての、中産階級の文化的、社會的意義を正しく認識しないからである。……私はかくの如く定義する。——即ち中産階級に屬する者は、普通の國民教育を受け、其の職業に於て、單に肉體的、機械的勞働のみならず、多かれ少なかれ、精神的勞働をも爲し、中間的所得を得、乃至は中間的資本を所有する人々である。

故に中産階級は全體として見れば、官吏、自由職業をも包含する多少教養ある市民であつて、一方では大なる所得を有する富裕階級層に、他方では無産勞働者、又は専ら機械的勞働にのみ従事する階級に對立するものである。換言すれば、中産階級は其の職業、教育、財産又は社會的地位、生活狀態等によりて、勞働者階級の上層にあると共に、他面では大なる所得や財産を有せざる點に於て資本家、又は有産階級と區別される國民から構成される。

それ故に此處では二極端が存在する。即ち舊來の獨立小商工業者から成る中産階級と、近年の、年毎に増大しつつある官吏、勤人、自由職業者からなる中産階級とがある。故に中産階級の概念は大體に於て、プチ・ブルジョアの觀念と一致する。……昔の社會は貴族、宗教家、町人、其の他農民、下層階級者等から構成されてゐたが、十九世紀に至つて、特權階級の除去と共に國民の概念が生じた。……しかしこれらの國民は經濟的並に社會的には數多の階級層、即ち大ブルジョア、中ブルジョア、小ブルジョア、及び労働者、プロレタリアート等に分れた。これに應じて農民も亦、大地主、中農、小農、労働者に分れた。大ブルジョアに屬する者は、大地主、大工業家、大商人、銀行家、高級官吏、其の他の富豪又は資本家であり、中ブルジョアに屬する者は、一般に中産階級と名付けらるべきものであつて、小ブルジョアに屬するものは小商人、小中工業者、旅館經營者、行商人、下級官吏、勤人、自由職業家である<sup>18)</sup>と。

即ち彼によれば、中産階級は比較的新らしい階級層であるが、其の中でも中小商工業業者

18) J. Wernicke; Mitterstandbewegung, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Bd. VI. S. 594 f.



と、精神的勤勞者とに二大別されるべきことを主張してゐる。

ヒルファーディングも亦、中産階級を中小經營者を主たる構成要素となす從來の中間階級と、謂ゆる新中間階級たる勤人階級群とに分つてゐる。特に彼のの中産階級の發生と、其の經濟的、政治的意義に關する含蓄ある見解は傾聴に價する。

彼によれば中産階級は總て高度資本主義の特徴たるカルテル化による資本の利益獨占の所産である。即ち「獨占的利潤は他のあらゆる階級の頭をはねる」<sup>19)</sup>ことによつて、一切の産業部門に於ける大資本家の經濟的權力と政治的地位とを高めると同時に、中小企業家をそれだけ壓迫し、其の結果として産業的中産階級は止まる所なく衰退して行く。此處でヒルファーディングが特に關心を置いてゐる點は、かゝる資本主義爛熟期の所産としての中産階級が量的に増大するといふ事實でなしに、質的に其の構造が變化すると云ふことである。彼は云ふ――

「小經營の大部分は大經營の補助的事業となり、隨つてそれは大經營の擴張に利害關係を有

19) Rudolf Hilferding; Das Finanzkapital, S. 460.

するに至つた。都市の修繕業、取付業等は、未だ補綴業にまで至らざる大工場生産によつて制約される。あらゆる種類の修繕事業の敵は、工場ではなくて總てこれらの仕事を同時に營む手工業である。それ故にかゝる階級層は勞働者とは對立するが、大産業とは對立しない。

しかし小經營の比較的大部分は、概して外觀上獨占せるのみであつて、實際には『資本への間接的依存關係』（デムバルト）に陥り、隨つて『資本に隸屬』（オットー・バウアー）してゐる。彼等は抵抗力に乏しく、組織力を缺いだ没落階級層であつて、完全に資本主義的大企業に依存し、其の出店になつた。……しかし重大なことは、同時にかゝる發展に伴つて、これらの階級層の政治的地位が變つたことである。……集中の爲の鬭争は寧ろ資本主義的領域内に於ける、大經營に對する中小經營の鬭争として行はれる。……しかしかゝる鬭争は一般に何ら反資本主義的に行はれるに非ずして、彼等中小經營は寧ろ、彼等自身を産み、彼等に活動の餘地を與へてくれる資本主義の急激な發展の中に救済を求めるのである。<sup>20)</sup>かくてヒルフアーディングによれば、中小企業は大資本の壓迫により、自己の地位が貧窮化するに従つて、

20) Hilferding; a. a. O., S. 460 ff.

其の獨立の存在を失ふのであるが、しかも彼等は資本主義に對立せずして、却つて大資本家に迎合し、獅子の分け前に與らんとするのであると。

次いでヒルファードィングは勤人階級を以て、中小經營者によつて構成される從來の階級層と本質を異にするものと主張する。曰く「近時一般に誤つて『新中産階級』と呼ばれてゐる者は、全く異なる立場に立つてゐる。かゝる階級層は商工業に於ける勤人によつて構成され、彼等は、大經營の發達と企業家の社會的形態とによりて、著しく増大し、生産指導者を首班として段階的階級を構成してゐる。プロレタリアート階級をさへ凌ぐ階級層は此の外にはない。……新たな機械の採用は人間勞働力を過剩ならしめるが、技術家の監督をば決して過剩ならしめない。それ故に機械的、大資本經營の擴張はあらゆる種類の技術的勤人の生活利益であり、工業の勤人を大資本的發達の最も熱心な支持者たらしめる。

次に株式組織の發達も亦同様な方法で作用する。それは指導を所有から分離せしめ、指導をば高給賃銀勞働者や勤人の特殊な機能に委ねる。同時に（彼等の）比較的高き地位は大な

る勢力と豊かな収入とを與へられる状態に置き、随つて此の状態からこれらのあらゆる勤人には門戸が開かれてゐるやうに見える。かくしてあらゆる階級に於ける經歷に於ける關心、昇進への慾望があらゆる勤人に目覺め、彼等の聯帶感を克服する。各人は他の者を抜いて半プロレタリア的状态から資本主義的所得の高さにまで向上せんとするのである：<sup>21)</sup>「」

「しかし更に發展すれば、此の消極的態度は維持し難くなる。集中發展の結果による獨立の地位到達の機會の減少は、小經營者、小資本家をして益々多く其の子弟を勤人たらしめる。同時に此の勤人の數が増すに従つて、彼等の賃銀によつて構成された支出費目が増し、賃銀水準低下の傾向を誘致する。<sup>22)</sup>」

即ちこれら勤人階級は最初の間は比較的高給を支拂はれ、昇進の門戸も開かれてゐたが、資本主義の發展に従つて、一方では其の數が増大し、他方では分業の進歩によりて専門的知識が漸次不要になり、普通教育を受けた低給の者に取つて代られるか、自ら不當に低い賃銀に甘んずる外はなくなる。しかしこれらの勤人階級は舊中産階級と異り、より高い教養と、

21) Hilferding; a. a. O., S. 474—475.

22) Hilferding; a. a. O., S. 477.

より優れた才能とを有するが、其の地位向上の希望が斷たれる時は、後者よりも勞働者と結ぶ可能性が多い。

以上がヒルファァーディングの中産階級に關する所說の大要である。

しかしながら此處に看過すべからざることは、現代の極端に獨占化された資本主義制度の支配下にあつて、此の謂ゆる中産階級は單に量的に其の數を増大するのみならず、彼等の絶望感は一必然的に彼等を尖鋭化せしめ、初めて獨立の階級として、それ自身の要求を持つに至らしめたことである。このことはわけても戰後のドイツに妥當する。インフレーション時代に最も甚だしい生活上の壓迫を受けたものは、俸給生活者、中小商工業者、小利子生活者等を含む中産階級であつた。其の結果これら中産階級は數に於て激増したのみならず、一部大資本家の致富に對する憎惡の念は、勢ひ彼等をして尖鋭化せしめ、階級的利益擁護の必要を痛感せしめるに至つた。

現實にドイツには中産階級と見做すべきものがどれ位あるだらうか。

## 第二章 國民社會主義運動

八八

フリードリッヒ・ツァーン<sup>23)</sup>はドイツ社會群を左の如く分類してゐる。

### 社會群

主要職業（男女共）一九二九年

上層階級

三〇八、五〇八

有識中産階級

一、一五三、四六九

農業中産階級

六、八〇七、五三四

商工業中産階級

三、〇三八、六一七

勤人

四、二八〇、〇二四

家内業

二九四、〇一四

行商

六三、二四二

陸海軍人

一〇七、六九一

僧侶

二七、四二一

熟練勞働者

七、四〇三、八六四

農業勞働者

二、四二八、九四三

不熟練勞働者

四、五五一、二〇六

23) Friedrich Zahn; Wirtschaftsaufbau Deutschlands, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Ergänzungsband, S. 983.

日 傭 人	二一九、一八〇
召 使	一、三二五、五八七
合 計	三二、〇〇九、三〇〇

右の統計を見るも謂ゆる中産階級なるものが極めて重要な社會群を構成することが理解される。勞働者大衆が殆ど社會主義によつて獨占されてゐる時、新たな大衆運動として起つたナチスは、此處に着目し、此の階級層に先づ力強い根を張つたのである。

### 第三章 國民社會主義の思想體系

ナチスト

#### 第一節 國民社會主義思想の起源

或る人は國民社會主義を以て、近來ヨーロッパを襲へる精神的疾患の一つであり、其の運動はクー・クラックス・クランの如き一種の暴力團體に過ぎないと誹謗し<sup>1)</sup>、又或る者はナチスの故郷はミュンヘンに非ずしてヴェルサイユだと擲擧する<sup>2)</sup>。其の謂は國民社會主義運動が何らの思想的背景を持たず、戦争若しくは革命のどさくさに乗じて、國民的不満を煽り立てることのみによつて權力に近付かんとする運動だと云ふことである。これらの見解が眞なりとせば國民社會主義運動は泡沫の如く、忽ち消え去らねばならない。

しかるに事實はこれに反して國民社會主義運動は益々其の勢力を増大し、其の思想はドイ

12.11.19  
HA

1) Graf Carlo Sforza; Europäische Diktaturen, S. 133.

2) Theodor Heuss; Hitlers Weg.



ツ國民大衆の間に力強い根を張りつゝある。このことは既に國民社會主義が國民大衆の胸に訴へるべき何らかの思想的根柢を有する證左であると云はなければならない。

もとより國民社會主義は決して一つの纏つた思想體系ではなく、各種の思想が其の中に交錯し、随つて俄かに其の本質を定義付けることは極めて困難である。しかしながら其處には他の社會的潮流と區別すべき明白な諸種の特徴が認められる。即ち一般に國民社會主義の特徴と認められるものは、普遍主義、感情主義、神祕主義、現實主義等である。而して國民社會主義も亦庸突に現はれた思想ではなく、歴史的社會的必然の所産である以上は、これらの特徴のよつて來る源泉を探り、それらの思想を個々に互つて吟味して、兩者の關聯を求め、更に國民社會主義思想と混同され勝でありながら、しかも本質を異にする他の思想を明らかにすることによつて、初めて我々は國民社會主義思想の正しい姿を見出すことが出来るのである。

現代のドイツ國民社會主義に特に多くの影響を與へた思想乃至運動は、大體に於て浪漫主

義、國家社會主義、講壇社會主義、キリスト教社會運動、民族主義運動の五つに大別するこ  
とが出来やう。勿論これらの思想乃至運動の間には多少の關聯の認められる場合もあるが、  
主要な傾向に基き右の區別に従つて叙述を進めやう。

## 第一項 浪漫主義

浪漫主義は本來文學的藝術的潮流であつたが、新たに目覺めた理想主義哲學に內的に結  
び付いた結果として、あらゆる生活領域にのり込み、全社會的文化的生活を改造せんとする  
世界觀になつた。理性の神聖のみに拘泥する啓蒙哲學の激しい反動として生れた浪漫主義は  
あくまでも形而上學的に立てられた哲學であり、それは生命の神祕を謙遜な驚きを以て眺め  
た。啓蒙主義が社會を以て、獨立に存在し、自然的權利を與へられた個人間の自由な契約によ  
つて成立するものと説かんとするに反して、浪漫主義は眼に見えざる社會の紐帶が個人間の  
內的精神的連帶を構成し、個人は此の連帶から脱出し得ざるものたることを認識した。かくて

此の思潮の上には深い矛盾があり、それが一切の浪漫主義的藝術及び科學の上にも現はれてゐる。尤もかゝる思想的傾向は當時の浪漫主義時代にのみ固有なものではなく、多かれ少なかれ歴史のあらゆる時代に見出されるのである。このことは結局それが確固たる體系を缺き、統一的思想と見做し難い爲であつて、随つて浪漫主義に關する文献の極めて豊富であるにも拘らず、其の明確な概念の把握を困難ならしめる所以でもある。かくてそれはヤコブ・バクサの云へる如く「ドイツ精神の豊かな源泉から生じた思想の織子<sup>3)</sup>」として取扱はれて來た。これについて比較的明瞭な説明を與へてゐるものは、浪漫主義の復興者オトマール・シュバンである。故に暫らくシュバンの言葉を借りよう。

「浪漫主義は、其の藝術及び國家觀に於いて専ら哲學に依存しつゝ、共同體の本質について普遍主義的觀念を誘導した。

浪漫主義は先づ一定の藝術的思潮として現はれ、シュレーゲル兄弟、ノヴァリス、テイク、ブレンタノ、アキーム・フォン・アルニム、テオドル・アマイドス・ホフマン、アイ

3) Jakob Baxa ; Gesellschaft und Staat im Spiegel deutscher Romantik, S. 4.

ヘンドルフ等が此の派に屬した。しかしそれは最初から其の特有な性質から、生活及び科學のあらゆる範圍に侵入し、一種の文化運動になつた。しかし其の本質は専ら其の哲學的特徴によつて明らかにされてゐる。何となれば超感覺的なもの、先驗的なもの、神祕的なもの、無限的なものに對する關係が、意識的にか、無意識的にか、浪漫主義の藝術及び科學を完全に支配したからである。浪漫主義は第一に世界觀であつて、藝術ではない。浪漫主義を徹頭徹尾充たしてゐるものは、存在の不可解に關する感情、即ち世の中の不充分なもの、惡、死等に對する惱み、並に世の中に存在するかに見える廣大無邊なものの中に憩ひ、其の無限の中に我々を委ねんとする憧憬である。しかしながら疑惑と敬虔な献身（委任）との、此の兩極端の間の闘争と動搖とが浪漫的なものを構成してゐるのである。一般に云はれてゐる如く、冒險性、無型式性、主觀性が浪漫主義の詩の本來の特徴を爲すものではなく、存在そのものの不可解に關する哲學的根本感情、懷疑と神祕との矛盾が本質的なものであつて、其處から初めてあらゆる現象は夢想的な混沌、矛盾、冒險等の如き性質を帶び、其處から初めて浪漫

主義の詩の無型式性が生じ、自我と世界との間を動搖せる自我の主觀性が生ずるのである。

かく解してのみ、即ち啓蒙思想及びルネッサンスの反對運動として起つた世界觀並に文化運動と解して、初めて生活と科學との全領域に對する浪漫主義藝術の影響が説明されるのである。即ち人間は宇宙の一部として解釋されることによつて、其の一切の主觀性にも拘らず、個人主義的にでもなく、孤立的にでもなく、個別的にでもなく、全く宇宙的共同體の一部として認められるのである。かくして人間は國家及び其の他の共同體に於ても亦、主觀的なもの、自主的なものとして、<sup>4)</sup>なく、社會的な生活關係の一部として現はれる。宇宙的なものは社會に移され、自我の懷疑と神祕とは共同體の上にも及ぼされ、かくして國家と社會とは浪漫主義的觀察の對象となるのである。<sup>4)</sup>

即ちシュバンによれば、一方には全世界の形而上學的綜合に關する觀念、他方では此の世界に對する疑惑、即ち夢想的な生活觀念が浪漫主義の本質である。

此の浪漫主義思想の立場から普遍主義的、有機的國家觀を導いたのはフイヒテであつた。

4) Othmar Spann; Die Haupttheorien der Volkswirtschaftslehre, S. 89 ff.

フイヒテの初期に於ては社會契約に關する自然法の強い影響が残つてゐたが、やがてそれは根本的に克服された。カントは人間の自治自決權のみを中心とする英佛啓蒙思想の經驗主義及び唯理主義を破つたが、倫理學及び國家學に於ては依然として個人主義に捉はれてゐた。これに反してフイヒテは、人間を認識論的に個人としてではなく、多數、即ち精神的交互體の一部と認め、延いて國家は初めから存在する全體であつて、有機的存在だと見做した。

更に國民の意義に付いて彼は「國民とは社會に於て共同の生活を續け、自己を自己の中から、自然的並に精神的に創造して續けて行く人間の全體である<sup>5)</sup>」と云ひ、特にドイツ民族の本質的並びに歴史的發展に基く優越性を主張し「より深い、彼等自身の間から生ずる新たな創造を爲す」ことがドイツ人の特徴であり、ドイツ民族と他の民族との重要な區別は、「人が人間自身の中に存する絶對的第一次的なもの、本然的なもの、即ち人間の自由、無限の改善、永遠の進歩、を信ずるか、或ひはこれら總てのものを信ぜずして、寧ろ却つてこれら總ての反對を目賭し、理解し得たと誤解してゐるか」にある。そして「自ら創造的に新

5) Johann Gottlieb Fichte; Rede an die deutsche Nation, Reclam. S. 128.

たなものを作り出しつゝ生活する總ての人、或ひは新たなるものを創造し得ぬまでも、少くとも價值なきものを全く捨てゝ、何處かに本然的生命の流れを把握せんと欲せる人、或ひは其處までは進まぬまでも、少くとも自由を豫想し、且つ自由を憎んだり、それを恐れたりすることなく、却つてこれ愛する人、總てかくの如き人は本然的人間であつて、彼等を民族として觀察する時に、これこそ第一次的民族、純眞民族、即ちドイツ人である<sup>6)</sup>と云つてゐる。此の彼の國民主義的思想は「獨逸國民に告ぐ」の十三講に最もよく現はれてゐる。彼は後に述べる他の浪漫主義の學者ギョーレスやシュレーゲルと同じく國家の自然的國境に反對し「國家の第一の、本來の眞の自然的境界は、明かに其の内部的境界である。總て獨逸語を語る者は、あらゆる人工の加はるに先立つて、單なる自然によつて見えざる數萬卷の書物と結びつけられてゐる。……このことは次第に明かになり、自然的一體に綜合され、不可分の全體となる。……此の内部的な、人類自身の精神的性質によつて引かれた限界から、初めて其の結果として住民の外的限界が生ずる<sup>7)</sup>」以上の如くフィヒテの國民主義は汎ゲルマン主

6) Fichte; a. a. O., S. 122

7) Fichte; a. a. O., S. 215 f.

義的思想にまで發展してゐる。此の國民主義的立場から社會問題を眺める時に、彼の國民社會主義的思想が生ずる。

彼は萬人に勞働の義務を課して云ふ。「人間が自然に許された儘に容易に、自由に自然を支配しつゝ眞に人間らしく地上の生を営むことは、人間の敬虔な願望であるのみならず、其の權利と運命との止み難き要求である。人間は働かねばならない。しかしそれは重荷に呻吟しつゝ、其の力の恢復後直ちに再び其の重荷を運ばねばならない牛馬の如きものとは異なる。人間は心ものどかに、歡喜に溢れて働き、彼の心と眼とを天に向ける餘裕を持たねばならない。此の時間に彼は修養するのである。」<sup>8)</sup>

此の總ての勞働に従事する人間を、彼は生産者(農業)、技術家(工業)、商人の三部に分ち、國家は生産、取引の經濟的活動を監視、測定し、其の所産を個々の身分階級(Stände)に分配することによつて、一切の國民が等しく快適な生活を営まねばならないと述べてゐる。即ち彼によれば「總ての者は全體の奉仕者であつて、全體から其の分前を與へられる。何人も

8) Fichte; Der geschlossene Handelsstaat, S. 28.



特別に富むことも、貧乏であることも出来ない」<sup>9)</sup>のであつて、随つて一切の財産の私有は總ての國民の生活を出來るだけ安易ならしめる爲にのみ許されるのである。此の點から彼は無制限な自由競争は全體の爲の幸福を阻害するものとし、自由主義と重商主義とを「商業の「ナァキー」と非難し、對内的には生産を國家の統制下に置くと共に、對外的には外國貿易は國內生産の均衡を破るものとして、國家の經濟的封鎖を主張した。

シュレーゲルも亦自然哲學から出發して、社會國家を有機的全體と見做した。彼によれば、國家は大なる道德的個體であつて、此の國家は本來「人類の向上と發展との促進を以て最大の使命とするものであるが、それは單に消極的に人間に保證と保護とを與へることを以て足れりとせずして、積極的な方法をも講ぜねばならない」<sup>10)</sup>。此處から彼は國民國家の主張に進んでゐる。

「國民は數多の家族が規則、道德、習慣、利害等によつて共同的全體に結合された一大綜合的家族である。たゞ國民と家族との異なる點は、前者にあつては此の連帶の範圍が餘りに大な

9) Fichte; a. a. O., S. 34.

10) Friedrich Schlegel; Philosophische Vorlesungen, S. 355.

るが爲、家族程密接に結び付けられてない點だけである。<sup>11)</sup>同時に彼は世界主義に反對して云ふ——「最近企てられつゝあるが如く、諸國民を一丸たらしめるよりも、人類を數多の國民に分つて置く方が自然により適合してゐる。諸民族の統一の如きは強制と人爲的制度とを以てしても永久には維持し難い不自然な綜合に過ぎず、言語、道德、法則の混合の結果は自ら此の制度自體を徐々に弱め、やがては一切の連帶、堅忍、忠實、愛を破壊し、國民的特徴の喪失によつて國民精神と力とは根柢から奪はれるであらう。」<sup>12)</sup>

彼は最善の國家形態は身分階級國家にありとし、此の身分階級國家構成の原始的身分階級 *Drang* を次の五階級に求めた。

- 1、物質を生産する者、即ち農民、
- 2、それを加工する者、即ち工業家、
- 3、道德、科學等の促進に従事する者、即ち學者、宗教家、
- 4、外敵に當る爲の「軍人階級」としての貴族、
- 5、補充的身分階級、即ち産業上の傭人、一般商人。

而して身分階級制度に於て國民の自由が最も長く保證され、人類は最も完全な發達を遂げ

11) Schlegel; a. a. O., S. 357 f.

12) Schlegel; a. a. O., S. 358.

ることが出来る。諸民族の歴史上、此の制度が失はれ始めたところでは、常に道德の頹廢、祖國愛と國民的精力との喪失等が間違ひなく現はれてゐる。<sup>13)</sup>

ヨセフ・ギョーレスはラインランドの僧侶であり、共和制フランスを地上の樂園なりと謳歌したが、其の革命に幻滅を感じて思想上の轉換を爲した。「青少年時代に私は共和制の思想と人間の政治的社會的状態改善の思想とを同一視してゐた。私は此の思想にある限りの情熱を傾倒し盡し、ありたけの生活力を捧げ、其の中にのみ生き甲斐を感じた。しかるに私にのしかゝつて來た經驗は餘りにも大であり、それに關聯せる事件は餘りにも多く、且つ印象深かつた爲に、それを直截に傳へ兼ねた。私は今や自由が失はれ、人間生活と人間の向上に用ひらるべき人間幸福の最大資本たる力は全く亡び、將來に對する高利の負債以外には何物も殘されなかつたことを痛感したのである。<sup>14)</sup>」此の失望から彼は從來蔑視してゐた國民主義思想に轉換し、「世界人」の思想を捨てゝ、民族の本質と各國民の特性との相違を深く覺るに至つた。

13) Schlegel ; a. a. O., S. 365.

14) Josef Görres ; Resultate meiner Sendung nach Paris, Schellberg ; S. 80.

彼はフィヒテの如く國家の自然的境界を退けて、山脈や河川とは無關係に各民族間には、內的道德的性質の中に明確な境界が引かれてゐると主張した。

彼によれば「言語は個人を相互に結び付ける一大紐帶であつて、……それは全體に對して一般に國民性と呼ばれる共通の氣持を與へるもの」<sup>15)</sup>である。しかしながら民族の相違は單に言語のみにあるのではなく、「フランス國民性とドイツ國民性との間には超え難い間隙」<sup>16)</sup>を認めてゐる。彼の此の思想は却つてフィヒテに強い影響を與へ、フィヒテの「ドイツ國民に告ぐ」は、實に其の七年後に講ぜられたものである。かくて獨佛國境、即ちラインランドに住む彼は、あらゆる浪漫派諸學者の中で國民主義問題の核心を掴み、國民主義的感情に燃えた最初の人だつたのである。

以上の諸學者の影響を受けて、浪漫主義的國家思想の傑出せる代表者となつた者はアダム・ミューラーである。

ミューラーは新らしい浪漫主義の共同體の概念を經濟學及び國家論の上に移した。彼によれ

15) Görres; a. a. O., S. 59.

16) Görres; a. a. O., S. 61.

ば「國家は人事の總計であり、生ける全體への人間の結合」<sup>17)</sup>であり、絶對的な生けるもの、精神的なものであり、「あらゆる理念の永劫に躍動せる國」<sup>18)</sup>である。

此の國家觀念は勿論フィヒテに基因するが、其の應用及び實際的内容の方面に於ては、ドイツ中世紀の封建制度に於ける、人格的な、生々した各部分の結合を理想とした。かくてミューラーは激しく自然法の理論及びスミスの個人主義的、資本主義的經濟觀を以て「過激な國家解體の學說」として非難した。同時に彼はモンテスキューの國家生活上の權力分割の思想にも反對した。

彼の經濟理論も亦、自ら利己的な、孤立的見解を退け、社會的要素の關聯と統一及び其の歴史的背景とを考察の立場とした。彼は云ふ——「國家の國民經濟を語り、それに關與せんとする者は、此の國家の全範圍に於ける多面的な經濟的領域と問題とを一括して觀察せねばならない。單に孤立せる一つの價值や、個々のものゝ獨立した意味のみによつては國民經濟の様相を知ることとは出來ず、精々のところ數量的な全部の綜合が得られるのみである。全部の

17) 18) Adam Müller; Elementen der Staatskunst, S. 60.

解剖のみによつては眞に高い何物も得られない。かゝるものは多かれ少かれ附隨的なものに過ぎない。……事物の關係が關聯的に觀察され、且つ此の關係が同時に相互的に再びより大なる關係に結合され、かくして人間の肉體の機關の如く、一つづゝ綜合され、究極に於て無限の均齊、即ち各部分の完全な均衡が得られるならば、全體の様相は明瞭に認められる。即ちかくしてより大なる輪廓と、同時にそれを構成する無數の機關も共に認められるのである。<sup>19)</sup>

此の普遍主義的有機的觀察の立場から、彼は個人の經濟的競争を退けて、それに代ふるに共同體、例へば族長家制、ツンフト經濟、及び都市經濟に於ける、あらゆる人格的關聯の生ける力を以てせんとした。随つて彼は個人主義の所産たる勞資の對立を非難して云ふ、「アダム・スミスが極めて高く評價した勞働の分離と機械化とに對して、精神は不斷に反抗してゐる。<sup>20)</sup>」……それが故に人間をして自己を没却せしめる程、甚だしく分化された仕事は未だ國民社會には存在しない。<sup>21)</sup>」

にも拘らずミューラーは商工業及び農業の中に資本主義的要素の存在を容認したが、これは

19) Müller ; a. a. O., S. 49.

20) Müller ; a. a. O., S. 57.

21) Müller ; Versuche einer neuen Theorie des Geldes S. 107.

勿論他の封建的財産制、ツンフト、ギルド等に於ける國民主義的事業の補充的形態として、あつた。

富に關しても「富はあらゆる財貨の集積である」といふスミスの機械的概念を極力排斥して、富は物ではなく、其の使用性に歸因するので「國民の眞の富は國民全體の存在である」といひ、更に富の使用價值を個人的使用價值と社會的價值とに分ち、「ある物に效用ありと云ふ爲には、國民社會全體に對する關係に於ても亦價值がなければならぬ」<sup>22)</sup>。随つて價值は經濟的政治的團體の全體の中に於てのみ決定されると云つてゐる。

更にミューラーは貨幣概念について云ふ。「貨幣は國家や言語と異り發明されたものである。人間は如何に懸け離れてゐるやうとも人と物とが必要である。……故に彼は自分自身の外に、常に彼を人と物とに結び付ける紐帶を必要とする。……此の結合を完成するものは市民社會の初まりから今日に至るまで國家である。而して貨幣は此の團結に對する必要、又は國家の經濟的表現たることは、恰も法律が國家の法的表現たると同様である。物の間に於てはそれ

は貴金屬であり、人と人との間に於ては言語である。其の各々は各自其の領域に於て、人間が常に人間的又は物質的事件に於て求めんとする團結を完成する。即ち貴金屬は物の間に於ける最も自然な連鎖であり、言語は人力の中の最も自然な紐帶である。故に言語と貴金屬とは貨幣の現はれる爲の二つの形式であり、經濟的國家の二大體現である。<sup>23)</sup>

故に硬貨と紙幣とは本質を同じうするものであつて、市民社會の經濟的表現に過ぎない。而して國家の最大の貨幣制度は硬貨が紙幣と正しい關係に置かれた時であつて、貨幣の増加は經濟力がそれによつて發展せしめられる時にのみ許容されるが、他の場合に於ける任意な増加は危險であると主張してゐる。

ミューラーは又生産を土地、勞働、有形的資本、精神的資本の四要素に基かしめ、これに對應して、國民を貴族階級、市民階級、商人階級、教育家又は宗教家階級の四つの身分階級に分ち、此の四階級の調和的關係によつて、有機的全體が構成されると云ひ、かゝる調和を身分階級國家に於て求める。「身分階級國家によりて、上下擧つて國家の全體及び一般について常

23) Müller; Versuche, S. 158.



に眼を開くことが出来る。國家に於ける個人や有産者の集合以上のものたる此の全體は、其の見透しの利くことによつて、比較的才能乏しき者までも政治上適所に置くことが出来る。<sup>24)</sup> かくの如くミュラーの功績は個人主義的精神の全盛時代に、其の機械的、唯物論的思想を排斥して、初めて國家經濟の普遍主義的全體觀を立てたことである。シュバンの言葉を借れば「ミュラーの前にはマルクスの辯證法的鋭さも、リカードウの分析力も消し飛ばされてしまつた。<sup>25)</sup>」

彼にあつては退歩が改革であり、復古が同時に進歩を意味した。「一切の政治的要素は中世紀に發見される。しかしこれらの要素は完全に結合されてゐなかつた。……何となれば、それは結合的ではあつたが、有機的ではなかつたから<sup>26)</sup>」と云つてゐる。

浪漫主義思想の影響を多分に受け、屢々それと類似の論據を以て自由主義經濟思想に反對し、其の經濟觀に於て多分の國民主義的傾向を帯びてゐたのはフリードリッヒ・リストである。彼によれば一國民の繁榮は富の集積が大になる程、大になるのではなく、國民の生産力

24) Müller; Über König Friedrich II, S. 253.

25) Spann; a. a. O., S. 97.

26) Müller; a. a. O., S. 134.

がより發揮される程大になるのである。かくて彼も亦經濟學の上に普遍主義的な、且つ歴史的考察を行ひ、經濟の社會的關聯を説き、スミス及びリカードウの抽象的考察方法を退けて、國民の概念を以てする具體的文化的共同體の概念を誘導した。かくて精神的道德力、全體の有機的關聯、全體に於ける部分の關係に重心を置いた彼の思想は明らかにミユラーの影響である。

以上の浪漫主義諸學者の思想に於て、一貫して流れる共通の特徴は、個人主義、自由主義、コスモポリチズム世界主義、唯理主義の否定としての普遍主義、背理主義、國民主義であり、ドイツ國民の本質的並に歴史的優越感の基礎に、國家社會の全體的有機的關聯を調和せんとする點である。我々は此の浪漫主義思想の中に、現代ドイツ國民社會主義の濫觴を見ることが出来るのである。

浪漫主義は更に一面にはキリスト教社會主義運動の上に多大の影響を與へたが、現代の學者にあつて純粹に其の思想を繼承するものは、フリースト・シュテワルト・チェムバレン、

オスワルド・シュベングラール及びオトマール・シュバン等の人々である。

しかしこれと類似の傾向を多分に有し、しかも其の本質を異にするものは國家社會主義の一派及び急進的マンチエスター學派、即ち謂ゆる講壇社會主義一派である。

## 第二項 國家社會主義及講壇社會主義

國家社會主義はロードバルツス、ラッサーレ等によりて代表されたものであつて、新らしい社會的秩序を一階級の革命運動によらずして、既存の國家の援助によつて實現せんとするものである。

ロードバルツスは初期工業労働者の悲惨な生活の改善を以て、健全な社會狀態を構成する爲の根本問題と認めた。しかし彼は私有財産制の原則的承認の基礎に立ち、單に土地及び資本のみを國有に移すことによつて生産の統一的實行を計ると共に、資本利子と地代との廢止を主張した。しかも彼によれば労働者は個人主義、隨つて其の平等の權利を要求すべきでは

なく、此の國家社會主義的理想は、社會的なホーヘンツォルレルン王國の下に於て、永年の經驗によつて初めて實現されるといふのである。

ラッサールの國家觀はマルクスの唯物論的見地からでなしに、フィヒテ、ヘーゲルの理想主義的哲學から出發し、ドイツ浪漫主義から眞の國家的意識を汲んだ。「國家は……道德的全體に於ける個人の統一であり、此の團結に統一されたあらゆる個人の力を數萬倍にも強め、個人として使用する場合の數萬倍もの用途に向けるところの統一である。故に國家の目的はブルジョアによつて現代考へられてゐるが如く、個人的自由と財産とを保護するものではなくて、國家の目的は寧ろ此の團結によつて個人をして個人としては到達し得ざる存在の段階に到達せしめ、個人としては不可能な教育と力と自由との獲得を可能ならしめることにある。かくて國家の目的は人間的本質を政治的に發展せしめること、即ち人間の本分たる文化を現實の存在たらしめることであり、自由に對して人間を教育し發展せしめることである。」<sup>27)</sup>

しかしながら他面に於て彼の經濟觀はリカードウの勞銀鐵則から出發し、此の法則から免

27) Ferdinand Lassalle; Auswahl von Karl Renner; S. 185.

れる唯一の方法として、勞働者は生産組合を組織して自ら企業家たる地位を獲得すると共に、政治的には獨立の政黨を組織して、普通選舉の爲に戦はねばならないと云ふことによつて、階級の對立を認めてゐる。

かくの如く通常國家社會主義と呼ばれてゐる一派は、思想的には浪漫主義の影響を受けて、普遍主義的であり、國家を高く評價したが、民族的主張は稀薄であると共に、一面に於ては個人主義思想の影響を受け、階級の對立を認めた。要するに彼等の主張の核心は國家による自由經濟への干涉、又は經濟的契約の自由のある程度の制限にある。此の點に於て國家社會主義と國民社會主義とは嚴に區別せねばならない。國民社會主義は社會國家を飽くまでも有機的に歴史的に眺めんとするものであり、殊に後に述べる如く民族的主張が極めて重要な要素になつて居り、それは延いて強權主義に導くが、國家社會主義にあつては、このことはない。故に國家社會主義は國民社會主義の政策的一面を示すものではあるが、同一のものではない。更に國家社會主義に類似する講壇社會主義にあつても、例へばワグナーの租稅理論に於て

認められるが如く、國家の立法的保護によつて、下層社會の地位を向上せしめんとするに止まり、傾向的により社會主義的ではあるが、これらの思想は何れも、寧ろ「社會改良派」と稱すべきであつて、國家社會主義との相違は單に、後者にあつては勞働者自體の自助的活動に、より多く重心を置くに反して、前者は國家の活動をより多く期待する點にあるに止まる。勿論これらの「社會改良派」も亦、カメラリズム以後のドイツ主義の因襲に捉はれ、多少浪漫主義的傾向が見られぬではないが、畢竟自由主義的形骸から完全に脱却してゐない。

しかしながら上述の國家社會主義及び講壇社會主義の主張は浪漫主義の思想と共に、後のキリスト教社會運動の上に多大の影響を與へてゐる。

### 第三項 キリスト教社會運動

キリスト教社會運動は原始キリスト精神の復活運動として起つた。その主張によれば新約聖書に於ける神の國は彼岸にあるのではなく、内在的なものでもなく、現實のものでなければ

ならない。キリストと共に、キリストを信ずる者のみの間に神の啓示があるのではなく、神の世界は秘められた聖なるものゝ中から卑俗な生活の上に現はれる。それは宗教ではなくて生ける神であり、意識現象ではなくて、現實の社會的政治的生活の凡俗な現實である。

キリスト教社會運動は開放的な現實の神の國を歴史的發展の目的と見る。神の國は魂の内部に於ける精神的現實ではなくて、人間の良心と意志との上にも實現されるが、境遇、實生活の上にも實現される。キリストは萬物を新たにするものであり、隨つて人間の心のみならず、社會、國家、經濟をも新たにするのである。アルトハウスは云ふ。「山上の垂訓の中に此岸の神の國の樹立に對する規範がある。即ち個人生活に對する規則のみならず、社會問題解決の根本法則がある。從來の教會は愛の社會改造力を信じなかつたが、愛こそはキリスト教の革命的力である。その中に新らしい、よりよき世界の組織力が眠つてゐる。故にキリスト教は勇敢に神の國實現の爲に戦はねばならない。<sup>28)</sup>」

更に彼等によれば「愛なくしてはキリスト教はなく、行動なくしては愛はない。」かくてそ

28) Paul Althaus; Religiöser Sozialismus, S. 11 f.

れは行動的であり、革命的である。又それは一方では宗教としての超世界的なものを求め、他方では實際の經濟政治生活の中へ突入すべきことを主張するが故に、其の主張は極めて飛躍的であり、矛盾に充ちてゐる。

キリスト教社會運動の先驅は既にヴィッヘルン・フーバー等に見られるが、初めて新約聖書の中に社會的倫理のみならず、經濟的、社會主義的プログラムを發見して、積極的に社會問題との關聯を求めると至つたのは、ルドルフ・トッドの「ドイツに於ける急進社會主義とキリスト教界」(一八七七年)に於てである。彼の社會主義に對する態度は獨斷的であり、其の社會改革案は夢想的であつたが、社會運動に對する情熱をキリスト教界に鼓吹するに與つて力があつた。

これに次いでキリスト教社會運動としての鞏固な土臺を築いた者はアドルフ・シュテカーである。彼は一方では講壇社會主義、他方ではトッドの影響を受けて、一八七八年キリスト教社會黨を組織した。其の綱領によれば現下の社會民主主義は夢想的であり、眞の社會改革



は王政及びキリスト教の立場から、平和的な労働者團體の組成によつて達せられるといふにあつた。即ち専門的職業組合、裁停機關の創設、寡婦、幼老者、失業者等の國家的保護、國有及び公有財産の擴張、累進的所得税、相續税の創設等が掲げられてゐる。しかるにアイゼナッハに於ける一八九五年の第二回綱領に於ては、より綜合的である反面、より保守的になり、反ユダヤ主義的傾向と農民及び中産階級保護の傾向を示すに至り、一切の非キリスト教並に非ドイツ的制度の排撃を主張した。これらの主張はやがてキリスト教社會運動が國民主義運動に轉化する前提であつた。しかし彼自身の功績はキリスト教主義と保守主義との立場から、國家社會主義思想を説くと共に、宗教を以つて一切の經濟的進歩に對する精神的道德的な不可缺の要素たらしめた點にある。

これに反してフリードリッヒ・ナウマンのキリスト教社會運動は、より自由主義的であり、より大衆的であつた。又其の經濟理論はトッドと異り、キリスト教及び新約聖書のみを典據とするものではなかつたが、キリスト教の中に革命的性質を認め、宗教によるマルクシズム

の克服と、被壓迫大衆の社會改革的な結合とを主張した。彼は社會民主主義の没落と、キリスト教社會主義時代の到來とを確信し、可なり徹底した社會改革の思想と經濟の正しい認識とによつて、從來のキリスト教社會運動よりも遙かに統一的な、近代的な運動たらしめた。更に彼は勞働者同盟を作り、これを將來のツンフト運動にまで發展せしめんとした。

元々彼のキリスト教社會運動の綱領に於ては、其の經濟的要求と宗教的原則との統一が缺けてゐたが、後には全く宗教的色彩を失ひ、一八九七年ナウマン自身が教界から政界に轉身するに及んで、此の運動は全く政治化した。かくてナウマンに取つて、後の社會運動への影響は宗教的社會改革運動としてよりも、寧ろ國民主義運動の方面にあるが、これは別の項に於て述べる。

これらはプロテスタントを中心とする、主としてドイツに起つた運動であるが、カトリック社會運動は非常な勢力を以てオーストリアに榮えた。

從來オーストリアのカトリック教徒間では、保守黨の勢力が壓倒的であつて、大地主によ

つて鞏固な支持を受けてゐた爲に、勞働問題は輕視され勝ちであつた。此の方面に於ける運動は實にカール・フォージェルザングによる「キリスト教的社會改革月報」(一八七五年)の發刊に始まる。

此の一派の特徴は浪漫主義の濃厚な影響の下に社會の身分階級的構成と、中世紀的なキリスト教的、ゲルマンの原則への復歸にある。殊に社會的害惡を金融制度の中に認め、貸金利子の廢止を主張した。

此の運動は一八八〇年ウィーン市長リューガー<sup>29)</sup>を首領として、ウィーン及びニーダー・オーストリア地方に起つたが、多分に反ユダヤ主義、就中ユダヤ的金融支配反對の傾向を示し、力強い國民層の支持を贏ち得た。

以上のキリスト教社會運動に共通な點は、根本的に浪漫主義的傾向を示し、封建主義的な社會の有機的關聯を主張したこと、及び他面には國家社會主義乃至講壇社會主義の影響を受けて、社會的害惡を國家的保護と勞働者の自助手段との兩面から除かんとしたが、其の支持

29) 本書二四頁以下參照。

層は大體に於て中産階級に止つたことである。就中特記すべきは、其の多くが最初にはキリスト教を以て社會改革の前提としたが、後には其の經濟的要求の高まるに従つて、多かれ少かれ宗教的色彩を失ひ、保守的な國民主義的大衆運動に轉化し、同時に反セミチズム運動に結び付いたことである。かくて此の國民主義運動は浪漫主義に現はれた國民主義思想から現代の大衆的國民主義運動への橋渡しとなつた。

#### 第四項 民族主義運動

ドイツの民族主義運動は一面には浪漫主義に現はれた國民主義的感情が基調になつてゐるが、他面にはヌゴビノの「人種平等論」と同じ立場から出發してゐるかに見える。即ち前者にあつては民族乃至國民を寧ろ文化的連帶と見んとする傾向が濃厚なるに反し、後者は人種の見地に立つものである。例へばヌゴビノの如きは、白色人種は思考力に富み、秩序と平和と自由とを愛し、人生を楽しむ種族たることを無條件に認め、世界の文明は白色人種に

よつて齎らされたことを主張してゐる。即ち彼は、

「あらゆる文明は白色人によつて生れたものであることは歴史の教へるところである。社會が發達し、輝かしい存在たり得るには、社會に本來の優越的存在を永く維持すると共に、社會がこれらの種族中の最も優れた者に隸屬せねばならない。このことを最も明白に證明するには世界でこれまで支配し來つた文明を見れば好い<sup>30)</sup>」と云ひ、次いで彼は過去現在を通じて地球上で完全な社會狀態を造つた民族は十種であつて、其の他は「太陽の周圍の遊星」の如く、多少ともにこれに依存せるに過ぎないとし、これに文明を從つて左の十種に分つてゐる。

1、インド文明

2、エサウト文明

3、アッシリヤ文明

4、ギリシヤ文明

5、支那文明

30) Gobineau; Versuch über die Ungleichheit der Menschenrassen, Bd. I, S. 285.

6、イタリヤ文明

7、ゲルマン文明

8、9、10、アメリカ文明（アルカニー、メキシコ、ヘル）

彼によれば此の十種の文明中、最初の七文明は少くとも一部はアリヤン民族に依存する。故に「アリヤン人種の支配がなかつたならば、ヨーロッパ民族の間には如何なる文明も生じなかつたであらう<sup>31)</sup>」と。此の見解がドイツの民族主義運動、延いてはナチスの國民主義的主張に如何に影響するところ多きは、後に述べるヒットラーの主張に明白に現はれてゐる。

さてドイツ民族主義運動は大抵獨逸統一運動として起つたが、其の中でも異彩に富めるはシエーネラーの汎ドイツ黨とナウマンの國民社會同盟とである。

シエーネラー<sup>32)</sup>は農民出身であつた關係上、此の運動が大衆運動でなければならぬことを早くから見抜き、一八九七年のウィーンに於けるドイツ國民大會から盛んになつた。ドイツ民族の統一を妨げる最大の障礙はハプスブルグ王朝にありとして、極端にハプスブルグ家を

31) Gobineau; a. a. O., S. 289.

32) 本書二四頁以下参照。

嫌惡した。其の他の特色は反ユダヤ主義、反民主主義であると同時に、キリスト教社會運動の影響を受けて宗教的色彩が濃厚であつた。リューガーのキリスト教社會運動と共に、ストーリーヤ時代のヒットラーに多くの感化を與へ、彼の運動の上に於ける重大な指針となつたことは前に述べた。

フィヒテ以後ドイツには多くの國民社會主義的思想の發生を見たが、初めて其の思想の上に「國民主義」と「社會主義」との名稱を併用して、具體的な運動にまで導いたのは、キリスト教社會運動から出發したナウマンである。<sup>33)</sup> 即ち彼が一八九六年「國民社會同盟 *Nationalsozialer Verein*」を組織せるを以て嚆矢とする。しかしながらナウマンにあつては、其の名稱は「社會的 *sozial*」ではあつたが、「社會主義的 *sozialistisch*」ではなかつた。かくて「國民社會主義」の名前はナチスによつて初めて用ひられるに至つたのである。

ナウマンの初期の思想に於ては、講壇社會主義の影響を受けて一般に「社會主義的」と認めらるべき要素があるにはあつたが、民族主義的主張の方がより多く彼の運動を特徴付けて

33) 本書一一五頁以下參照。

る。此の傾向は彼の「國民社會主義問答」に最も明快に現はれてゐるが故に其の要旨を掲げやう。<sup>34)</sup>

「我々が國民主義的土臺の上に立つのは、外部に對するドイツ民族の經濟的、政治的權力の保持が、内部に於ける一切の重要な社會改革の前提と思惟されると同時に、外部的權力は、政治上重大關係ある國民大衆の國民主義的觀念なくしては、永久に維持されないことを確信するが故である。故に我々は外部に對しては力の政治、内部に對しては改革の政治を慾求するものである。

1、何故に我々は我々の運動を國民社會的と名付けるか？

我々は國民的なるものと社會的なるものが、此の運動に於て相關聯することを確信するが故である。

2、國民的なるものとは何ぞや？

其の影響を全世界に及ぼさんとするドイツ國民の衝動である。

34) Friedrich Naumann; Nationalsozialer Katchismus.  
S. 5 ff.



8、社會的なるものとは何ぞや？

其の影響を國民内部に於て擴張せんとする勞働者大衆の衝動である。

4、如何にして此の兩者は相關聯するか？

全世界に對するドイツ的影響の擴張は、大衆の國民主義的觀念なくしては不可能であり、且つ國民間の此の大衆の影響の擴大は、世界市場に對するドイツ權力の將來の發展なくしては不可能だからである。

5、全世界に對するドイツ的影響の擴張は、如何にして大衆の國民主義的精神に依存するか？

ドイツがアジア、アフリカ、アメリカ、就中ヨーロッパに於て、重要な地歩を獲得する爲め、陸海軍に對する大なる犠牲は、勞働大衆の同意なくしては永久に齎らされないが故である。

6、勞働大衆は果して陸海軍擴張を妨げる能力を有するか？

今日ではなほそれだけの能力を持たないが、彼等の勢力増大に従つて十年乃至二十年後には可能である。

7、労働者大衆の勢力増大の見込はあるか？

見込どころが、確定的事實である。蓋し労働者層の數と教養とは不斷に高まりつゝあるが故に。

8、労働者大衆の勢力増大によつて、軍備の擴張が妨げられる懸念はないか？

否、戦争は永久に世界から消滅せざるが故に。

11、我々ドイツ人は將來の大戦争に中立を守ることを得るか？

然り、若し我々がドイツ國民の滅亡を欲するならば。

14、労働者大衆の政治的勢力の擴大は危険ではないか？

極めて危険である。若し此の大衆が國民主義思想を持たなければ。

18、かくも政治的に重要な國民大衆が、何故に今日まで國民主義的でなかつたか？

彼等は今日まで政治的責任感を持たしめられなかつたからである。

19、何故に政治的責任感がなかつたか？

彼等は反對派として出現したものであるが、國家的權力は、専らその政治的反對者の手にあつたからである。

21、國際的社會主義は何故發展の見込がないか？

各國民の文化の水準が著しく異り、且つ一國民の進展は他國民の衰退によつて達せられるものなるが故である。

22、一切の文化的國民の勢力を、共同に伸張することは出来ないか？

然り、これら諸國民の生産物販路が狭小なるが故に。これら市場の開發は文化的諸國民の膨脹よりも遅れる。世界市場獲得鬭争は生存鬭争である。

26、國家とは何ぞや？

國家とは立法と行政との上に表はれた國民生活そのものである。國家は往々にして誤り

考へられてゐる如く、一支配階級の制度ではない。

かくして彼の國民主義思想は、大衆を背景とする國權の伸張による帝國主義思想にまで發展してゐる。此の汎ゲルマン思想に對する具體的要求は、更に大戰半ばに上梓され、歐米の廣い讀者層に普及した彼の名著「中歐論」に現はれてゐる。それによれば中歐諸國、即ちドイツ、オーストリア、ハンガリーはドイツを中心として、國際的團體でなくて鞏固な國家的連帶關係に立つことが、國防上も、經濟上もドイツ民族の世界制覇上必須條件なりとするにある。彼は云ふ「戰爭の協力が偶然であるか、或ひは必然であるかの疑問が生ずるが、私は後者であることを主張する。嘗てはオーストリアとプロシヤとが偶然に結び付けられたことがある。……今や古きドイツ帝國に於けるよりも統一の必要が多い。現在にあつては前記地帯（中歐）の大小國家は共同の交戰團體となり、勝利と敗戦も共通の運命になつてゐる。……戰爭は中歐精神の創造者となつた。……世界戰爭のあらゆる協者は、現在及び將來に於ては中小の國力を以てしては、最早大なる政策を行ひ得ざることを痛感してゐる。……此の

國家連合の歴史過程に於てプロシヤは餘りに小であり、ドイツは餘りに小であり、オーストリアは餘りに小であり、ハンガリーは餘りに小である。……それ故に中歐の結合は偶然でなく、必然である。<sup>35)</sup>そしてナウマンは此の廣大な民族國家に於て、經濟的には國民生活維持の基礎を農業に置き、殊に小農制度によるべきものとし、政治的には國家を強大ならしめる爲に大衆の國家觀念を強め、全體に對する奉仕の精神を國民に鼓吹せんとした。彼によれば、「民主主義と帝政」とが最上の政治形體であつて、帝政は決して傳統や歴史的要求の所産に非ずして、國民主義的權力意志と生活意志との結晶であつて、其の繁榮には上層階級と大衆との強調が保たねばならない。而して民主主義は無産大衆をして、彼等自身の國家であるとの自覺から、國家を愛し強大ならしむべく努力せしめる爲に役立つものであつて、同一民族たる觀念が國民大衆の自覺の精神的内容を爲すものだと言張してゐる。

x

x

x

以上説き來つた如く現代ドイツ國民社會主義運動は既に浪漫主義に於て其の思想的根柢を

35) Friedrich Naumann; Mitteleuropa, S. 3 f.

有し、更に國家社會主義キリスト教社會運動、民族主義運動等の思想及び主張を採り容れたものであるが、尙詳細にナチスの思想自體を次節に於て検討しやう。

## 第二節 國民社會主義と國民主義

前節に於て述べたやうにナチスに取つて最も本質的な特徴は國民主義であるが、此の國民主義には社會國家を有機的關聯に於て見るフイヒテ、ミューラー等の浪漫主義諸學者の國家主義、アリヤン民族の文化的優越性から出發するナウマン、シェーネラーの如き民族主義者の汎ゲルマン主義、キリスト教社會運動の抱く反セミチズム、これらの思想が混然と融合されて居り、他の言葉を以てするならば民族的國家主義とでも名付けることが出來やう。

元來民族が如何に觀念されるかに付いては議論が多い。種族と同一であるか、或ひは土地、國家の如き外部的連帶によつて結び付けられたものであるか、又言語、宗教、文化を等しくするものゝ團體と解すべきかの疑問を解くことは容易ではない。此の點に關するシュバンの

所説を見やう。

「民族 (Volk) 又は國民 (Nation) の概念を把握する爲に、著名な學者達は、國家、言語、人種、宗教、氣候、地勢、共通的傳統、文化、最後には外的な國民的共同意識等の多くの特徴を擧げてゐる。しかしながら歴史的諸民族を右の見地から見れば、直ちに明らかにされることは、それらの特徴のどれも民族の本質を完全に把握し、其の史的現實を説明するに足りないことである。……

第一に國家的連帶から説明せんとする者は、屢々國家を國民的統一と同一視してゐる。例へばモールは「國民 (Staatsbürger) の全體が民族を構成する」と云ふ。……しかし國家と民族と同一でないことは、オーストリア、ロシヤ、トルコの如き國家を見れば明らかである。これらの國家に於ては、其の中の數民族間の鬭争が絶えない。……

次に言語に付いて云へば、言語も亦國家と同じく民族の眞の特徴と考へられてゐるが、これも民族の概念を確定し得ない。例へば各國に住めるユダヤ人はエルサレムを故郷とする

一民族と見做されてゐるが、其のユダヤ語は今日に於ては僅かに文獻上見られるのみである。……

人種に關しても、それは民族と極めて重大な關係に立つが、未だそれを以て民族の重要な決定條件と云ふことは出来ない。ゴビノー、チェムバレン等は人種を民族の特性、文化力の主要な條件と見做してゐるが、現代に於ては最早統一的人種、統一的根源による民族はあり得ない。同一のドイツ人に付いて見るも、北獨のドイツ人はスラヴ人、ケルト人、ローマ人の血が南獨程多くは混つてゐない<sup>36)</sup>と云ひ、最後に彼自身の見解として「民族は共通の根源から出で、同一言語を語り、共通の政治的、文化的發達を遂げ、共同の意識を有する人々の全體である」と述べてゐる。

シドニー・ハーバートも亦ほどこれに似た定義を下してゐる。

さてナチスは民族を如何に考へてゐるか。ヒットラーは人種の先天的優劣を信じ、優秀な人種は其の純血を守らねばならないと主張することによつて、寧ろゴビノーに近似した思

36) Spann; Gesellschaftslehre, S. 469—474.



を取つてゐる。此の純血の尊重から、延いて民族と人種とは殆んど同一視されてゐる。テオドル・ホイスが、マルクシズムは歴史的発展過程の原動力を階級闘争に見たに反して、ナチスは血と人種とにそれを認めることによつて、前者の立場が史的唯物論であるならば、後者は生物學的自然主義だとまで極言してゐる。<sup>37)</sup> 此の言葉は確かに言ひ過ぎであるが、ナチスが如何に人種に重心を置いてゐるかを示すものである。

ヒットラーによれば、現代の我々の文化、即ち藝術、科學、技術等の發達は殆んど全部アリヤン人種の所産であつて、アリヤン人によつて人類は其の進歩を促がされ、其の認識の光によつて蒙昧の途を照らし、地上の支配者になつたのである。そして彼は人類を文化建設者、文化維持者及び文化破壊者の三種に分ち、アリヤン人のみが第一種の文化建設者だと主張する。「彼（アリヤン人）から一切の人間の創造の土臺と障壁とが生ずるのであつて、たゞ其の外形と色彩とが個々の民族の特徴によつて制約されてゐるに過ぎない。彼は一切の人類進歩に有力な土臺と計畫とを與へるのであるが、たゞ其の實行の上に個々の民族の相違が現はれ

37) Theodor Heuss; Hitlers Weg, S. 31—32.

てゐるに過ぎない。例へば僅々數十年間に東亞に於て固有の文化が生れたと云はれてゐるが、其の究極の根據は正しく我々の場合と同じく、ギリシャ的精神とゲルマン的技術とにある。たゞ其の外形——少くとも其の一部分の——がアジア的特徴を帯びてゐるのみである。普通に考へられてゐる如く、日本が其の固有の文化の上にヨーロッパの技術を取り入れたのでなくて、ヨーロッパの科學と技術とが日本人の特性によつて粉飾されたのである。日本の文化が今や日本人の生活方法を決定するとしても、其の實生活の基礎は固有の文化に非ずして、歐米の、随つてアリヤン人の科學と技術との所産である。此のアリヤン人種によつて東洋も亦、一般人類進歩の恩恵に浴してゐるのである<sup>38)</sup>」としてアリヤン人種に文化建設者としての地位を與へ、更に「假りに今日日本からあらゆるアリヤンの影響を奪ひ、歐米文化が亡ぶとしても、なほ暫らくは日本の科學と技術とは進歩し、存続するであらう<sup>39)</sup>」と云ひ、かくの如き其の文化的基礎を他人種から得、しかも其の影響が除かれた後までも、なほ其の文化を維持する人種が第二種の文化維持者であると云つてゐる。

38) Hitler a. a. O., S. 318.

39) ebenda.

文化創造者としてのアリヤン人に對蹠の關係に立つものは、文化破壊者としてのユダヤ人によつて代表されるセミ族である。ヒットラーによれば、此の謂ゆる選民位自己保存慾の強烈な人種は未だ嘗て存在しなかつた。しかもユダヤ人は其の固有の文化を缺ぎ、其の文化は常に周圍の諸民族から與へられるにも拘らず、彼等には文化民族として最も重要な前提たる理想主義的精神がなく、又此の強い自己保存慾の故に、彼等には犠牲的精神が缺け、共同の危険に脅かされる場合の外は決して協力することなく、此の危険から免れるや否や、忽ち彼等はエゴイストの本能を發揮して、互ひに激しく鬭争し合ふのである。かく人類の向上に缺ぐべからざる理想なきことは、やがて彼等に文化創造力がないのみならず、却つて人類進歩を妨げる原因たらしめるのである。<sup>40)</sup>

ナチスの反セミチズムは此處から出發するのであるが、此の問題は後に述べる。

かくの如くヒットラーは人種を三種に分ち、人種混合の結果は、

一、高級人種の水準低下

40) Hitler; a. a. O., S. 319—327.

## 二、其の精神力、肉體力の退歩

に導くが故に、純血を尊重せねばならないと云つてゐる。

しかしながらシユバンと共に我々も亦、人種と民族とを同一視することの不當であることは勿論、全く純粹な人種の存在を認めることは出来ない。後に述べる如くナチスは一民族は一國家に統一さるべきことを主張するのであるが、人種と民族とを同一視する時は、汎ゲルマン主義よりも、寧ろ汎ヨーロッパの思想に導かるべきではないか？ ナチスの領袖の一人レフエントロヴも此の點を認めてゐる。「ドイツ民族と云へばとて、それは人種的には甚だしい混合であることを見落してはならない。更に言語、慣習、交通、新聞紙、政治等によつて生じた、外形的類似のことを云つてゐるでもない。ドイツに於ける北方運動は、今なほ殘存せるドイツの北方民族的要素を計畫的に強め、且つドイツ民族の本質の事實上の決定權を有するものたらしめることが民族的使命であるとの根本思想を抱いてゐる。ドイツ社會主義<sup>41)</sup>は完全にこれに一致する。ドイツ社會主義も亦、かゝる民族問題が全國民によつて感知され、

41) Reventlowは國民社會主義をかゝる言葉で表現してゐる。

關心を拂はるべきことを要求する。此の要求に基くドイツ社會主義の使命は、人種的に異なるドイツの成員を綜合統一し、彼等を其の最善の特質や能力に應じて全體の中で活動せしめることである<sup>42)</sup>」と。

此の故にヒットラーの右の所説は、ナチスの反セミチズム運動の一前提と見做すべきであつて、これをナチスの民族國家に關聯せしめる時には、彼の云ふ人種 *Rasse* は民族 *Volk* との言葉の上の混同であつて、ゲルマン民族を指すものと考へねばならない。とは云へナチスの國民主義は飽くまでも優秀な人種乃至民族の根柢に立ち、延いてそれはゲルマン民族の國家的統一のみならず、優者支配による帝國主義的色彩を多分に混へてゐる。このことは次の言葉に觀取される――

「通常行はれてゐる政治思想は、國家それ自體に於て、創造的な文化構成力を具へてゐることを以て出發點として、人種的前提には何ら觸れてゐないが、それは寧ろ經濟的必然の所産であるか、精々のところ政治的權力慾の結果である。此の根本觀念は其の論理的必然過程に

42) Reventlow; Deutscher Sozialismus, S. 224 f.

於て、人種に潜在する力の承認のみならず、個人の價值輕視に導く。蓋し一般の文化創造力に關する個々の人種の相違の否定は、必然的に此の最大の誤謬を各個人の判斷の上にも移すが故である。人種平等の前提はやがて民族、延いては個人の平等の根據になる。<sup>43)</sup>」

「これに反して民族的世界觀は、人類の意義を其の人種的根本要素の中に認める。それは國家に於て原則上目的に對する手段のみを認め、且つ此の目的を人類の人種的存在の維持にありとする。故にそれは絶対に人種の平等を認めざるのみならず、其の相違の間にも、價值の大小を認め、此の認識から宇宙の永久の支配意志に従つて、優者、强者の勝利を促し、劣者の服従を要求することを以て、其の義務と爲すのである。<sup>44)</sup>」

「此の故に民族的世界觀は、力の自由な競争を反映し、隨つて永久的な相互の向上を促し、遂には最も優秀な人類をして、此の世界に土地獲得によつて、世界各地に於ける活動に對する自由な途を拓くが故に、自然の眞の意志に合致してゐる。

我々は皆、人類問題を論ずる時、支配民族としての最も優秀な人種が全世界の手段と機會

43) Hitler; a. a. O., S. 419.

44) Hitler; a. a. O., S. 421.

との支持を得て、それらの人類支配を必要とする時期の到來することを信ずる。<sup>45)</sup>」

以上によつて我々はナチスの國民主義が、浪漫主義のそれと異り、血統によつてつながれた種族的國家を内容とするものであることを知つた。このことは種族乃至民族の純血を尊重せしめ、強烈な反セミチズム思想と結び付いてゐることも前に一言した。故に此處には暫らく其の反セミチズム思想に付いて述べなければならない。

由來キリスト教社會運動に於ける反セミチズムは主として宗教的立場から來てゐた。しかしナチスはそれと異り、人種の見地から出發して、ユダヤ人を文化の敵と見做すことは、其の民族主義の當然の歸能である。即ちヒットラーはユダヤ人が常に各國民の間に寄生しつゝ、「宗教團體」の名の下に別の社會を構成してゐるが、ショーバンハウエルの云へる如く、其の「爐つきの名人」としての特性から、「宗教團體」とは實は彼等の本體を覆ふ爲の手段であるから、此の方面に反セミチズム運動の重心を置くことは的外れだと云つてゐる。かくてヒットラーは民族としてのユダヤ人が如何に他民族を毒し、其の國家に破壊的作用を及ぼしたかを

45) Hitler; a. a. O., S 422.

知るには、彼等が今日まで爲し來つた途を想ひ返せば充分だと云ひ、ユダヤ人の發展の跡を辿つてゐる。其の要領を簡單に纏めやう。

民族移動時代の初期からユダヤ人は早くも商人として出現したが、最初はそれ程厚顔でもなかつたし、殊に新來民族は生來の柔順さと素朴さとを以て、却つて商人としてのユダヤ人の存在を喜んだ。

其の結果ユダヤ人は漸次經濟的方面で活躍し始めた。勿論彼等の活動は主として、生産者としてではなく中間取引者としてであつたが、此の方面に於ける才能は遙かにアリヤン民族を凌ぎ、容易に商業を獨占し始めると共に、高利による金貸を營むに至つた。商業及び、就中彼等の重視する金融業に於ける地位の確立と共に、彼等は都會地方に定住して、「國家内の國家」を構成し、漸次其の特質を暴露し始めた。かくて彼等が中世紀人の最も重要な財産たる土地をも投機の對象たらしめるに及んで、漸く民族的反感が高まり、其の高利は反對者を刺戟し、其の無耻は憤りを、其の富は妬みを買ふに至つた。



しかしユダヤ人は如何なる迫害にも屈しなかつたのみならず、却つて封建諸侯の財政的窮迫に乗じて宮廷に入り込み、金融的援助の代償として特權を要求し、封建諸侯の没落を急がしめた。ドイツ民族がユダヤ人の害毒から免れ難い運命に縛りつけられたのは、實にユダヤ人に籠絡された、これら封建諸侯の責任である。

ユダヤ人は漸次其の外形的生活をドイツ的に改め、言語もドイツ語に改めたが、それは一は市民權を獲得し、他は金融支配による世界制覇を遂げんとする手段であつて、彼等の外的生活の如何に拘らず、其の特性は不變であつた。即ち彼等是一種族に取つて最も重要なものは血統であることを知れるが故に、自らセミ族としての純血を保ちつゝ、他の民族の血を汚濁せしめる。ユダヤ人の男子は決してキリスト教の婦人とは結婚しないが、ユダヤ人の女をキリスト教の男子に配することを躊躇せざるは此の故である。

彼等は外貌を装ふ爲に慈善行爲を辭せず、時代の先達たらんと努めるが、實際には國民の經濟を毒し、國民を滅亡の淵に導きつゝあつた。即ち彼等は株式の手段によつて、國民的生

産過程に侵入し、生産に對する個人的所有權を奪ひ、それを賣買の對象たらしめた。かくて企業家と労働者との乖離が生じ、延いては政治的階級分裂に誘つた。そしてユダヤ人自ら國民的労働力の所有者乃至其の統制者としての地位を確保した。

ユダヤ人が彼等の蒙る種族的、民族的差別打破の爲に利用した有力な武器は新聞であつた。そして彼等は新聞の利用によつて輿論を常に誤れる方向に導いた。

しかし此の時期に於ける彼等の最高の目的は、民主主義の勝利であつた。個人的人格を退け、其の代りに無責任な衆愚の支配を以てすることは、最も多くの機會を彼等に恵んだ。

高度の經濟的發展に伴ふ労働大衆のプロレタリア化、農村から都市への労働者の移動的傾向、健康の障害と權利の信念の喪失、賃銀の低下と企業家の巨利、これらの社會惡は悉くユダヤ化の結果である。

ブルジョア階級が無反省にこれらの事情を看過せる時に、ユダヤ人は一方では人類搾取の資本主義的方法を極度にまで發展せしめつゝ、他方では其の犠牲者を煽動し、其の指導者と

なつた。嘗ては彼等は封建世界打破の爲にブルジョアを利用したが、今やブルジョア社會破壊の爲に労働者を利用せんとするのである。かくして彼等は労働者大衆の間にマルクシズムの思想を植ゑ付けた。

しかも其の眞の目的は、労働者自身の奴隸化と、一切の非ユダヤ人全滅にある。一方では金融資本の獨占、他方ではマルクシズムの大衆を武器として、今や民主主義に代ふるに彼等自身の少數獨裁の實現を企て、計畫的に經濟と政治との兩方面から革命の準備を爲し、民族を内部的に對立抗爭せしめ、インターナショナルの思想を植ゑ付ける。

究極に於てユダヤ人は、經濟的には社會的企業を國家から奪つて自己の金融支配下に隸屬せしめ、政治的には國民的獨立の根據を破壊し、文化的には國民的感情を喪失せしめ、一切の美なるもの、崇高なるものを奪つて、低い動物的地位に追ひ落し、宗教的には習慣と道德とを輕蔑して、國民の最後の支柱を失はしめるのである。

此の種の最も恐るべき實例を提示するものがロシヤであつて、其處では三千萬の人間が非

人道的な壓迫の下に殺され、飢ゑてゐるに反して、他方では一群の少數ユダヤ人が國民大衆を獨裁してゐるのである。<sup>46)</sup>

以上の如くヒットラーによれば、一切の社會惡は總てユダヤ人の所業であつて、殊にインターナシヨナリズムはユダヤ人の陰謀の最たるものであるが故に、極力これを排斥して、ドイツは純粹なドイツ民族の血を以て護らねばならないと云ふのである。

ナチスの綱領の殆んど大半が、ドイツ民族純血の主張と、ユダヤ人對策とに關する規定に割かれてゐることを見ても、反セミチズム思想がナチスの民族主義の根幹を爲すものであることがわかる。

## 第二節 國民社會主義と社會主義

ナチスは國民主義であると同時に、其の社會主義的性質をも主張するのであるが、其の包藏する社會主義思想は如何なるものであらうか？

46) Hitler; a. a. O., S. 329—358.

社會主義の概念の下で通常無難作に考へられてゐることは、第一に生産手段の私有廢止である。例へばカール・ディールは社會主義に次の如き定義を下してゐる。

「社會主義とは生産手段の私有廢止を希望するか、又は我々が此の社會制度の發展の中に包含されると考へる思想である。……故に我々は社會主義の本質を消極的には、それが土地及び資本の私有に反對するものと云ふことが出来るが、積極的には其の本質は、個人的所得を勞働に基いてのみ與へ、最早財産所得からは與へざることを主張することだと云はねばならない。」<sup>47)</sup>

此の意味に於ては國民社會主義は社會主義ではない。何となればナチスは不勞所得は容認しないけれども、私有財産制の原則的承認をば明言してゐるからである。

しかしながらナチスによれば、右の如き解釋は社會主義の概念がマルクシズムによつて獨占された結果であつて、眞のドイツ社會主義はドイツにのみ固有なものであり、西歐思想たるマルクシズムと全く無關係なものである。此處にも亦我々はナチスに於ける浪漫主義的底

47) Karl Dietl; Sozialismus und Kommunismus, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Bd. S. 579.

流を見るのである。

「ドイツ社會主義は、他國民によつて模倣され得る一般的な社會主義や一般的な制度ではなく、それはドイツの本質から生じたものである。ドイツ的社會主義は一切の積極的なもの、消極的なもの、特有なものを、をこめてドイツ國家と共に亡ぶものではない。しかしながらドイツ國家はドイツ社會主義を構成し、促進すべき唯一の機會を與へるものである。かくの如きドイツ社會主義の概念に對して、それは狹すぎるとの非難が擧げられるかも知れない。即ちドイツ社會主義を吟味するには、少くともゲルマン民族、又は一定の北方民族について其の環境、特性、歴史等を研究せねばならない。しかしながら、かゝる疑ひに對しては、これらの同一根源から生じた諸民族の主要な部分、即ちアングロサクソン、オランダ、スカンデナヴィヤ及びドイツ人を見よと答へるだけで充分である。これらの諸民族が數百年の間に其の環境、政治、經濟、人種的混合、其の運命等によつて、如何に變化したか？ 彼等は數限りない要素によつて、其の形態の上に著しい變化を與へられた。……ドイツ社會主義

の如き統一的思想の下にゲルマン民族を悉く包括せんとすることは、ユートピアであり、根本的な誤りである。

反對に我々はドイツ社會主義に關する我々の思想を單にヴェルサイユ條約によつて、勝手に狹められた今日のドイツ國內に限らんとするものではない。勿論此の範圍は先づ實際的活動の中心地たるべきは云ふまでもないが、オーストリア、チェッコ・スロヴァキヤ、ポーランド及びフランス領たるか、自治國となるかに無關係に、ドイツ・エルザスのドイツ國民をも等しく特徴付けるものである。<sup>48)</sup>」

「國民及び國民の觀念のみが、専らドイツ社會主義の對象となるべきものなるが故に、我々にとつては、社會主義とはあらゆる生活關係を通じて一貫せる、最高の意義に於ける國民の思想を意味する。よし、正否は別として、國際的社會主義の慣習に従つて、團體 (Gemeinschaft) と云はずして、社會 (Gesellschaft) と云はれたとしても、我々は強ひて反對するまでもない。しかし此の言葉の本來の意味に立ち戻つて云ふならば、ドイツ國民の一構成分子たる

48) Reventlow; Deutscher Sozialismus, S. 145—146.

ドイツ人は、其の性質、自然的環境、運命、根本思想等、あらゆる事情と條件とによつて、獨特の存在たらしめられたものである。かゝる者の社會を精神と組織と政治制度とによつて完成することを、我々はドイツ社會主義と呼ぶのである。……ドイツ社會主義の目的は人間を創造することに非ずして、其の土著たる國民を創造することである。<sup>49)</sup>」

故にナチスに取つては、社會主義とはドイツ的なものであつて、換言すればドイツ國民主義そのものが直ちに、ドイツ的な本來の社會主義なのである。この主張はシュペンゲラーの「我々ドイツ人は社會主義者である。他の民族は社會主義たることは絶対に不可能である」と云ふ言葉と完全に一致する。此のシュペンゲラーの言葉こそナチスの社會主義思想の核心を爲すものであり、如何にナチスが彼の思想に負ふところ多きかを思はせる。それ故に我々は一應シュペンゲラー自身の思想を跡付けねばならない。

シュペンゲラーによれば、現代ヨーロッパ人種の間には、二大思想が闘つてゐる。一はイギリスの人生觀、即ちイギリスの本能としての海賊的精神 *Wikingergeist* から生じた思想で

49) Reventlow; a. a. O., S. 150.



あり、他はプロシヤ的、ドイツ的の人生觀、即ちプロシヤ的本能としてのドイツ騎士的精神 Ordenggeist から發達したものである。

前者は個人の幸福を要求するに反して、後者は全體の幸福を目的とする。イギリス的の人生觀にあつては、個人の自由が最も尊重され、全體、即ち國家は完全に二次的役割しか與へられず、随つてイギリスでは久しく兵役義務も就學義務も、保險義務もなかつた。これに反してプロシヤ的の人生觀にあつて最も重要なものは全體、即ち國家であつて、個人は此の全體の爲に存在するのである。存在するものは「我」でなくて、「我々」のみであり、各人は此の共同感に基いて存在することが出来るのである。此の思想の根柢に立つて、ウィルヘルム一世やフリードリッヒ大王はプロシヤ國家を建設したのであるが、イギリスはこれに反して「國家の代りに、國家と秩序とに反する自己保存の爲の、顧慮なき闘争を念願とする個人の概念」<sup>50)</sup>を立てた。此のイギリスとプロシヤとの人生觀の相違の原因は、前者に於ては島嶼を以て國家を構成せる爲に、國家としての全體觀念が忘却されてゐたに反して、後者は自然的境界を

50) Oswald Spengler; Preussentum und Sozialismus, S. 35.

缺ぎ、國民全體の鞏固な團結を以てせざれば、周囲の外敵を防ぐことが出来なかつた爲である。

以上の相對立する二つの人生觀から、更に二つの相異つた人間的秩序が生ずる。即ちイギリスにあつては富の上に、全體の貧富の差の上に建てられた秩序が生じ、プロシヤに取つては、權威 *Autorität* の相違、即ち命令と服従との關係を基礎とする秩序が生じた。それ故に前者にあつては、人間を評價する爲の第一の規準は、彼の貧富如何にあり、プロシヤ・ドイッにあつては、全體の間で占める地位如何にある。プロシヤ人に取つては位階も亦、勞務に對する報酬である。

「フリードリッヒ・ウィルヘルム一世以降、軍人や官吏の俸給はイギリスの中産階級に屬する者の額に比して甚だしく少額であつた。にも拘らず、彼等は遙かに勤勉に、私心なく働いた。位階は究極に於て俸給であつた。ベールの下に於てさへもさうであつた。此の國家内に於ける勞働者國家は決して富むことを意圖したのではなく、支配せんと欲したのであ

る。これらの労働者が彼等のストライキに於て重心を置いたものは賃銀問題に非ずして、其の權力問題、事實か否かは別として彼等の雇傭者と相反した世界觀、道德的原則に對する點にあつた。而して此の場合根本的には敗れても、道德的勝利を贏ち得たのである。かゝる事情はイギリス労働者には到底理解し難いところである。……しかるに此の訓練された労働運動が相互に相手方を無視して、激しい賃銀政策に突如轉換するに至つたことは、イギリスの原則の勝利であつた。<sup>51)</sup>」即ちドイツ労働者が其の本來の國民的使命を忘れ、利己的運動に急激に轉換したことは、彼によれば一九一八年十一月革命によつて、眞の社會主義が葬られ、イギリス主義が優位を占めるに至つた結果に外ならない。シュペンゲラーは云ふ。「眞のイギリス人は資産なき者の命令に服従し得ないと同じく、眞のプロシヤ人は單なる富に到底屈することが出来ない」<sup>52)</sup>と。

此の相違は更に兩國民の經濟觀の上にも反映する。人類の經濟的本能、其の經濟的權力の發現方法の多様性を無視して、専ら唯物論的に見んとするとは甚だしい誤謬である。

51) Spengler; a. a. O., S. 46.

52) Spengler; ebenda.

「東境の殖民的騎士道の世界觀からは、其の必然的の原則として、國家の經濟的權威が生ずる。權利と義務とは生産と生産活動とに分ち與へられる。其の目的は個人の繁榮に非ずして、全體を富ませる爲である。<sup>53)</sup>」これに反してイギリス商業民族の海賊の本能にあつては鬭争と掠奪とが目的であつて、「此の本能に取つては、一切のものは個人が自己を富ましめる爲の獲物であり、商品である。總てのイギリス機械工業は専ら商業的利益の爲に營まれる。それはより廉價なる商品製造に用立たしめられるのである。イギリス農産物の價格が貨銀低下の影響を及ぼす時には、農業は商業の犠牲に供せられる。一八五〇年のイギリス工業界に於ける企業家と勞働者との間の全鬭争は、商品たる『勞働』に關するものであつて、一は安く奪はんとし、他は高く賣らんとした爲である。マルクスが『資本主義的社會』に付いて指摘せる一切の缺陷はイギリス的經濟本能にのみ妥當するものであつて、一般の人間の經濟觀に妥當すると云ふことは出来ない。

最高の言葉、自由貿易は海賊的經濟であり、プロシヤ的な、随つて社會主義的言葉は財交

53) Spengler; a. a. O., S. 47.

換の國家的統制でなければならぬ。故に國民經濟全體から云へば、商業は支配的地位から從屬的役割に移されねばならない。……故にマルクス型の社會主義の對象となるのはイギリス型の資本主義のみであつて、超個人的見地から出發せる經濟生活統制のプロシヤ的思想は一八七九年の保護關稅立法以來自らドイツ資本主義を國家統制の意味に於ける社會主義的形態に移した。<sup>54)</sup>」

かくの如く、イギリスの原則は「個人的財産の増殖」であり、プロシヤの原則は「一單位としての國民全體の幸福の計畫的向上」である。殊にこのことは財産の觀念に關する兩者の見解の相違の上に明瞭に觀取される。

イギリス人に取つては、財産は所有者が任意に處分し、管理することの出来る獲物であるが、プロシヤ人に取つては所有者が國家から其の管理を委ねられた財であつて「一定の權利と義務との附帶せる古代の一種の知行の如きもの」<sup>55)</sup>である。

彼は云ふ、「財産のゲルマン的尊重は、個人に役立たしめる爲ではなくて、全體、即ち國

54) Spengler; a. a. O., S. 49.

55) Spengler; a. a. O., S. 90.

家に役立たしめる爲である。これが社會化である。……社會化とは徵收又は掠奪の方法による國有化ではない。一般的に云へば、それは所有權の歸趨の問題に非ずして、行政技術の問題である<sup>56)</sup>と。そしてプロシヤ的經濟觀を次のやうに綜合してゐる。

「古代のプロシヤ思想は、細心な所有權及び相續權の保護の下に、全生産力を獨自の立法の形式によつて統御し、實際の當事者の個人的企業心、才幹、精力、精神を、規律と、其の規律によつて許された範圍内の自由とを以て活動せしめることであつた。この事實は夙に昔のカルテルやシンヂケートの場合に廣く認められ、計畫的に勞働方法、勞働評價、利益分配、及び命令者と執行者との間の服務關係の上にも及ぼされてゐた。……此のプロシヤ的統治形態こそ二百年此の方、社會主義の使命と爲し來つたところのものである<sup>57)</sup>。」

此の經濟に對する立場の相違から、イギリスでは經濟力が國家を支配するが、プロシヤでは國家が經濟を支配するのである。

以上説く如く、プロシヤ的人生觀にあつて、あらゆる方面に亘つて最大の重點は、全體、即

56) Spengler; a. a. O., S. 89 f.

57) Spengler; ebenda.

ち國家に置かれるのであるが、シュペングラーによれば此の人生觀こそ、社會主義の概念の究極の、最も深遠な意義であり、且つ此の人生觀はドイツ民族にのみ固有のものなるが故に、眞の社會主義は此のドイツ的社會主義のみである。

以上のシュペングラーの思想は明らかに個人主義に對して普遍主義、唯物主義に對して理想主義を對立せしめんとするものであつて、浪漫主義的考へ方である。

さて此の思想がナチスの社會主義概念に如何に大なる影響を與へてゐるかは、前のレフェントロヴの言葉を見れば充分であるが、更にそれは一九三〇年八月、ケルンのラインランド公會堂に於けるヒットラー自身の言葉に極めて明瞭に認められる。曰く、

「若し今日諸政黨の運命に變化があるとせば、それは數多の人々が彼等の個人的運命のみを重視し、國民全體の運命は綜合された個人の運命の結果であると云ふ考へ方に支配されてゐる爲である。彼等は個人の運命が全體の運命を作るのではなくて、全體の運命があらゆる個人の運命を決定し、構成するものであり、且つ重要なことは個人の救済に非ずして、全體の

救済であることを認めないことである」と。同じ思想は彼の「我が闘争」を初め、ナチスのあらゆる文献の中に認められる。

「若しも眞に國家を構成し、乃至は維持する力は何かと聞かれたならば、其の答は次の一言に盡きる。即ち全體に對する個人の犠牲的行爲と犠牲的意志とであると。」<sup>58)</sup>（ヒットラー）

「社會主義は平等化に非ずして、全體の爲にする根深いプロシヤ的奉仕である。」<sup>59)</sup>（シュトラッサー）

「『私益に對する公益の優先』なる觀念を貫くことが現代社會に彌漫せる個人主義的觀念の腐敗的影響によつて、かくの如く破壊された國家、國民、經濟に對する、『眞の國家』の普遍主義的社會秩序の勝利を意味する。」<sup>60)</sup>（フェーダー）

これらの主張は同時にシュバンの「普遍主義の見地に立てば、社會の本質は個人に非ずして、超個人的精神である。」<sup>61)</sup>と云ふ見解にも一致する。

かくしてナチスの謂ゆる社會主義は普遍主義的主張に外ならないのであつて、要するに一

58) Hitler; a. a. O., S. 167.

59) Gregor Strasser; Freiheit und Sozialismus, S. 36.

60) Gottfried Feder; Das Program, S. 11.

61) Spann; Der wahre Staat, S. 109.



單位としてのドイツ國民の全體の福祉を計ることであり、内容的には其の國民主義と完全に一致する。

此の故にナチスが社會主義なりや否やは、社會主義概念の規定如何に懸る問題であり、随つてマルクシズム的社會主義の立場から、ナチスの綱領、政策を拉し來り、それが社會主義でないと斷定することは的外れだと云はなければならない。

#### 第四節 國民社會主義とマルクシズム

前節に於て述べた如く、ナチスの社會主義は個人主義的な西歐思想から生れた唯物論的社會主義と判然と對立するのみならず、却つてかゝる思想は眞の社會主義の敵として極力排撃するのである。故に其のマルクシズムに對する批判を吟味することは、ナチスの思想を一層明確ならしめる一助ともならう。

シュペンゲラーによればマルクスの考へ方は全然イギリス的であつて、マルクスの階級分

離は、古代の海賊本能に基き、事實上の存在として主體と客體、掠奪者と被掠奪者しか認めないイギリス商業民族の状態から抽き出されたものである。それ故に「此の概念をプロシヤ的國家思想にも當て嵌めんとすることは無意味である。マルクスは『一切は萬人の爲に』といふ原則から生ずるところの、各人は等しく全體、即ち國家の奉仕者たる地位にあると云ふ國家思想を、イギリス的工場奴隸制度の事實から區別することが出来なかつた。即ち彼はプロシヤ主義の單なる外貌しか把握し得ず、其の本質たる、一階級にのみ偏倚せざる組織、原則、共同團體、技術的形式たる社會主義を理解せずして、それをイギリス的な社會に於ける勞働者階級の目的と武器たらしめ、全く古代イギリス海員思想に捉はれて、掠奪者と被掠奪者——搾取者と被搾取者——の思想と混同し、加ふるに勝利後の獲物分前の利己主義的方法を注入した。<sup>62)</sup>かくてマルクスにあつては勞働者は其の商品の販賣者であり、企業家は其の購入者として剩餘價值を獲る爲に勞働者を壓迫し、隨つて其處から階級闘争が生ずる。此處にマルクスが社會主義を以て勞働者の爲の目的乃至武器と見做す所以がある。

62) Spengler; a. a. O., S. 71 f.

マルクスの此のイギリス的思想からは、國家は考へられない。「彼の思想にあつては國家は考へられない。彼は國家なき社會の構成を頭に描いてゐる。イギリスの政治的議會制度に於けると同じく、彼の描く社會は經濟生活に於ても、單に二つの主權的二黨派があるのみで、此の黨派の上に立つものがない。故に存在するものは鬭争のみであつて、仲裁機關を缺ぎ、勝利が没落か、即ち此の二黨派の中の一の獨裁しか考へられない。共產黨宣言は資本主義的黨派、即ち惡黨派の獨裁をプロレタリア的黨派、即ち良黨派のそれに置き代へんとする。マルクスはこれ以外の方法を知らないのである。

しかるにプロシヤ的社會主義的國家には、かゝる善惡二黨派の對立はなく、それは國民全體である。<sup>63)</sup>」

マルクスの道德も亦イギリス的である。

「マルクシズムは其のあらゆる原則に於て、それが政治的思索から出發せずして、神學的思想から出たものたることを暴露してゐる。第一に其の經濟理論は倫理的根本感情の結果で

63) Spengler; a. a. O., S. 75 f.

あるが、……其の根本觀念は道德律と考へねばならない。社會主義と資本主義なる言葉は此の誤れる宗教の善惡と解される。ブルジョアは惡魔であつて、貨幣勞働者は新らしい神話のエンゼルである。……

その結果マルクスは勞働の蔑視を説く。勞働、苛酷な、長時間の、苦しい勞働は不幸であり、不勞利得が幸福である。自己の勞働によつて生活する人のイギリス的輕視は、獲物の掠奪のみを事とし、航海を續けることは本來の目的でなかつたヴィキンガー本能の結果である。此の故にイギリスでは勞働者は奴隸である。<sup>(64)</sup>しかるにマルクスは徹頭徹尾此の勞働の神聖の意味を到底理解し得ないイギリス思想に捉はれてゐた。

更にシュペングラーによればマルクスの思想に支點を與へたものは彼のユダヤ的本能である。

「マルクスは、彼自身のユダヤ人問題に關する著書の中に現はれてゐる、彼のユダヤ的本能に據る所が多い。創世紀の始めに於ける肉體的勞働の呪咀、日曜日を勞働によつて阻害する

(64) Spengler; a. a. O., S. 73.

ことの禁止、これらのイギリス的感情に現はれた舊約的情熱に捉はれてゐた。それ故に労働を要せざる人に對する彼の憎惡が生れたのである。フィビテの社會主義は彼等を怠け者として、義務を忘れた、人生の寄生者として輕蔑するが、マルクスはそれを羨むのである。<sup>65)</sup>

かくてマルクスにあつては労働は義務ではなくて「商品」であり、彼の道德は商業道德である。賃銀闘争は労働者と商人とが、商品たる労働で投機を行つてゐるのである。「剩餘價值と云ふ有名な言葉の祕密は、實は商人が反對者から奪はれた獲物に外ならない。」<sup>66)</sup> かく見ればマルクスにあつては階級利己主義が其の根本原則で、「マルクシズムは労働者の資本主義である。何となれば其處にはマルクスは思想的にマルサスやコブデン、並にダーウィンに接近してゐるから。商業は常に生存競争であり、産業に於て、企業家は其の商品「貨幣」を、労働者は其の商品「労働」を交換し合ふのである。マルクスは資本の所有權を奪ふが、労働者の個人的利益に對する權利のみは認めんとする。かゝる思想は「非社會的であり、眞にイギリス的」<sup>67)</sup>である。次にシュペングラの唯物史觀批判を簡單に見やう。

65) 1. Spengler; a. a. O., S. 74.

66) 2. Spengler; a. a. O., S. 75.

67) Spengler; ebenda.

マルクスは産業國イギリスに關する圖式的 (schematisch) な、しかも極めて疑はしい視點から得た様相を全歴史に及ぼさんとした。即ちマルクスは此の經濟的構成の、全「人間社會」への妥當性を主張し、殊にこれこそが歴史の流れに於ける唯一の本質的なものとした。

「經濟的狀態（物理的意味に於ける）を原因と見做し、宗教、法律、道德、藝術、科學を作用と見做すところの唯物史觀は、それが無宗教的な、傳統を失つた都會人の思索に合致するが故に、現代に於ては明らかに人を信ぜしめるべき何物かを含んでゐる。其の故は經濟的事情が實際に『原因』である爲ではなくして、藝術や宗教が無力に、空虚に、外面的になり、今や事實上、時代の唯一の力強く發展せる表現形態の影となつたからである。<sup>68)</sup>」

其の師ヘーゲルがプロシヤ人として、殆んどゲーテ的に把握された發展の中心に國家を置いたのに對して、マルクスは機械的ダーウィンの「進歩 Evolution」(ドイツ的ならば Fortschritt と云はなければならぬ) の中心に、イギリス人らしく「經濟」を置いた。ヘーゲルにあつては國家が歴史の創造者であり、政治は歴史であつて、彼の言葉には「人間社會」は

68) Spengler; a. a. O., S. 79.

ない。しかるに、マルクスは國家なき歴史を考へ、歴史を經濟的利害關係の闘争と見做した。それ故にシュペングラーによれば、唯物史觀はイギリス的史觀である。<sup>69)</sup>

次いでシュペングラーはマルクスの唯物史觀にあつては、從來の歴史と同じく「古代から中世、中世から近世への進歩の途を辿り」、究極に於て地上の樂園に立つところの、一つのイデオロギーに墮してゐると云つてゐる。「マルクシズムは一つのイデオロギーである。その證明は唯物論者が信仰の力を失つた後にキリスト教から繼承したところの、彼の歴史の區分に見出される。」しかるにシュペングラーにあつては生命は「目的」を有せず、人間は目的を持たない。世界の存在は目的であり得るには餘りに崇高すぎる。「しかしながら人間に與へられた此の生命、人間に運命から贈られた此の現實を最高の内容で満たし、それによつて自ら誇らかであり得る如く生活し、我々の中の何物かを此の完成されつゝある現實の中に存續せしめる如く行動すること、これが使命なのである。我々は『人間自體』ではない。それは過去のイデオロギーに屬する。世界主義は哀れむべき言葉である。我々はある時代の人間であ

69) Spengler; a. a. O., S. 79.

り、ある國民の、ある範圍の、ある型の人間である。このことは我々が存在に意味と深さとを與へ得る爲の必要は條件である。實行者は實行者なる言葉によつてさうであり得る。我々が此の一定の限界を充すに従つて、我々の作用は益々廣く及ぶ。プラトンはアテナ人であり、ケーザルはローマ人であり、ゲーテはドイツ人であつた。彼等が全く、第一に、さうであつたと云ふことが、彼等の世界史的影響を與へ得るに至つた前提である。<sup>70)</sup>故にシュペンゲラーにあつては、人類とは抽象であり、實在するものは、常にある制約の下に於ける定型的なものでなければならぬ。其處から彼はマルクスの抽象的な人間社會の概念を退けるのである。そして最後にかう結んでゐる。

「此の立場から我々は今や、ドイツ革命のたゞ中にあつて、マルクシズムと社會主義とを對立せしめる。未だ曾て理解されなかつたプロシヤ主義たる社會主義は、最高位の一つの現實であり、マルクスは文獻である。文獻は古くなるが、現實は勝つか、死滅するか何れかである<sup>71)</sup>」と。

70) 71) Spengler: a. a. O., S. 80.



此の人間社會を抽象的な人類の發展に依存するものと見るマルクシズムからは、世界主義の抽象的觀念しか生じないが、存在するものは常に一定の約束の下に於ける生ける現實と見るドイツ社會主義からは、躍動せる國民國家の思想が生れる。

レフエントロヴは云ふ、「國際社會主義は國民及び民族を低い社會的發展狀態の現象形態と見る。國際社會主義に取つては、國家及び民族は『社會主義』への途の退歩であり、障礙である。……これに反してドイツ社會主義に取つては、ドイツ國民それ自體が、理論上も實際上也、最初にして最後のものであり、ドイツ社會主義に取つては、國民が理想であり、其の完全な實現が彼の全努力の内容を爲す。……此の故にドイツ社會主義に取つては、國民又は民族は最初から自然に與へられた統一であつて、各人が其の中で自由な生活營み得る爲の生ける有機體である<sup>72)</sup>」と。

此處にマルクシズムと、シュベングラールのプロシヤ主義と同じ内容を持つナチスの謂ふ社會主義とは鋭角的な對立を爲す。

72) Reventlow; a. a. O., S. 148.

「國際社會主義の祖述者達の見解は、一見してそれが形式的推論の結果であつて、國民の上に存在する心理の誤解と、無限の價値の輕視とにあることがわかる。……ユダヤ的な冷血國際主義者マルクスは、彼の謂ゆる既存の『プロレタリア』階級の意識的國際主義から出發し、『労働者階級』の鞏固な團結による、あらゆる國境の破壊を最高の目的とするものである。各國の労働者の事實上の連帶が、生ける統一として存在せざることは明らかであつて、それは常に幻影である。<sup>73)</sup>」

更に右の對立は兩者の階級闘爭理論の上に一層明確に現はれてゐる。ナチスが階級の對立及び階級闘爭を嚴に否定することは、ヒットラーの次の言葉に明らかである。

「國民社會主義的労働組合は階級闘爭の機關に非ずして、職業代表の機關である。國民社會主義國家には何らの『階級』は存在せずして、在るものはたゞ政治的には完全に平等な權利と義務とを有する國民のみである。……元來労働組合が『階級闘爭的』なのではなくて、マルクシズムがそれを階級闘爭の用具化したのである。マルクシズムは國際的ユダヤ人が白山

73) Reventlow; a. a. O., S. 30.

にして獨立な民族國家の經濟的基礎を破壊し、國民的商工業を阻害し、自由な民族を超國家的世界金融ユダヤ主義の下に隸屬せしめる爲の經濟的武器を作つたのである。<sup>74)</sup>」

次いでシュペングラーとヒットラーとはマルクシズムの「非社會性」を特にストライキの鬭爭手段の中に認めんとしてゐる。シュペングラーによれば國家全體の幸福に顧慮せざる放恣な貨銀鬭爭の思想は、プロシヤ的ドイツ的人生觀に正反對なものである。「ストライキはマルクシズムの最も非社會的な特徴であつて、……其の鬭爭手段の前提は、國家としての國民は存在せずして、在るものは常に黨派のみだといふことである。放恣な貨銀鬭爭並にプロレタリア黨派の勝利の後に、貨銀を一方的に決定せんとするマルクスの思想はイギリス的である。これに反してプロシヤ的思想にありては、一切の勞働を通じて其の貨銀の決定は超黨派的、國家的であつて、個々の職業階級の爲ではなく、全國民の利益の爲に、全部の經濟狀態に應じて計畫的に決定するのである。……かくてそれは非國家的な取引的な個人的手段としてのストライキを禁止する。貨銀の決定は企業家及び勞働者に任せずして、一般經濟會議

74) Hitler; a. a. O., S. 674 f.

に委任される。<sup>75)</sup>」

右の點に關するヒットラーの見解も同じである。「勿論此の國民社會主義的國家は、企業家と勞働者との兩派の大衆鬭争の代りに、萬人に法的保護を加へねばならない。國民經濟の發展と、それに害惡を及ぼす一切の弊害や缺陷除去の義務は經濟會議の任務である。今日の數多の鬭争は身分階級會議と中央經濟議會とによつて調停される。かくして貨幣問題に於ける企業家と勞働者との間の鬭争は無くなり、これらの問題は一般により高所、即ち國民全體と國家との幸福の立場から解決される。<sup>76)</sup>」

更にナチスに於ける著ろしい特徴は、其の種族的乃至民族的見地並に、「國家破壊の最大原因」としての金融資本打破との立場から、マルクシズムの排撃に及べる點である。ヒットラーに取つては、マルクシズムの「究極の目的」は「一切の非ユダヤ的國民國家の破壊」<sup>77)</sup>にある。シュトラッサーが「マルクシズムは諸國民の國民主義的經濟獨立に對する國際的金融支配の爲の權力鬭争である」<sup>78)</sup>と云ひ、レフェントロヴが「國際的社會主義は、それが完全に

75) Spengler; a. a. O., S. 77.

76) Hitler; a. a. O., S. 677.

77) Hitler; a. a. O., S. 85.

78) Strasser; Freiheit und Brot, S. 12.

インターナショナルなものであれ、一國內に止まるものであれ、要するに手段であつて、如何なる場合にもそれは國際資本主義の忠僕である」<sup>79)</sup>と云へるも、等しく軌を一にする。

然らばナチスに於て、ユダヤ人は如何にしてマルクシズムに關聯せしめられるか？ ヒッ

トラーは云ふ「彼（ユダヤ人）は勞働者に接近し、其の信頼を獲る爲に、彼等の貧困な運命に對する表面的な同情や義憤を粧ふ。彼は各個人に、よしそれが事實上のものであらうが、想像上のものであらうが、其の生活上の苦惱を痛感せしめんと努力する。彼はあらゆるアリヤン人の中に眠れる社會正義に對する要求を眼覺ましめ、それを巧みに幸福な者に對する憎惡に轉じ、社會的弊害除去の爲の鬭争に一種の世界觀的外貌を與へる。かくして彼はマルクス學說を基礎付けるのである。

彼はマルクシズムが一切の社會正義の要求に不可分なりと主張することによつて、其の普及を計る。……此の學說は理性と狂氣との混合物であつて、人間、隨つて民族と其の人種的内容との絶對的否定によつて、人間文化全體の根本的基礎を破壊する。これがマルクスの世

79) Reventlow ; a. a. O. S. 33.

界觀の眞の核心である。……人間と人種との破滅と共に少數者支配の最大障礙が除かれる。而して此の少數者とは即ち、ユダヤ人のことである<sup>80)</sup>と。

以上の如きマルクシズムと社會主義との對立から、シュペンゲラーの次の如き斷定が生ずる。即ち一九一八年十一月のマルクシズム的革命時代に當つて、「眞の社會主義は戰線で最後の争鬭を繼續してゐたか」、或ひは「戰死してゐたか」の何れかであり、「それは一九一四年八月に鼓舞されて立ち上り、一九一八年に裏切りに遭つたところの社會主義である<sup>81)</sup>」と。

同様にヒットラーもかう云つてゐる――

「一九一四年八月のドイツ勞働者をマルクシズムと同一視するのは馬鹿である。ドイツ勞働者は當時未だ此の有毒な疫病に罹つてはゐなかつた。でなければ彼等は戰鬭に参加しなかつた筈である。……マルクシズムは一九一四年の七月頃、それに迷はされてゐたドイツ勞働者が覺醒して、時々刻々祖國の爲に劍を取つて立ちあがるのを見て驚かざるを得なかつた。瞬時にしてマルクシズムの破廉耻な國民僞瞞の害毒は吹き散らされたのである<sup>82)</sup>」。

80) Hitler; a. a. O., S. 350 f.

81) Spengler; a. a. O., S. 12.

82) Hitler; a. a. O., S. 184 f.

## 第四章 ナチスの政治理論

### 第一節 國家觀

前説に於て述べた如く、ナチスは其の現實主義的立場から抽象的な人間社會を認めず、且つ國際主義を其の上に立てられた幻影として退けつゝ、他方に於て生ける現實としての民族の基礎に立てられた國民主義を高調する。かくてナチスに於て要求せられる國家は云ふまでもなく民族國家である。即ちそれは血によつてつながれ、一切のドイツ國民を共同の意識的に統一せんとする汎ゲルマン國家でなければならぬ。このことはナチスの綱領第一條、第四條乃至第九條に極めて熾烈な要求となつて現はれてゐるところであり、唯理主義の反動として起つた浪漫主義思想の先人フイヒテ、ギヨルレスの自然的國境否定論、民族主義者ナウマンの中歐統一論と一致してゐる。

同時に、民族國家の要求されるところにあつては、其の普遍主義的立場から、國家は最早個人主義的自由主義やマルクシズムに於けるが如き、言語や自由な連帶感によつて原子的に結ばれた個人の單なる集積ではない。

フェーダーは云ふ——「現代支配せる學說によれば、社會は個人の集積であり、國家は最上の意味に於て多數個人の同一目的に結ばれた團體である。

それによれば、社會の構造は恰も石造家屋に等しいと云はなければならない。即ち此の石造家屋にあつては個々の石のみが唯一の現實であつて、其の家屋の外形は偶然の所産であり、其の石の積み方如何は家屋に取つて無關係であつて、如何に多くの石の機械的集積から成れるものであらうとも、依然としてそれは石造家屋たるに過ぎない。

我々の國民社會主義的社會學乃至國家哲學によれば、國家は家である。……此の家は數多の個々の部分的偶然的集積に非ずして、計畫的に綜合されたものである。……かくて初めて混沌は有意義に、有機的に秩序立てられ、一定の計畫に従つて、混沌から形式が生じ、無意



味な大衆は有意義に結合された全體となり、各部分は眞に有意義な生活となり、此處に初めて、眞の國家が生ずる。<sup>1)</sup>」

同じくヒットラーにあつても、國家は一つの政治的權力、同一の言語の下に於ける自由な人間の綜合でなくして、有機的統一としての民族そのものが國家である。故に「國家の最高の使命は人種の保存と向上と」にある。即ち彼は究極の目的を國家に見ずして民族に見る。「民族的世界觀の基礎に立つ新運動の第一の義務は、國家の本質と存在目的に關する觀念に統一的形式を與へることである。」

而して其の根本的認識は、國家は目的に非ずして手段だといふことである。實に國家はより高い人類文化創造の前提であるが、其の原因ではない。寧ろ其の原因は専ら文化創造力に富む人種が存在にある。<sup>2)</sup>」

「國家自體が文化を一定の高さまで高めるのではなく、それを制約するのは國家の中に含まれた人種である。……國家は目的に對する手段であつて、其の目的は精神的にも肉體的にも

1) Feder ; a. a. O., S. 16 f.

2) Hitler ; a. a. O., S. 430.

同一種族に屬する人間の共同團體の維持と促進とにある。此の維持そのものゝ中に第一に種族的存在が含まれ、其の結果、此の人種の持つ一切の力が自由に發揮せしめられるのである。此の力の一部は先づ肉體力の維持に役立たしめられ、他の部分が精神的向上に利用される。しかも其の各々は相互に他の前提となるのである。此の目的に資するところなき國家は誤まれる存在現象である。……

此の故に民族國家の最高の目的は、優秀な人間の善と尊嚴とを創造する文化的な、種族的要素の維持である。故に我々アリヤン人は國家の下に民族の生ける組織を構成し、此の民族を保存するのみならず、其の精神力を更に發揮せしめることによつて、最高の自由に到達することが出来る。」優秀な國家と劣等な國家との評價の尺度も亦、其の國の暫時的な文化の水準又は國防力の強弱に非ずして民族である。<sup>3)</sup>」

「優秀な國家と見做さるべきものは、其の國家がそれによつて代表された民族の生活條件に合致せるのみならず、此の民族を國家の存在によつて活動せしめ、全世界に其の文化的意義

3) Hitler; a. a. O S. 431 ff.

を認識せしめる國家である。蓋し國家の使命は新たな力を産み出すことなくして、既存の力を發揚する爲の自由な途を拓くことだからである。それ故に如何に文化が高くともその民族が純血によつて統一されざる時には、かゝる國家は劣等な國家と云はなければならぬ。蓋しかゝる國家は最早既存の文化すら維持し得ざるのみならず、生ける國家に統一された民族の文化創造力をも破壊するが故である。<sup>4)</sup>」

以上の如く國家を以て民族の統一と見做し、且つ其の使命を民族の精神生活の維持向上にありとするナチスの立場は、國家を以て單に國民の共同生活を保障する爲の團體であり、随つて其の活動を個人の自由な活動に抵觸せざる範圍に限定せんとする個人主義的立場と著ろしい對照を爲す。

かくてナチスの民族國家は究極に於て、文化國家であるが、このことは國家と經濟との關係に關する次の言葉にも現はれてゐる。

「技術と工業との進歩に伴ふドイツ商業の繁榮は自ら、これら總ては強力な國家の前提に於

4) Hitler; a. a. O., S. 435 ff.

てのみ可能であることを忘却せしめた。のみならず反對に、國家の存在自體が工業や商業の繁榮に俟つものであり、經濟狀態が最も健全な、最も自然な基礎であると考へる者さへある。

しかし國家は本來一定の經濟觀乃至經濟的發展と無關係なものである。

國家は經濟的任務遂行の爲め、一定の地域内に於ける經濟人の團體ではなくて、肉體的にも精神的にも平等な人間の進歩と、其の存在目的の到達とをより容易ならしめる爲の團體組織である。これ以外に國家の目的と意義とは存在しない。同時に經濟は此の目的達成に必要な數多の手段の中の一つに過ぎない。……種族維持の衝動は人類共同體構成の第一の原因である。それ故に國家は民族的組織であつて、經濟的組織ではない。此の大なる相違が、特に今日の謂ゆる政治家に理解されてゐない。其の結果彼等は經濟を以て國家の基礎たらしめ得ると信じてゐるが、實は國家は種族保存の意志に基づく活動の結果である。しかしながら種族の保存は個人の犠牲心に俟つべきものなるが故に、小人のエゴイズムでなく、常に英雄的道德によらねばならない。……故に國家の創造と維持との眞の前提は、本質を等しくする平等

な種族と、其の最高の犠牲心との上に立つ共同生活觀の存在である。……國家創造と國家經濟との特性が、經濟と關聯すること如何に少きかは、一國の内的力が極めて稀れな場合にしか謂ゆる經濟的繁榮と一致しない事實が最も明瞭に示してゐる。しかもかゝる場合でさへそれは既に其の國家の没落が近付きつゝある兆であつたことは數多の實例が示してゐる。<sup>5)</sup>」

かくてヒットラーはドイツが赫々たる國威を發揚してゐた時代には、經濟も繁榮したが、しかし此の經濟はドイツ國民の唯一の内容ではなくて、其の中に道德が失はれ、ば國家は再び衰頹し、やがては經濟も衰へざるを得ないと云つてゐる。然らば眞に國家を創造し、維持するのは何かと云へば、結局「全體の爲にする犠牲心」<sup>6)</sup>である。「私益に對する公益の優先」の原則が此處でも主張されるのであつて、國家は個人の爲にあるのではなく、個人が國家の爲に存在するのである。

以上述べたところがナチスに於て觀念される國家である。

さてかくの如き普遍主義的立場に立つ民族國家は必然的に強權主義に結び付き、内に向つ

5) Hitler; a. a. O., S. 164—167.

6) Hitler; a. a. O., S. 167.

ては厳格な個人の服従と規則、外に向つては國威の發揚を要求し、延いては帝國主義的傾向から免れることが出来ない。しかしこれについては項を改めて述べやう。

## 第二節 身分階級國家

國家を以て個人の機械的原子的集積と見る個人主義的國家觀の代りに、國家を有機的全體と見、個人の絶對的平等を認めず、其の政治形態の上に貴族主義を移さんとするナチスは、身分階級國家に於て其の政治經濟理想を體現せんとする。

シュバンも個人主義的秩序と普遍主義的秩序との特徴を左の如く對立せしめてゐる。

個人主義的秩序の特徴

一、原子的なること。

a、國家乃至社會の各構成員は互ひに同質にして平等である（*homogen und äquivalent* 平等の原則）。

b、各人は究極に於て孤立的である。

二、随つて國家形態は必然的に統一的であり、直接的である。蓋し各個人の平等からは各人が直接的關係に立つ國家權力が生ずるからである。

普遍主義的秩序の特徴

一、各部分の原子的平等に代ふるに、有機的不平等を以てすること。

a、國家社會の各構成員の不等。

b、目的達成上の等價値。エツァレンツ

c、等價値は更に能力に於ける平等を意味する。

二、部分の段階的不平等 (*rangordnungsmässige Wertverschiedenheit*)。

三、社會の各部は孤立的個人から成立するものに非ずして、團體によつて構成される。更に此の團體の特徴は精神的全體の一部たること。其の結果

a、身分階級的構成。

b、間接制の確立。

c、各部分の有機體化。

シュバンは此の觀點から進んで、國家社會は本來相互に不平等な者によつて構成されるのであるが、更にかゝる國家社會の下にある團體は平等なものによつて構成されると主張し、これを「團體の内部的平等又はホモゲニテートの法則」と名付けてゐる。次に相互に平等であり、相互に結合して團體を構成する者は少數なるが故に、右の原則から更に「團體の狹小性の法則」が生ずる。而してこれらの團體が其の價值に應じて順次結合されて一體を爲す時に、原子的ならざる有機的な國家社會が構成され、ピラミッド式に最も價值あると共に最も少數の階級層が其の頂點を構成し、最も價值少く、且つ多數者の階級層が其の根底を構成する。此の價值の支配、即ち眞の權力支配なくしては社會はあり得ない。

次に此の相互に價值を異にする諸團體は如何にして構成されるかに付いてシュバンは次の如く説いてゐる。



相互に相異なる各團體が夫々其の特性を具へて、全體の構成分子になるのであるが、此の分子を爲すものは身分階級 (*Stände*) である。それ故に此の身分階級は次の特徴を具へねばならない。

一、全體の表現たること。

二、しかしそれは全體の完全な表現に非ずして、全體の特殊な表現たること。

三、二の結果として他の身分階級と本質的相違を含むこと。

これらの組織の段階としての身分階級が政治的には國家を構成する。それ故に國家はこれら各部分の觀念的統一體であつて、此の基礎の上に生活の全組織が置かれるのである。總て組織なるものゝ明白な特徴は、これらの組織内部及び組織相互間の支配關係なるが故に、一つの身分階級の政治的立場は國家内部に於て一定の支配的立場を維持する。

さて此の身分階級が純粹に精神的に、其の内部關係によつて統制され、相互に其の價值に應じて區別されて、價值のピラミッドを構成する時に、身分階級の最善の政治形態、即

ち最善の國家形態が構成される。「最善の國家形態は最善の者を支配者とする國家形態である。<sup>7)</sup>」

さてこのことが如何にして可能であり、如何にして實現されるかの問題が起る。シュパンによれば相互に不平等であり、且つ相矛盾する部分を全體に統一することが最高の組織の問題である。而して此處に行はれるものは、彼の謂ゆる支配段階の法則、若しくは支配實行の間接性の法則である。即ち善なる者が善惡一切を支配するものではなく、善又はそれに近いものを支配するのであつて、最善なるものは善なるものを、善なるものは次位の善なるものを支配することによつて、順次「支配は其の性質上段階的に上から下に及ぶ<sup>8)</sup>」のである。

それ故に「最善の國家形態は、形式的に見れば、國體を段階的に構成されたる國家形態、即ち我々の謂ふ最廣義に於ける「身分階級的」に構成された、身分階級國家である。……身分階級國家が普遍主義的社會觀の最も完全な政治的表現である。<sup>9)</sup>」

以上がシュパンの身分階級國家に關する根本觀念であるが、これは明らかに浪漫主義思想

7) Spann; Der wahre Staat, S. 204.

8) Spann; a. a. O., S. 205.

9) Spann; a. a. O., S. 207.

の復活であつて、國民生活の正しい姿を中世紀の身分階級の中に見出さんとするものである。即ち個人主義思想の極端な支配による現代の社會的政治的經濟的行詰りを、多分に倫理的要素の盛られた身分的連帶によつて打開せんとするものであるが、同時にこれは近年に於ける顯著な思潮の一つでもある。即ちイタリヤに於ては既に、此の身分階級國家の思想は其の組合國家の形態に於て實現され、ドイツに於ても身分階級會議の萌芽は早くも、ビスマルクによつて提議された經濟議會、及びワイマール憲法第一六五條に於ける帝國經濟會議に於て見出されるのである。

しかしながら此の身分階級國家の要求は、ハンス・ロイブケも云へる如く、それは中世紀其の儘の姿に復歸せんとするものではない。中世紀人は例へば、貴族階級(Fürstenstand)、騎士階級(Ritterstand)、市民階級(Bürgerstand)等の如く、共同生活の強制的形態の中に生れ、終生それは身分として固着してゐたが、現代に於ては身分階級は最早身分を離れて、經濟的要素が極めて強く加はつたことを特徴とし、自己の意志と其の環境とに應じて自由に選

擇された身分階級に加はるのである。

それ故に近代的觀念に於ては、身分階級國家制度は、一面には普遍主義的立場から考へられた最優秀者の支配を可能ならしめる政治形態たると同時に、他面に於ては、此の制度の中に經濟と政治との調和を求めることによつて、從來の政治經濟組織の缺陷を匡正せんとするものである。このことはシュバンの次の言葉にも觀取される。

「現代に於ては身分階級的根據に立つ社會の新秩序の最も重大な問題は、經濟的身分階級の組織である。これに反して古代や中世紀に於ては、政治的身分階級の構成が中心問題であつた。今日純經濟的身分階級が重視される所以は、經濟的問題が最も重要であり、且つ歴史的發展の上からもさうである爲ではなく、個人主義的社會に於て、生活の廣汎な領域を占める此の經濟が無秩序の中に放置されてゐるが故である<sup>10)</sup>」と。

それ故に此處には先づ、身分階級國家の經濟側の觀察から進まねばならない。以下シュバンの所説に聞かう。

10) Spann; a. a. O., S. 248.

シュバンは其の前提として身分階級の根本的特徴を擧げてゐる。即ち

1、身分階級は其の經濟的特徴として、一種の組合的性質をそれ自體の中に含んでゐる。

2、身分階級は内部的自決權を有する。

3、身分階級に分たれた國家は、他の有機體の如く、更に多くの有機體から成る。

4、個人が各々身分階級に所屬することは、必然的に競争を排除する。

5、身分階級的社會は精神的である。

6、身分階級國家に於ける自由と平等とは、平等者間の自由と平等である。

7、身分階級は集中化を企圖するに非ずして分散化に制約を加へる。<sup>11)</sup>

次にシュバンは身分階級の財産關係に論及してゐる。彼によれば將來の身分階級は其の本質上職業組合でなければならぬ。此の職業組合の財産關係は次のやうに考へられる。身分階級は人間の大なる集合なるが故に、其處には絶対に完全な平等はなく、随つて共產的財産はあり得ない。しかしながら私有財産制の承認は身分階級的連帶に合致せる共有的制度を設

11) Spann; a. a. O., S. 247.

けることを斥けるものではない。即ち身分階級に於ては、財産の管理は個人に委任されるが、それは身分階級、究極には國家によつて制限されるのであつて、つまり形式的には私有財産制はあるが、それは部分的全體（身分階級）によつて支配される。

第二は職業的身分階級（Berufsstände）の組織如何の問題である。彼の云ふところによれば、將來の身分階級的經濟制度は從來の經濟組織を、決して人爲的、強制的に新たな形態に變へんとするものではなく、隨つて一般企業の國有化の如きを主張しない。事實に於ても特殊財政的、又は軍事的理由等によるものゝ外は統一的大經營、國有化の傾向は認められず、寧ろ現存の企業形態を其の儘に保存して、それを擴張せんとする傾向がある。即ち「一方には勞働組合、他方にはカルテル及びカルテル類似の企業聯合があり、此の兩者が總勞働契約によつて結ばれるのであるが、これこそ國民經濟上將來の身分階級的發達の基礎たるものである。」<sup>12)</sup>

此の傾向は大企業のみならず、中小企業に於ても一般に認められる現象であり、それが産

12) Spann; a. a. O., S. 256.

業界に於ける身分階級的社會の支柱を爲すものであるとして、更に右の所説を布衍してゐる。

右の總勞働契約は云ふまでもなく、勞働組合又は勞働者と、企業家組合又は企業家との間の賃銀、勞働條件等に關する契約である。此の既存の總勞働契約が右の新經濟組織の上に如何なる關係があるか？「此の勞働關係の共同的、全體的統制から、カルテルと勞働組合との眞に有機的な結合が得られる。此の結合によりて單なる勞働秩序から全體的、職業秩序が生れ、究極に於て勞働組合とカルテルとの相互關係から統一的組合（ツフ）が生れる。」<sup>13)</sup>

「かくして總勞働契約はそれ自體に於て、勞働秩序から職業秩序を生み出すと同時に、二つの全體、即ち勞働者と企業家とを一つの職業組合、即ち眞の組合に組織する傾向を持つてゐる。故に總勞働契約は明らかに、勞働組合とカルテルとを其の有機的構成分子とする統一的全結合を構成する力を具へてゐる。勞働組合とカルテルとは組合（職業團體）の自然的下級分子を構成する。」<sup>14)</sup>

13) Spann, a. a. O., S. 257.

14) Spann; a. a. O., S. 258.

右の組合の構成によつて労働條件は改善され、労働爭議は幾分緩和されるが、勞資の對立はなほ完全には除かれない。此處に他の組合の生れる動機がある。即ち總労働組合によつて結ばれた組織の影響を受けて、労働組合及びカルテル自體の中に、更に組合的團體が結成される。これを企業家側に付いて見れば、原料購入組合、信用組合、貯蓄組合、販賣組合、生産組合等の結成によつて、經濟活動の發展と、組合内部の共同的幸福を増進し、恐慌緩和の效力を發揮する。

労働者側にあつては、共同的平均労働、共同見習制度、専門教育制度の組合的管理、共済組合、購買組合、消費組合、等々の如き組合を初め、其の他労働者をして積極的に營利事業の利益に均霑せしめる等の組合をも結成する。

以上の如く構成された組合は必然的に一種の國家的機能を行ふ。

第一に殆んど總ての企業上の紛争は身分階級内部に於て解決され、組合の協定、裁停等の諸制度が、云はゞ司法的任務を行ふ。



第二に國家の行政及び稅制に關しては下級身分階級が専門會議を組織し、止むを得ず中央政府の管轄に屬するもの以外の行政事項が委任される。勿論これらの行政事務は根本的には強力な中央政府の監視と主權との下に置かれ、身分階級自體は決して國家内の一國家を構成するものではない。其の他にも教育、保健事業の如きは總て身分階級に於て管轄さるべき問題である。

かゝる身分階級的制度の下に於ては、勞働者階級は最早孤立せる階級に非ずして、有機的に全體の一部を構成するが故に、勞資の對立は著しく緩和される。即ち勞働者は各種の組合を通じて全經濟に關與し、且つ企業家の地位に上る機會まで與へられるのである。殊に小企業にあつては、前に述べた原料購買組合の如き職業組合的組織によりて企業家の地位に上ることが容易である。尤も大企業に於ては専門的知識の必要等の理由から比較的困難である。勿論これらの企業にありても企業家は依然として指導者としての地位を失ふことなく、其の財産の私有、相續等は認められるが、他面に於て公共の利益を尊重する身分階級制度の

本來の要求から、著しい制限が加へられる。

次に身分階級の國家に對する關係を見るに、國家の本來的任務として殘されるところは、最早政治的文化的領域のみであつて、經濟的事項は殆んど全部各身分階級の内部に於て、飽くまでも「平等者間の平等」の原則によつて支配される。

これに反して中央政權は多數決に非ずして、最善者の支配するところであり、隨つて身分階級國家には最早今日の意義に於ける政黨は存在せず、存在するものは専ら專門的團體のみである。何となれば利害の對立は大部分身分階級内部で解決されるが故である。

最後に身分階級國家にあつては、經濟的指導者は同時に政治的指導者であつて、各身分階級、下級の組合聯合等の代表者は總て、他の身分階級及び國家に對して、所屬團體の政治的利益をも代表する。

しかしながら他方に於て政治的身分階級の權限は、右の經濟的身分階級によつて少しも制限されるものではなく、たゞ最初から國家的任務の範圍が制限されるに過ぎない。かくて政

政治的事業は最も、大衆の意志、大衆の支配によることなく、既に組織された團體によつて權威ある専門的知識を以て審議されるが故に、民主主義的議會制度に於けるが如く、デマゴギーや修辭を弄する餘地がなくなると共に、今一つの利益は、指導者が、無知な無節操な大衆の選擇によることなく、各團體の責任ある指導者によつて選ばれることである。

政治的身分階級に付いては、シュバンは極めて簡單にしか論及してゐない。

其の第一の特徴は國家的事業の大部分が經濟的身分階級に移されるが故に、其の數が甚だ少いことである。身分階級國家にあつては經濟の指導者が同時に政治の指導者でもあり、組合、其の下級團體其の他の身分階級的團體の指導者は總て、外部に對して其の政治的利益をも代表する。かくして民主主義の弊害は除かれる。シュバンは云ふ「自由な民主主義的無政府主義的騷擾の餘地が無くなり、大衆の代りに、知るべき必要ある一切の事に通曉せる公共的團體が對立するところでは、最早宣傳術や辭禮の巧みな人は容れられないのみならず、専門的事業に付いては、あらゆる關係者が權威ある連帶を構成し、自信を以て行はれるのである

る。かくして中世紀がギリシヤやローマに比し、スパルタがアテンに比して、遙かに政治的騷擾の少なかつたことがわかる。<sup>15)</sup>」

其の他の點は要するに經濟的身分階級の國家に對する關係に於ける所論の反復に過ぎない。

以上がシュバンの身分階級國家に關する要旨である。かくの如くシュバンに觀念されてゐる身分階級は、實際に於ては中世紀的な身分の要素を失ひ、究極に於てそれは經濟的連帶による職業的組合であり、其の身分階級國家は要するにイタリヤに於て實現されてゐる組合國家に外ならない。

さてシュバンの此の身分階級國家思想がナチスによつてどの點まで踏襲されてゐるかの問題に到達した。

先づ其の組織を見やう。此の問題に對し遺憾ながらナチスの文献には纏まつたものがないが、散見せられる個々の所説を綜合すれば、大要左の如くである。

15) Spann; a. a. O., S. 288.

最下級の身分階級の構成には労働者側に於ては労働組合、企業者側にあつてはカルテル及びそれに類似の職業組合が中心になる。ブッフナーは云ふ「企業家側に於て身分階級的團體と見做すべきものは、縦の連合たる職業組合、信用、貯蓄、販賣等の組合であり、労働者側に於ては普通の労働教育、普通教育、専門教育、會計（疾病、災難、老年、失業費用等の）等の諸制度の組合的組織、及び購買、消費、其の他の一般組合である。」<sup>16)</sup> ヒットラーも自ら「労働組合は將來の經濟議會乃至職業的身分階級會議の基礎として必要」だと云つてゐる。即ち原則としてあらゆる經濟部門、職業階級毎に一つの組織を具へてゐる。故にこの點に於てはシュバンの所説と一致する。これらの組合は地域的に結成され、更に一定の地域毎に各種の團體を綜合せる身分階級議會(Ständekammer)が其の上級機關として設置される。これは其の地域内の一切の經濟事項を統制すると同時に、更に上級の經濟的身分階級議會(Ständehaus)の一構成分子となる。ヒットラーの謂ふ中央經濟議會(zentrales Wirtschaftsparlament)がこれに當る、此の外に専ら政治的事項に關しては政治的身分階級會議が置かれ、經濟

16) Buchner; Grundriss, S. 35.



次にこれらの機關の機能であるが、其の組織に於ては上述の如くシュパンから汲むこと甚だ多きを思はせるにも拘らず、機能に於てはなほ多少の隔りを見逃すことは出来ない。シュパンによれば、身分階級國家にありては政治經濟一切が分散的に統制されることが必然であつた。しかるにナチスにあつては、其の強權主義から、前節に述べた如く、國家は多元的であつてはならない。一切は中央政權の政令に基かねばならない。勿論綱領第二十五條は、各支分國に創設された政治的身分階級會議と經濟的身分階級會議とに、一定範圍内の行政權を委任すべきことを規定してゐるが、其の範圍は極めて狭く、主として經濟的問題、殊に勞資間の調停の如き事項に限られて居り、加ふるに決議權がなく、諮問機關たるに止まる。ヒッラーは云ふ「民族國家は最初から其の代表團體を政治的身分階級會議と職業的身分代表會議とに分ち、此の兩者の協力を有效ならしめる爲に其の上に卓越せる元老院を置く。

此の兩會議及び元老院は實行機關であるが決議機關ではない。各議員は發言權を有するも決議權は與へられない。<sup>18)</sup>」

18) Hitler; a. a. O., S. 502.

これから推す時は、其の上級機關たる中央經濟議會も同様と見做さねばならない。勿論これらの機關は綱領に規定せる如く、今日の地方議會、聯邦議會に代るべき一部の機能を委任されると共に、他面には地域代表の缺點を職業代表によつて補ふことが可能であらうが、最終の決定權は留保されてゐる。

寧ろナチスに取りては、身分階級國家制度の機能は職業的身分階級會議の手を通じて、勞資の對立を緩和せんとすることとし、經濟の統制を行はんとする點にあるものゝやうである。ヒットラーはかく云つてゐる。

「經濟會議は國民經濟の繁榮と、經濟を阻害する弊害、缺陷の除去とに對する義務を課せられる。今日數百萬の人々によつて行はれつゝある鬭争は、身分階級會議と中央經濟議會とによつて解決される。かくして企業家と勞働者とは最早貨幣鬭争を行ひ、兩者の經濟的地位を損ふことなく、これらの問題は、其の上に立ち國民全體と國家との福祉を最大任務とする機關によつて解決される<sup>19)</sup>」と。

19) Hitler ; a. a. O., S. 677.



### 第三節 政治形態

個人主義、自由主義への反動として起つたナチスは、國家の政治形態に於ても、民主主義に對して貴族主義、議會制度に對して指導者の思想を對立せしめる。

ヒットラーによれば、國家の權威は議會に於ける討論に基礎を置くべきではなく、爲政者の誤らざる行爲に對する一般の信頼に基かねばならない。更に此の信頼は政府の正義と公平、並に一般の道德觀との一致に對する不動の確信の結果である。統治制度は決して權力による壓迫によつて永久に維持されるものではなく、國民の利益を代表し、促進しつゝあるとの信仰によつてのみ維持されるのである。しかるに民主主義の上に立つ議會制度は、國家の重要事項を無責任な多數によつて専恣に決定し、實際には何ら國民全體の利益を代表しない。議會制度の下にあつては「政府は事實上議會の同意を得ざれば一投足も下し得ず、隨つて最後の決定權は常に政府に非ずして、議會に存在するが故に、政府は何物に對しても究極の責任

を取らない。それは常に多数の意志の執行者に過ぎない。……故に其の最大の任務は多数の意志に合致し得るか、自ら多数を獲得するかにある。それに成功すれば、なほ暫時は謂ゆる統治を行ふことが出来るし、それに失敗すれば交迭せねばならない。其の政見の當否の如きは此處では何ら問題にならない。かくて一切の責任は回避<sup>20)</sup>される。」

これは政府側の缺點であるが、議會側に於ては次の如き弊害を免れることが出来ない。

「職業や手腕によつて選ばれた國民代表者の内部關係は、分裂的な、往々にして極めて困難な形勢を示す。何となればこれらの國民の選良は、其の知識、道德に於ても選良だとは云ひ難いからである。平凡な選舉民の投票から多数の優秀な政治家の出現は望まれない。一般に普通選舉から天才を産み出すとする程、愚かな考へはあるまい。第一に國民の中に眞の政治家が多数、同時に現はれる場合は極めて稀れであり、第二に大衆は特異な天才に對して本能的憎惡を向けるからである。選舉によつて偉大な人格が選ばれる前に、大衆は既に其の途を誤つてゐるのである。……しかもこれらの國民代表は其の分を超えて、國民の重要問題を

20) Hitler; a. a. O., S. 95.

議し、政府を組成し、且つ此の政府の百般の重要事項に干渉し、かくて事實上の政策實行者となる。……よしこれらの國民代表が優秀な人物のみから成り立つとしても、其の同意を経べき事項が如何に多く、如何に廣汎な範圍に亘るものであるかを思へば、局部的な知識と經驗しかない人々の集合の投票權によつて、究極の運命を左右される政府が、如何に不適當なものであるかわかる。……加ふるに討議さるべき問題は、國民生活の一切の領域に亘るが、此の制度が不變であつても、其の問題を批判し、決定する代議士は不斷に交替するが故に、常に専門的知識を缺いた者によつて決定されることになる。……かゝる議會の國民代表が責任感を抱いてゐるか、の如く考へることは不當である。蓋し責任を負ひ得る者は獨り個人のみであつて、議會の饒舌家の團體ではないからである。<sup>21)</sup>」

此處に於てかナチスは反議會主義の旗色を鮮明にするのであるが、それにも拘らず、現に活潑な議會鬭争を行ひつゝある事實は矛盾ではないかとの疑問に對して、ナチスはかく考へる。「此の運動が議會制度に参加しつゝある事實さへも、此の制度に含まれる人類最大の墮落

21) Hitler; a. a. O., S. 96 ff.

原因を認め、此の制度を破壊し、除去することに其の活動の唯一の意義を置くが故である。<sup>22)</sup>

次いでナチスは、彼等の没頭せる國民社會主義運動が一つの世界觀であつて、政黨運動に非ざることを主張しつゝ、議會制度の基礎としての政黨の存在をも排斥する。即ち「政黨は妥協性を有するが、世界觀はさうではない。政黨は當然其の反對派の存在を豫想するが、世界觀は其の絶對性を主張する」と云ひ、鞏固な精神力を缺ぐ政黨の存在を否定してゐる。

シュベングラールと共に、ナチスに取つては謂ゆる民主主義は元來西歐思想であつて、結局「マルクシズムの先驅となり、個人の權威を否定し、自然の貴族主義を破壊する」<sup>23)</sup>ものであり、「これに對立するものが、其の行爲に對して一切の責任を負ふべき指導者の自由な選出による眞のゲルマン的民主主義である。此處では各個の問題は多數決によらずして、一個人の獻身的努力によつて決定される」<sup>24)</sup>と。

シュベングラールも云ふ「我々の過去、我々の種族、我々の狀態に照らしてみても、我々は君主主義的民族であり、要するに我々が信頼と全力とを獻げ得る政府に（假令その支配が君

22) Hitler; a. a. O., S. 507.

23) Hitler; a. a. O., S. 85.

24) Hitler; a. a. O. S., 98.

主によつて行はれやうが、或は宰相によつて行はれやうと、結び付けられてゐることは、丁度イギリス人が其の社會の基礎に於ては王制を採れるにも拘らず、ノルマン貴族の獨裁此の方、生れながらの共和主義者であるのと同様である。<sup>25)</sup>」のみならずシュベングレーは一般の風潮としても民主主義的議會制度が既に行詰つたことを指摘してゐる。

「議會主義の時代は既に去つたことは覆ふべからざる事實である。今や其の無用な形骸のみが我々の重荷になつてゐる。十九世紀は人格的支配の二時期の間に、偶然的な誤れる多數決支配によつて演ぜられた中間劇である。諸強國に於ては、批判力に富む人々は沈黙してゐても其の經驗によつて裁きの來りつゝあることを知つてゐる。時代の尖端に立つ者は、恰も一七三〇年には專制主義者であり、一八三〇年には民主主義者たらざるを得なかつたと同じく、一九三〇年の今日では最早民主主義者たることを得ないのである。イタリヤは此の發展方向に既に移り、プロシヤ人以上にプロシヤ化し、しかも何ら悔いてゐない。フランスに於ては議會が軍隊の支持による獨裁に代るべきことは時の問題である。イギリスでは勞働黨政府の

25) Spengler; *Neubau des deutschen Reiches*, S. 21.

悲喜劇は議會主義的好意を労働黨から根こそぎに奪はしめ、將來は専らゼネラル・ストライキによる議會外の運動に退却せしめ、保守黨をして下院の傳統に従ひ、一首領の無制限な支配に移行せしめるであらう。その古き實例はフランス革命が正にイギリスに波及せんとした時に一般の支持を得たピットの獨裁である。<sup>26)</sup>」

「今や名譽と騎士道、內的氣高さ、謙讓と義務との高い調子に基く何らかの解決を要求する。今や都會文明の唯理主義によつて押しやられたものゝ形式的力が、奥底に於て目覺める時代が到來した。王朝時代のあらゆる傳統、あらゆる貴族的なものが將來に向つて復興しつゝある。<sup>27)</sup>」

これらの主張の必然的結果として、ナチスの貴族主義と指導者との思想が生れる。

「民主主義的大衆思想の否定の下に、最も優秀な國民、即ち最高の人間に此の土地を與へんと努力する世界觀は、此の國民の内部に於ても亦、論理的必然の結果として、等しく貴族主義の原則に従ひ、最良の人物に指導を委ね、其の國民に最大の影響を與へしめねばならない。

26) Spengler ; ebenda.

27) Spengler ; Der Staat, S. 178.

……此の故に我々の運動は多數決の思想に非ずして、人格の思想に根柢を置く。發見したり、組織したり、思惟したりするのは、大衆に非ずして、個人、即ち人格である。

人間の共同團體は此の個人の創造力を出来るだけ完全に、有効に全體に役立たしめる時に、最も優れた組織を具へたものといふことが出来る。物質界にあつても、精神界にあつても、最も價值ある發見は個人によつて爲される。それ故に此の個人を全體の爲に利用することが、國民全體の第一の、最高の任務である。實際、組織自體が此の原則の現はれでなければならぬ。かくして初めてそれは先づ機械主義の禍ひから解放され、躍動せるものになるのである。それはそれ自體に於て、大衆の上に首腦者を置き、此の大衆と共に首腦者をも支配する爲の努力の發現でなければならぬ。……人類に最大の影響を及ぼし、其の活動を促すことは全體の利益である。確かに此の利益を満足するのは、思考力も活動力も乏しい、幸福な大衆の支配に非ずして、専ら天賦の才能を具へた者の指導によるのである。……思想界に於ても藝術界に於ても、或ひは經濟界にあつてさへ、此の首腦者の選擇は、絶対に完全でないに

しても行はれてゐる。國家の行政、國民の國防組織に現はれた國力も亦、此の思想によつて支配される。其處では常に、下に向つては個人の思想と權威とが、上に向つては其の上位の人に對する責任が重視される。しかるに獨り現代政治生活に於ては、漸次此の最も自然な原則が輕視されつゝある。一切の人間文化は個人の創造的活動の所産なるにも拘らず、全國民共同團體に於て、多數決の原則が行はれ、徐々に全生活を毒し始めた。……しかし國民的世界觀は人種の價值を認めるのみならず、個人の意義をも認め、且つそれを全構造の基礎たらしめる。……かくして國民的國家は全部の、殊に最高の政治を多數決の議會主義的原則から解放し、其の代りに個人の權利を發揮せしめねばならない。

このことから次の認識に達する。即ち最善の國家組織及び國家形態は、最も自然的に國民共同團體の最も優秀な首腦者に指導的地位を與へ、且つこれを尊重するが如き國家である。<sup>28)</sup>」

ナチスの此の思想が如何にシュパンの思想に影響されてゐるかは、彼の次の言葉を見ればわかる。

28) Hitler; a. a. O., S. 493 ff.



「國家なる組織は本質的な精神的全體の表現であつて、偶然の意志や、多數其の他の偶然、又は專恣によつて決定されたものゝ表現ではない。……支配關係の原則は普遍主義的に見れば、全體を構成する精神的なものゝ所産であり、隨つて究極には價值の原則である。投票によるべきではなく、又支配は多數に非ずして、最良のものに任されねばならない。價值ある者、善なるものが、絶對に組織の形態と支配意志の構成とに對する唯一の決定的原則である。……しかるに民主主義は眞實なるものを決定せんとするが、それは不可能なるのみならず冒濫である。といふのは多數は常に動搖せるものであつて、多數が決定することは、換言すれば下級のものが上級のものを支配することである。故にこれを繰返せば、民主主義は我々の生活組織（國家）の機械化であり、此の基礎から、投票、即ち多數の支配によつて、價值の原則を除去せんとするものである。

民主主義は上述の第一の根本的缺陷に加ふるに、第二の缺陷を含んでゐる。即ちそれは投票するところの眞の意志、即ち多數個人の意志、謂ゆる國民の意志が實在するとの假定であ

る。……しかるに實狀はこれに反する。人々は投票を爲すが、其の對象については何らの見解も、判斷も、意志も具へてゐない。政治的意志としての國民の意志は、それが意志として發表される前に、先づ指導者によつて構成されねばならない。……さて政治組織が其の性質上指導者と被指導者との綜合から成るものであり、被統治者（大衆）の政治的意志は、先づ指導者自身によつて構成されるべきものとすれば、其の必然の結果として、大衆は政治的には無力であると斷定せねばならない。<sup>29)</sup> 故に最良の國家形態は、最も優秀な者の支配によつて齎らされたものだ<sup>30)</sup>と結論してゐる。

更に同様な見解はシュペンゲラーにも見出される。「一民族は良き支配を受ける權利を持つてゐる。しかるに大衆としての民族は自ら良き統治を爲す爲の經驗と識見とを缺ぐが故に、統治に當るのは個人であり、隨つて此の個人を正しい選擇によつて發見せねばならない。このことがあらゆる良く治まれる國家の祕密である<sup>31)</sup>」と。

以上によつてナチスの貴族主義と指導者との思想を見た。故に其の當然の結果としてナチ

29) Spann; Der wahre Staat, S. 109 ff.

30) Spengler; Neubau des deutschen Reiches, S. 23.

スの國家に於て要求される政治形態は、民主主義的議會制度の代りに、貴族主義的獨裁制を以てせんとするものなることは明らかである。

さて此處に新たに起る問題は、此の獨裁制は必然的に君主制を豫想するものであるか、或ひは共和制たるに止まるかといふことである。此處にもヒットラーの言葉を引用しやう。「此の運動の究極の使命は、一定の國家形態の恢復や、他の國家形態との鬭争に存するのではなく、共和制であれ、君主制であれ、國家を永遠の存在たらしめる爲に缺ぐべからざる根本的基礎の創造にある。其の使命は君主國、又は共和國の樹立に非ずして、ゲルマン的國家の創造にある。

故に此の國家の外的形態、即ち其の主權の存在の問題は、根本的な問題ではなくして、單に實際の目的に合致するや否やの問題の一條件たるに過ぎない。<sup>31)</sup>」

よつてナチスの獨裁制にあつては、重心は強力な民族國家の建設にあつて、必らずしも帝制の復活を企圖するものではない。のみならずフェーダーが「君主制國家思想は殆ど亡んだ。

31) Hitler; a. a. O., S. 380.

我々は歴史の流れを逆にし、死滅した君主制に新たな息吹を與へんとするものではない」と云ひ、更に「君主制國家形態は必らずしも國民の幸福に對する保證をそれ自體の中に含むものではない」と云ふ、これらの言葉を見れば、寧ろ君主制を否定するものゝやうである。次にドイツ國家形態の上に極めて重要な問題は、將來も依然として聯邦制を存續せしめるか、或ひは完全に中央集權的に統一するかの問題である。

ヒットラーによれば、舊ドイツは内部に對しては自由を與へ、外部に對して強力政策を採つたが、今や共和國ドイツは反對に外部に對して軟弱であり、國內に於て人民を壓迫してゐる。しかし眞に有力な國民主義國家は其の人民の無限の祖國愛と信頼とによつて、法規は出來るだけ少くし、最大限度の自由を與へることを理想とする。と同時にヒットラーは此の個人並に支分國の自由は、強力な國家の中央集權と抵觸するものではないと云つてゐる。「其の國民の利益を外國に向つて最も確實に保證する強力な國民主義國家は、内部に向つても國家の基礎を動搖せしめることなしに自由を與へることが出来る。しかしながら他面に於て、各個

人乃至各支分國の自由に對する強力な國民主義的政府の大なる干涉も、各個人によつてかゝる政策が結局其の民族強化の手段に外ならないことを承認されるならば、此の自由の國家思想を些も阻害しない。」と。

のみならずドイツ聯邦の統一を從來妨げたものは主として、例へば偏狹なプロシヤ主義の「東エルベ思想」の如き傳統的氣持であつたが、革命はかゝる傳統の最も顯著な體現たる王制を顛覆せしめ、其の障礙を一掃してドイツ統一の機運を促した。事實上も戰敗國ドイツに課せられた莫大な財政的負擔は、從來各支分國に與へられた財政權は勿論、遞信、鐵道の管理權を失はしめた。故にドイツに聯邦制度を存續せしむべき何分の理由もないと云ふのがヒットラーの主張である。

「確かに世界各國は舉つて一定の統一組織に動向しつゝある。ドイツもまた此の點に於て例外を爲すものではない。現實には何物も残つてゐない支分國の『國家主權』を主張せんとすることは無意味である。交通、警察の方面に於ても支分國の意味は漸次失はれつゝある。近

代の交通、技術の發達は距離を短縮した。昔の支分國は今日の州に等しく、昔の國家は今日の大陸にも等しい。ドイツの如き國を統一的に統治することの技術的困難は、二百年前のブランデンブルグ州の支配程困難ではない。ミュンヘンからベルリンまでの距離は二百年前のミュンヘンからシュタルンベルグまでよりも近い。今日のドイツ全領土は當時の交通技術に比すれば、ナポレオン戦争時代の中獨聯邦よりも小である。此の事實から眼を覆ふ者は時代遅れである。かくの如き人は過去にもあつたし、將來も絶えないだらう。しかも彼等は歴史の車軸を逆に廻すことも出来なければ、それを止めることさへ出来ない。<sup>33)</sup>

「我々に取つては、國家それ自體が形式に過ぎず、本質的なものは其の内容、即ち國民、民族であるが故に、主權の問題は最も重要であることは云ふ迄もない。殊に我々は一國民と、其の國民を代表する國家との内部に強力な主權を有する國家の存在を認めることは出来ない。<sup>34)</sup>」

「將來支分國の意味は一般政治的領域に於ては最早存在しない。私はたゞそれを種族的方面乃至は文化的領域に於てのみ認めんとする。<sup>35)</sup>」

33) Hitler ; a. a. O., S. 461 f.

34) Hitler ; ebenda.

35) Hitler ; ebenda.

かくてナチスは一切の政治的領域に互り、強力な中央集權を實行し、單に教育、宗教等の如き文化的事業のみを支分國に委任せんとしてゐる。

## 第四節 外交政策

國民社會主義運動の主要な眼目の一は、ドイツの國際的地位の向上にある。このことは前に述べたナチスの國民主義的主張の當然の結果であるが、其の運動の今日までの經過を見ても、如何に強力外交政策に重心を置き、しかも同時に此の主張がドイツ國民の支持を得たかが明瞭である。即ち既述の如くナチスは戰敗直後の國家存亡の時に生れ、一九二三年の佛白軍ルール占領、一九三〇年のヤング案決定の際の如く國論の最も沸騰せる時に特に活潑な運動を起し、其の勢力は殆んど賠償問題の紛糾に平行して膨脹して來た。

此の故に七萬五千平方キロメートルの領土と、約六、七百萬の人口とをドイツから奪つたヴェルサイユ條約は、最初からナチスの到底容認し難いところであるのみならず、却つて其

の國民主義の主張は獨逸の統一は勿論、ポーランド、チェック・スロヴァキヤ、エルザスロートリンゲン、其の他一切のドイツ民族を一國に統一せんとする大ドイツ主義を主張してゐる。此の主張はナチスの綱領の冒頭に於て掲げられてゐる。

ヒットラーは云ふ「ナチスが未だ微々たる小團體であつた時から、外交問題は多數支持者に重大な影響を與へた。このことは我々の運動が、外部的自由は天によつて恵まれたものでもなく、地上の權力から繼承せるものでもなく、一に内部的力の結果であることを確信せるが故である。我が國民の没落の原因の除去と、其の妨害者の驅逐とのみが、對外自由鬭爭の前提たり得るのである。……」

戦前にはドイツ民族發展上の關心は、獨立強國としての既存の實力を獲ることであつたが、現在にあつてはそれは、我が民族の將來に對する發展の意味に於ける外交政策遂行の前提としての、自由な強國復活である。

換言すれば、今日のドイツ外交政策の目的は、明日の自由の恢復の前提でなければならな



い。

同時に次の根本原則を忘れてはならない。即ち一民族が更生する時には、絶対に一定に限られた領土に満足せずして、全民族の精神的共同團體、並に將來の自由戦争の準備としての國家及び民族の間に多少とも餘裕を残さねばならないと云ふことである。……

更に考ふべき問題は、一民族及び一國家の喪失せる領土の回復の問題は第一に祖國の政治的權力と獨立との恢復の問題たると共に、かゝる領土の利害は直ちに本國の自由回復に多大の關係があると云ふことである。……同時に喪失せる領土の回復の前提は残りの領土を刺戟し、強化して怯懦な心を發奮せしめ、其の結果新たな力が他日全民族の解放と統一との爲に湧き出るからである。それ故に此の分割された領土を祖國に回復することは、戰勝敵國の意志矯正の前提たらしめるに足る力を得ることである。蓋し被壓迫國は強力な劍を以てせざれば、其の國內で抗議を擧げたのでは何らの効果をも得ることは出来ない。

此の劍を鍛へることは一民族の内政上の問題であるが、其の鍛練事業に保證を與へ、軍事

上の同盟を得ることは外交政策上の問題である。<sup>36)</sup>」

以上の如くナチスの外交政策は、舊領土の回復を第一の眼目とするが、進んで將來の民族發展上の土地の獲得をも企圖するものであつて、徹頭徹尾それは舊ドイツの軍國主義的膨脹政策に墮してゐる。

此の強力政策遂行の爲に、ナチスは英佛二國に同盟を求めて、三國同盟を結ばんとしてゐる。ヒットラーによればフランスはドイツに取つて、永久に不倶戴天の仇敵であつて、「フランスの統治權が何人の手に移るとも、それがブルボン家であらうと、ジャコバン黨であらうと、ナポレオン黨であらうと、或ひはブルジョア民主主義、カトリック共和黨、赤色ボルシエヴィズムであらうと、彼等の外交政策の究極の目的は、常にライン河を國境とし、且つそれをフランスの保障たらしめんとする點に於て一致<sup>37)</sup>」してゐる。

「イギリスは世界的霸權としてのドイツを憎むのであるが、フランスはドイツなる名の國を憎惡するのである。如何に甚だしい相違だらう！ しかも現在我々は世界制覇の爲に闘つて

36) Hitler; a. a. O., S. 696 ff.

37) Hitler; a. a. O. S. 699.

ゐるのでなくて、祖國の存立、民族の統一、國民の食糧品獲得の爲に闘つてゐるのである。此の見地からヨーロッパに於て同盟國を求めるとすれば、イギリスとイタリヤを除いて外にはない。<sup>38)</sup>其の理由に付いてヒットラーの擧げるところを要約すれば大體左の如くである。

フランスは無制限な軍備の擴張と、他面では經濟力の振興とによつて、歐洲大陸に覇權を樹てんとしてゐるが、此の事實は英伊兩國の利害と鋭く對立する。隨つて今日に於ては英伊兩國の最も自然的利害は、ドイツ存在の前提條件と對立しないのみならず、ある程度まで一致すると云ふにある。

此の同盟の結果としてナチスの外交政策の目的は二つの方向に向けられてゐる。一はそれによつてフランスに牽制を加へることであり、他は東境に於て其の領土を擴大せんとすることである。

第一の點に關してヒットラーはかく云ふ。「英伊への接近は決してそれ自體戰爭の危險を意味するものではない。たゞ此の同盟に於て考へられる一強國、即ちフランスのみは此の場

38) Hitler; ebenda.

合例外である。……何となれば此の同盟の意義は、ドイツが突如敵の侵入を蒙ることなく、却つて敵方の同盟を破壊し、我が國の甚だしい禍の原因たりし協商を自然に消滅せしめ、我が民族の敵フランスを孤立せしめることにある。<sup>39)</sup>」

第二の東方政策は強力な民族國家建設の見地から、より熱心に主張される。即ち「民族國家の外交政策は、其の國家に統一されたる種族をして此の地球上に於て安住の地を獲得せしめ、一方では其の民族の數と増加、他方では土地の大きさと質との間に適當にして、生活可能な自然的關係を作ることを目的とする<sup>40)</sup>」と云ひ、更に「土地は人口と調和せしめねばならない<sup>41)</sup>」と云ふことが、極めて熾烈な要求となつて現はれてゐる。しかるにヒットラーによれば、一九一四年以前の領土の回復のみを以てしては、ドイツ民族國家の全人口の扶養の上にも、國防上にも不完全であつて、更に其の過剰人口の移住地を求めねばならない。しかるにナチスに取つては總て國家の領土なるものは不可侵なものではない。「ドイツの國境が嘗ての政治的鬭争の結果たる、偶然的、若しくは暫定的境界であると同じく、他の諸民族の國境

39) Hitler; a. a. O., S. 755.

40) Hitler; a. a. O., S. 728.

41) Hitler; a. a. O., S. 735.

もさうである。此の地球上の地勢は無思慮な者に取つては不變のものと考へられてゐるが、自然の偉大な力によつて常に變化せる暫定的現象たると同じく、民族生活に於ても、生活範圍の境界は不動のものではない。

國境は人間によつて作られ、人間によつて變更される。

一民族による一定の土地獲得の事實は、其の領土の永久的承認の義務を課するものではない。<sup>42)</sup>

かくてヒットラーは民族膨脹の結果たる過剩人口移住地の獲得は自然に與へられた權利だと主張する。

「我々はヨーロッパの南方及び西方に對するゲルマン進軍を止め、眼を東方に向けやう。今や我々は戦前の植民政策及び商業政策を捨て、將來の爲の土地政策に移らねばならない。而してヨーロッパに於て、新領土を獲んとするには、第一にロシア及び、それに隸屬せる邊境諸國の外にはない。<sup>43)</sup>」しかもロシアは今や少數ユダヤ人の支配下に歸して、民族國家としての

42) Hitler; a. a. O., S. 740.

43) Hitler; a. a. O., S. 742.

ロシヤは亡んだのみならず、革命前のロシヤが強大なる地位を維持し得たのは、極めて多くのゲルマン的要素に負つてゐる。それ故にドイツは此の廣大な土地に殖民する權利があると云ふのがナチスの東方政策の骨子である。

以上によつてナチス外交政策の眼目を説いた。前に一言した如くナチスの強硬外交の主張は、其の運動を著しく特徴付けるものゝ一つであるが、それだけに又尠なからざる無理と矛盾とを含んでゐることは否定し難い事實である。

第一にヴェルサイユ條約の廢棄の主張の如きは多大の障礙を作ふ。勿論その一部の改訂は可能であらう。例へば賠償問題の如きはナチスの主張によりて尠なからず動かされて來た。本年一月に於けるブリュニンゲ内閣の賠償不拂の聲明、六月ローザンヌ會議の結果による賠償總額三十億マルクへの減額の如きは、云ふまでもなくバーゼル委員會の報告等によつて明らかにされたドイツ經濟財政の客觀的情勢によるものであるが、一面にはブリュニンゲ、バーベン等をして強硬な態度に出でしめたことは、ナチスによつて喚起された輿論の背

景に負ふものだとも云へやう。しかしながら地域の變更、海外殖民地の回復の如きは、平和的手段を以てしては容易に解決さるべき問題ではない。

第二に中歐の統一を如何にして可能ならしめるか？ 歴史的に見れば獨逸の統一を困難ならしめた最大の障碍はハプスブルグ家の存在であつた。しかるに今や此の障碍は除かれ、此の二國は民族的にも、政治經濟的にも、又文化的にも統一さるべき多くの理由を持つてゐる。にも拘らず、兩國合併の結果は、單に人口の上から見ても七千萬を超え、佛伊兩國のほゞ合計に當り、フランスを始め其の他の謂ゆる追隨諸國 *Nachfolgestaten* に脅威を感じしめざるを得ない。現代の客觀的狀勢を以てしては政治的同盟さへも不可能だと云はなければならぬ。

より可能性多きは關稅同盟による經濟的連帶である。事實此の問題は中歐に於て屢々考へられた思想であり、ナチス側に於ても、ウィルヘルム・リンクの如きは次のやうに云つてゐる。

「關稅同盟案の意味に於ける中歐聯盟は、ドイツに取つて自由への途を意味するものである<sup>44)</sup>」と。

しかし此の故にこそ却つてフランス其の他の反對を蒙らざるを得ない。一九三一年三月の獨逸關稅同盟案は嚴に經濟的方面のみに限られてゐた。其の第一條に云ふ。

「兩國の獨立の關稅の維持と、兩國の第三國に對する義務の尊重との下に、本條約は地方的協約により歐洲經濟關係に於ける新秩序の確立を期す。」

しかも此の種の同盟案すらもチェック・スロヴァキヤの攻撃を受け、フランスの反對するところとなつたことは周知の通りである。とは云へ此の案が獨逸兩國の經濟的急迫に伴つて再燃すべきことは想像するに難くない。と同時に本年三月フランスのタルジューによつて提案された如きダニユーヴ聯盟案、イタリヤを中心とする同盟案、乃至はバルチック沿岸諸國の經濟的ブロック案、等々と互ひに利益關係の對立があり、其の實現も亦、多大の困難を伴ふことは必然である。

44) Wilhelm Link; Deutsche Aussenhandelspolitik Nationalsozialistisches Denken und Wirtschaft, S. 89.



次に考ふべきはナチスが中歐の統一を語る時に、ハンガリー、チェッコ・スロヴァキヤ等の邊境諸國をも包含するか否かの問題である。若し包含するとせば、それはナチスの民族主義的主張に反する。含まずとせば、獨逸のみの統一はこれら諸國に危殆を感じしめざるを得ない。

最後に其の三國同盟案及び東方政策の主張に至りては餘りにも帝國主義的であると評せざるを得ない。

## 第五章 ナチスの經濟政策理論

### ○ 第一節 ナチスの經濟原則

ナチスは經濟に於ても個人主義的自由主義經濟理論、社會主義經濟理論と異る、新たな經濟理論を立てんとするのであるが、未だそれを一つの理論體系として把握することは出来ない。にも拘らず我々は此の混亂せる理論の中に、他に見られない情熱と倫理的要素の多分に盛られた主張との一貫せることを認める。

ハインリッヒ・リンクは云ふ。ナチスに加へられる共通の非難は其の經濟綱領が「混亂を極めてゐる」と云ふことである。此の非難によつて反對者は國民社會主義を無力化し、「失はれた息子」を取り戻すことが出来るとの果敢ない希望を抱いてゐる。かくの如く國民社會主

義に對する非難の重點が、經濟政策の方面に置かれてゐることは、其の經濟的要求が彼等には特に理解し難く、實現不可能と信じられてゐるが故である。

從來國民社會主義が蒙つたかゝる非難は、却つて型に嵌つた批判力しか有せず、國民社會主義の經濟的要求の基礎を理解し得ず、しかも皮相な觀察から「混迷してゐる」と考へる輩にこそ加へらるべきものである。しかし他面に於て此の無理解は當然である。蓋し國民社會主義は經濟現象の究極の原因にまで遡つて、これを究め、從來の經濟觀を以てしては到底理解し難い、全く新しい經濟機構の根據を創造するものだからである。

然らばナチスは從來の經濟觀の缺陷を何處に見るか？ リンクは續けて云ふ。從來の經濟思想の破綻は其の經濟制度の破綻の上に最も明白に現はれてゐる。而して此の破綻の眞の原因は其の經濟方法たる資本主義にあるのではなく、其の經濟秩序たる個人主義にある。此の經濟的個人主義が、やがて破綻するに至つたのは、それが啓蒙自由主義に立つてゐる爲である。啓蒙主義の特徴は精神の解放、理性の絶對の信仰である。理性は全生活の公分母を爲すと

考へられた。常に有機的全體を合理的單一化せんとする傾向を有する此の理性の偶像化によつて、生活關係と生活領域との全體は相互に獨立無關係な單一に分解された。個人が一切の生活關係の基本的單位となつた。其の發展を可能ならしめる爲に、個人に絶對的自由の特權を與へた。かくて自由主義は全體的生活構成の獨斷的原則に對する抗議として生れた。個人の解放は當然あらゆる生活領域、就中一切の生活關係の利己的決定の主張に現はれた。而して此の自由主義的個人主義が其の本來的傾向を最も著しく發揮したのは經濟に於てゝあつた。經濟人としての個人は自己の行爲が如何なる民族的、國民的、社會的影響を與へるかに顧慮なく、あらゆる手段を利用した。絶對自由の惡魔に身を委ねた個人は必然的に個人的利益の中に、彼の經濟的行動の決定原因を見た。かくて極端な利己心が個人主義的自由主義經濟制度の經濟原則になつたのである。一切のものに對して自己の行爲を正當付けんとする人間の自然的傾向から、個人は此の經濟の利己的態度を道德的に理由付けんとした。個人が道德心を失はない間は、個人主義的自由主義經濟制度に包藏された弊害は充分に現はれないが、

經濟人としての個人が國民的社會的義務を忘却すれば、それは極めて明瞭に現はれて来る。かゝる場合には個人的利益の前には最早國民的社會的な利益、感情、それら一切は無に等しく、慘酷に冷然と私益の祭壇に犠牲として捧げられるからである。かゝる制度に都市プロレタリアートの發生、勞働者階級の貧窮化の原因がある。しかしながら、かゝる傾向こそは個人主義的自由主義經濟制度の最も明らかな特徴であるが、同時にそれは背後に隠れたユダヤ的要素の出現によつて始めて現はれる。個人主義的自由主義的資本主義は其の構造に於ても其の傾向に於ても純粹に經濟的であつて、何ら倫理的、社會的、國民的連帶を認めない。しかるに純粹に經濟的なものゝ彼岸にある連帶の承認は、各個人の責任感によるのであつて、經濟思想からは生じない。此の故に個人主義的自由主義經濟制度にあつては、全民族、全國民の運命は、其の經濟的優越の故に運命決定權を有する個人の私益獲得の努力によつて支配される。ユダヤ人たるラテナウが「經濟は國民の運命である」と云つた此の短い言葉の中に、經濟を第一義的なものならしめんとする個人主義經濟の眞髓が最も明瞭に現はれてゐる。

る。個人主義的自由主義經濟制度は純粹的範疇によつて決定されたものであつて、一切の經濟道德 (Wirtschaftsethos) を缺いてゐたのである。<sup>1)</sup>

以上の如くナチスは反資本主義と云ふも、資本主義的制度そのものに反對するのではなくして、資本主義思想に於ける倫理的要素の欠缺を指定し、新しいイデオロギーを其の中に注ぎ込むことによつて從來の經濟組織の弊害を除去せんとするのである。此の新らしいイデオロギーとは何か？ 第一にそれは共同精神の注入である。

リンクは云ふ。國民の一切の生活關係上無條件に經濟に絶對的優位を保證する此の經濟思想に對して、國民社會主義は新しい思想を以て對抗する。有機的思想がこれである。即ち民族と國民との有機的全體性の高調である。此の有機的思想は國家に體現された一定の有機的組織に於ける一切の生活關係の有機的關聯を要求する。わけてもこのことは經濟に妥當するるのであつて、經濟は最早其の優位の地位から追ひ落されねばならない。此の新らしい有機的經濟思想の最高の表現はナチス經濟觀の絶對命令たる、公益は私益に優先す、と云

1) Heinrich Link; Wirtschaftsethos und Wirtschaftsordnung, S. 149 ff., Nationalsozialistisches Denken und Wirtschaft.

ふ言葉に見出される。此の言葉が國民社會主義の經濟的要求の根本原則であり、これによつてのみ國民社會主義の經濟觀は理解されるのである。此の原則の無條件な妥當を主張する爲には更に進んで、其の倫理的內容に注意を向けねばならない。倫理的要素なるものは從來の經濟思想からは全く別の領域に屬するものであつて、此の點に於て國民社會主義的經濟觀と、個人主義的自由主義經濟觀とが最も鋭く對立するのである。個人主義的自由主義經濟制度にあつては私益の顧慮なき追求が經濟思想と經濟行爲との指導原理であり、其の結果國民的社會的利益は僅かに、經濟人の偶然的な倫理的責任感によつて緩和されてゐるに反して、國民社會主義的經濟制度は公益を以て經濟行爲と經濟思想との主要原理とし、國民と國家との福祉が第一に考へられる。經濟は民族と國民と全體の利益の爲にのみ其の機能を發揮せねばならないと云ふ此の新らしい經濟觀によつて初めて經濟は正しい意味を與へられる。

此の絶對命令たる私益に對する公益の優先は、勞働者であれ企業家であれ、あらゆる經濟活動を爲すものに適用され、服従を要求する。國民社會主義國家は法規によつてもある程度

まで此の原則の承認と實現とを強制することが可能であらう。しかしかゝる法規無き所に於ても一切の生活關係に此の要求を貫き得ないならば、國民社會主義制度も亦、死滅せりと云はなければならぬ。此の倫理的主張の故に國民社會主義の經濟綱領が「混迷せり」と云はれるのである。しかしながら此の「私益に對する公益の優先」といふ此の經濟觀の根本原則から初めて、國民社會主義の他の經濟的要求たる利子奴隸制の廢止、需要充足經濟等も總て理解されるのである。……此の土臺石の上に建てられた國民社會主義的經濟組織の建築が、砂上に建てられた個人主義的自由主義經濟制度の壯麗な建築に比すれば、現在のところでは外觀上見すばらしく貧弱に見えるかも知れない。しかしながら國民社會主義は先づ土臺の据付けから着手する。<sup>2)</sup>

かくの如くナチスは「私益に對する公益の優先」を以て最高の經濟原則とし、一切の經濟的要求は此處から出發する。此の故に綱領第十條に於ては「個人の活動は全體の利益に衝突すべからざる」ことを規定し、第十一條に於ては「不勞所得の廢棄」を要求してゐる。即ち

2) Link; a. a. O., S. 153.



ナチスにあつては個人は共同、國民全體に對する義務を負ひ、共同の利益の爲に働き全體の利益を害してはならない。此處に於ては經濟活動の重心は最早最大の利益獲得に非ずして、全體の爲にする「奉仕」に置かれねばならない。ヒットラーは云ふ「自我を共同の利益の爲に没却する信念こそはあらゆる眞の人類文化の第一の前提である。此の基礎から一切の人間の大事業が生れる。……其處から初めて數多の人々が乏しい生活に甘んじつゝ全體の存在の爲に努力しつゝあることが理解されるのである。」<sup>3)</sup>隨つてナチスにあつては經濟の目的は最大の利益獲得に非ずして、國民の需要を最も圓滿に滿し、國民全體の幸福を増進せしめることである。個人主義的營利活動の代りに、生産者と消費者、企業家と労働者との有機的關聯による共同經濟が要求される。このことはしかしながら決して個人の創意<sup>イニシャチヴ</sup>を阻害するものではない。

ナチスは政治に於て民主主義的思想を排して貴族主義的原則を採つたが、經濟に於ても個人の創意を承認する結果經濟上の指導者の活動を尊重し、延いて私有財産制を原則的に承認

3) Hitler ; a. a. O., S. 326.

する。此處にロイブケの言葉を引用しやう。

國民社會主義的經濟制度の下に於ては、勞働者は最早プロレタリア的な卑屈な階級感を有するものではなくて、彼等も亦國民全體に奉仕することの自覺を見出すと共に、生産者も亦絶對的優位を主張し得るものではなく、彼等の中にも劣等な者を認める。……個人の價値の尊重はナチスの特色とするところであるが、それは經濟的領域に於ても要求される。優秀な經濟活動家であるならば、彼が工場主であらうが、使用人であらうが等しく尊重されるのである。……我々ドイツ人は今二つの兩極端に立つ思想に直面してゐる。一方には工業發達期に於けるが如き企業家偏重の思想から、貪慾な企業家の個人的利益の追求を専ら擁護せんとする主張があり、他方ではマルクシスト一派は企業家の機能を全然否定せんとしてゐる。現代に於ては此の見解は何れも不當である。これに反して國民社會主義の支持し、要求するのは企業を利己的動機から行ふことなく、新らしい經濟制度に合致せる、新らしい型の企業家である。指導者としての企業家は將來に於ても經濟の不可缺の要素であり、「生産力の喚起

者」である。國民社會主義は此目的から私有財産制と個人の創意とを認め、個人に經營上に於ける廣い活動範圍を與へる。<sup>4)</sup>

しかしながら此の點に於てナチスは自由主義經濟と統制經濟とのジレンマに陥つてゐるといふのが、ナチスの經濟理論に加へられる第二の非難である。例へば最近のフランクフルター・ツァイツング紙はかう云つてゐる。「國民社會主義は現在の失業對策問題に付いて、反對者と論争を交へると同時に、ミュンヘンに於て内部的に失業救済の中心問題に付いて研究した。シュトラッサー、フェーダー、ラヴァツェック其の他は問題の解決を經濟統制手段に求めんとする。其の手段に付いては勿論區々である。例へばフェーダーは『經濟に對する國家の最大の監視』を主張しつゝ、しかも『個人の能力』を認めんとする。しかしながら此の議論は事實上自由主義の武器に隠れんとするものたることは彼自身の言葉が暴露してゐる。更にフェーダーは個人的能力を容認するのみならず、個人的危險負擔の必要ある所では國家は干涉すべからざることさへも主張する。<sup>5)</sup>」

4) Reupke ; a. a. O., S. 48 f.

5) Frankfurter Zeitung ; 18, September, 1932.

右の所説の如くナチスは果して自由主義經濟と統制經濟との間を彷徨してゐるであらうか。其の回答はロイブケの次の言葉に見出される。

「國民社會主義的經濟制度は資本主義的特徴も社會主義的特徴も具へてゐるが、其の兩者何れにも加へらるべきではない。國民社會主義は集産主義的經濟方法も、個人主義的經濟方法も信じない。其の唯一の規準を爲すものは全體としてドイツ國民とドイツ經濟との繁榮である。<sup>6)</sup>」

「國民社會主義内部に於ける革進的青年はやゝもすれば國家社會主義乃至國家資本主義の思想に陥り勝ちである。しかしながら此の言葉の意味は劃一的でない。若し國家社會主義が國家的干涉の形態で行はれることを意味するならば、國民社會主義も亦國家社會主義と同じである。しかしながらそれが中央集權的に、官僚的に指導され、生産手段の私有と個人の創意との否定による統一的計畫經濟を意味するものとすれば、それは本質に於てのみならず、其の程度に於てもボルシェヴィズム的な共產主義と選ぶ所がなくなる。

6) Reupke; a. a. O., S. 20.

然らば國民社會主義の主張する經濟への國家的干涉の規準は何處にあるか？……それは劃一的原則によることなく、フリードリッヒ・リストの謂ふ如く、現存の生産力、就中經濟活動家の個人的能力を無駄なく完全に活用すべく細心の注意を加へ、現代の國民經濟的要求に最もよく合致する經濟方法を採用する點にある。

これに對する外部的形態と素地とはドイツには夙に多分に存在する。イタリヤではファッシズムが多大の努力を要して爲したところのものが、寧ろドイツに於ては常に存在する。即ちドイツ人及びドイツ的精神はローマ人よりも遙かに統制に慣れてゐる。ドイツ經濟にあつては企業家側に於ても労働者側に於ても、職業代表及び利益代表の制度が隨所に實施されてゐるのである。たゞこれらの團體、即ちカルテル、労働組合、其他各種の組合にたつた一つ缺けてゐることは責任の主張と一方的利益の抑制とである。<sup>7)</sup>

これを要するにナチスは生産手段の私有を否定し、あらゆる生産を集産的に行はんとする謂ゆる社會主義的意味に於ては統制經濟ではない。しかしながらナチスは資本主義的經濟制

7) Reupke; a. a. O., S. 41 f.

度そのものゝ大部分の存續を許し、殊に私有財産制と個人の創意とを認めつゝ、一定の範圍内に於ける財産所有と個人の經濟活動とに制限を加へ、國民經濟を自由主義經濟の下に於けるが如き放恣な競争を排斥する點に於ては統制經濟の範疇に加へることが出來やう。このことは經濟の目的を最早個人の經濟的利潤追求に見ずして、國民全體の需要充足にありとし、一私益に對する公益の優先」を以て最高の經濟原則と爲す點からも容易に推知される。

何によつて統制が行はれるか。その大部分は身分階級シュタンド乃至はイタリヤの謂ゆる組合の手を通じて行はれることは前の身分階級國家の説明によつて明らかである。其の個々に亘る問題に付いては逐次項を別つて叙述を進めやう。

## 第二節 金融及財政

### 第一項 金融資本

資本主義的經濟の目的は利潤の獲得にある。それ故に企業家は其の生産によつて出來るだ

け多くの利潤を求めんとするのであるが、生産上の利益は必らずしも企業家を利得しない。このことは云ふまでもなく企業家と資本家との分離の結果であつて、此の兩者の利益は必らずしも一致せざるのみならず、却つて反對の目的を追ふことすらあり得る。ヒルファレーディングも云へる如く、資本家に取つて問題になるのは利潤のみであつて、其の利潤が如何なる生産過程から生み出されたかは彼に取つて無關係であり、彼にあつては「資本は商品を作るものではなく、商品に於て利潤を作る」のである。

しかるにロイブケによれば、元來經濟の中心は生産にあるが故にかゝる現象は國民經濟の破壊を意味する。彼は云ふ。金融資本家の經濟的道德は根本的に企業家のそれと異なる。企業家は實際上の収益を得ずとも、自己の事業に對する根強い執着を感じる者なるが故に、必らずしも直ちにそれを放棄するとは斷じ難く、あらゆる努力を以て其の企業更生の機會を求める。それ故に彼は活動と進歩との源泉であり、常に經濟の有力な原動力であるに反して、金融資本家は極度に危險を恐れ、脆弱な企業に對しては冷淡で無慈悲なるが故に國民經濟上極

めて危険であると<sup>8)</sup>

にも拘らず資本主義經濟の發達は金融資本の勢力を絶対に大ならしめ、あらゆる産業を其の支配下に置くに至らしめた。此の形勢に拍車をかけたものは近年の大資本集中化の傾向であるが、わけでも大戦後のドイツ工業は莫大な復興資金の必要があり、しかも他面には極端なインフレーションは却つて資金の海外逃避を促すと共に、ゼームス・エンゼルも指摘せる如く、國民大衆の犠牲に於て獨り大資本家のみを利得せしめた。かくてドイツ産業界は高利の信用に依頼せざるを得なくなつた結果、完全に内外金融資本家の願使下に立つに至つたのである。「あらゆる職業階級を通じて國民は利子の筈に苦しみ、あらゆる國民は租税の重壓に悩みつゝある。しかも何人が此の銀行及び株式資本の全能に抵抗する勇氣を持つてゐるか？此の全能は他の一切の地上の經驗に反して、勞せずして利子、配當、地位によつて居ながらにして膨脹し、益々強力になりつゝある。」<sup>9)</sup>

ナチスの金融資本排撃は此の情勢の下に起つた。ナチスは獨占的金融資本の支配を一切の

8) Reupke ; a. a. O., S. 51.

9) Feder ; a. a. O., S. 17.



ドイツ國民經濟破壞の原因と見るのであるが、殊にそれは彼等の眼に、マルクシズムとの共同戦線による國際ユダヤ的金融資本の陰謀として映じた。

ヒットラーは云ふ「甚だしい經濟的衰頹の原因は個人的所有權が漸次失はれ、全經濟が徐に株式資本の手に歸したことである。かくて初めて事業は良心なき奸商の投機的目的となり、所有權の分離は無限に増大した。資本家は勝利の凱歌を挙げつゝ、巧みに、徐ろながらも確實に、國民生活を彼等の監視と統制との下に置いた。

ドイツ經濟の國際化は早くも戦前に株式の手段によつて始まりつゝあつた。勿論ドイツ工業の一部は斷乎として此の運命に逆つた。しかし結局それは貪慾な金融資本の共同的攻撃、殊に其の忠實な仲間たるマルクシズム運動の援助によつて打ち敗られ、其の犠牲となつた。

ドイツ『重工業』に對する久しい闘争は、マルクシズムの目的とするドイツ經濟國際化の現はれであつたが、遂にそれは革命に於けるマルクシズムの勝利によつて貫徹された。私がこれを書きつゝある間にドイツ國有鐵道に對してさへも總攻撃が開始されて、今やそれは國

實際的金融資本の手に落ちんとしつゝある。<sup>10)</sup>」

ナチスに取つては此の「超國家的ユダヤ的金融資本」の桎梏から國家及び國民を解放することが、ドイツ經濟の更生を意味すると同時に、かゝる金融資本家の跳梁に任せることは其の最高の經濟原則たる「私益に對する公益の優先」に反する。それ故に此の「銀行資本及び株式資本の全能」並に其の結果たる「利子奴隸制」の打破が、あらゆる方面から見て最大の任務の一つになつたのである。綱領第十一條の「不勞所得の廢止」及び「利子奴隸制の打破」は此の目的から要求されてゐる。

ナチスは金融資本の獨裁的弊害匡救策として國家による強力な金融の統制を主張し、延いて利子の廢止に及ばんとしてゐる。故にナチスの金融統制案は金融機關に對する一般的統制と利子に對する統制とに分つて眺められる。

金融機關に如何なる統制を加へるかに付いて未だ具體的案は見られない。フェーダー綱領案第三條は金融政策の原則として左の四項を掲げ、大體の方向を指示してゐるのみである。

10) Hitler; a. a. O., S. 257.

一、國家及び國民の金融資本に對する利拂義務の免除。

二、ライヒスバンク及び發券銀行の國營。

三、一切の公營大規模事業（水力の利用、交通路の開発等）に對する資金調達爲、無利子の國庫證券發行及び借入金の回避。

四、保證準備ある幣制の確立。

五、無利子貸付を目的とする公營建築産業銀行の創設。

右に於て直接金融機關に關係あるは、二、四、及び五であるが、五は一面には住宅難緩和を目的とし、他面には一種の貨幣を發行せんとするものであるから、これに關するフェーダーの見解は別の項に留保する。

而して二及び三に關しては、フェーダーは殆んど特殊な説明を加へてゐない。紙幣發行權が國家によつて統一さるべきことは云ふまでもない。たゞフェーダーはライヒスバンクが一部金融資本家の用具化することを恐れて、國家と中央銀行との一層密接な關聯によつて、紙

幣發行權に嚴重な統制を加へることゝ、現在の保證準備制を國家の直接の管理によつてより確實にすることゝを期待してゐるに過ぎない。

ルドルフ・ハインデルも亦、極く抽象的ながらライヒスバンクの紙幣發行權、並に保證準備制度について若干の見解を述べてゐる。簡單に綜合すれば次の通りである。

現在國家の手にある紙幣發行權を、將來もライヒスバンクに譲渡せずして、國家の手に留保することは無條件に合理的である。しかしながら國家は其の紙幣發行權を濫用して、豫算の收支均衡の目的に供してはならない。豫算は原則上紙幣發行によつて償はるべきではない。現今多大の注目を拂はれてゐるワーゲマン案でさへも、其の「永久公債」の當否が疑問視されてゐる。ブリューニング内閣及びライヒスバンクの紙幣を硬貨に代へんとする傾向の如きも、單にそれが八割の造幣費を節し、同時に夙に改革の必要を痛感され來つた通貨制度を現狀に止めんとするだけの理由を以て、早くも若干の危険がある。

現行法の下に於て許されたライヒスバンクの業務は、發券銀行としての問題と何ら牴觸す

るところはないが、たゞ第二十二條の「ライヒスバンクは一ボンドに對する一、三九二マルクの確定比率を以て、其の紙幣を現金と交換すべき義務を負ふ」との條項を廢止せねばならない。これによつてハインデルは金本位制の廢止を主張してゐる。

同様の立場から更に進んで彼は、フェーダーと反對に現行四割の保證準備制度に反對する。曰く、此の制度はドイツに於ては早晚無効になるであらう。何よりも必要なことは紙幣流通を保證準備の制限から解放することである。紙幣の流通が他の絶對に必要な原則によつて統制されるならば、通貨關係は混亂に陥ることはない<sup>11)</sup>と。

次に他の一般銀行の統制に關してはフェーダーは何事も云つてゐない。故に此處にはハインデルの見解を紹介するに止める。

彼によれば産業資本は一つの場所に固定的のものであり、隨つて確定的な任務を有するに反して、金融資本は流動的なものであり、此の本質を全然奪ふことは出来ない。しかしながらその活動範圍を從來よりも、より地方的に限り、それにある程度までの制限を加へること

11) Rudolf Heindel; Geldohne Gold, S. 130, Nationalsozialisches Denken und Wirtschaft.

は可能である。その爲には銀行が何よりも先づ身分階級的原则に従ふことが必要である。其の結果將來の銀行は總て独自の機能を有することになる。工業地方にあつては經濟銀行、東ドイツ及び北ドイツ地方では農業及び商業銀行、中部ドイツ地方では實業銀行を主として設けねばならない。各種銀行の親銀行をこれら銀行の散在せる中心地點に置く。銀行に集つた預金は先づ其の身分階級内部の經濟團體の資金需要者に貸與するが、過剰資金はライヒスバンクに預け、更にライヒスバンクはそれを資金不足の、他の身分階級所屬の銀行に貸付ける。全部の身分階級銀行に於て資金の不足を告げた時には、ライヒスバンクは各地方の狀況に應じた率によつて公平に配分し貸付ける。勿論此の銀行制度は株式制度と取引所制度の根本的改革を必要とすることは云ふまでもない。<sup>12)</sup>

要するにハインデルの銀行統制案は、組合國家と同じく銀行を段階的に統制せんとするものであつて、國家組織の改革と共に將來の銀行制度もかくあるべしと云ふことを豫想的に述べたに止まり、現状に於ける銀行統制の問題に少しも觸れてゐない。

12) Heindel ; a. a. O., S. 125 f.

以上の如く、金融機關の側からする統制に關しては定説はなきものゝやうである。先にも述べた如くナチスの金融政策の重心は「利子奴隸制の打破」にある。故に次には出来るだけ重複を避けつゝ、今一度此の問題を取り上げやう。

## 第二項 利 子

ナチスが聲を大にする「利子奴隸制」とは何か？ フェーダーの言葉を引用しやう。「利子奴隸制とはあらゆるユダヤ人の絶對的金融支配下にある諸國民の狀態である。

利子奴隸制にあつては、農民は其の經營資金を得る爲に恐ろしく高利を支拂ふ結果、其の利子は彼の全収益を殆んど喰ひ盡し、しかも永久の負債となつて彼の肩にのしかゝるのである。利子奴隸制にあつては勞働者は僅少の賃銀を以て、工業に於て生産事業に従事しつゝある反面、株主は勞せずして利子、配當等を得する。

利子奴隸制にあつては、あらゆる實業に従事する中産階級は、原則として殆んど銀行信用

の利拂の爲にのみ働かねばならない状態にある。

利子奴隸制にあつては、あらゆる者は其の精神的乃至肉體的労働によつて、口を糊するに反して、極く少數階級は勞せずして其の利子、銀行及び取引所の所得、金融取引等によつて莫大な利得を爲す。……

利子奴隸制にあつては、不撓不屈の労働によつて其の經營に従事する工業家は、徐ろに其の事業を『株式化した』爲に、今や彼等は自由な決定權を失ひ、其の所得によつて『監査役や株主』の飽くなき利潤慾を満足せねばならない。

利子奴隸制にあつては、あらゆる國民は其の貨幣需要を『貨金』によつて満たさねばならない。

利子奴隸制にあつては、あらゆる國民はドース案の採用によつて爲した如く、金力、銀行家に、最高の内政的權限、即ち其の金融制度（金融支配權）、鐵道（交通支配權）、租稅及關稅に對する監視權を捧げる結果、ドイツは没落せねばならない。



利子奴隸制にあつては、あらゆる國民、政府は金力の前に叩頭せねばならない。

利子奴隸制にあつては、貨幣を最優位に立たしめる結果、今やあらゆる事業は『經濟の奴隸』であり、貨幣が『勞働の主人』であり、最も苛酷な暴君である。

利子奴隸制は『勞働と資本』、『金と血』、『搾取と創造力』との事實を正しく表現するものである。

利子奴隸制の打破は一切のものゝ鋼鐵の心棒であり、單なる金融政策の問題を超えて、……あらゆる社會問題の解決を意味する。<sup>13)</sup>

「利子奴隸制とは國際的金融力に對する國家及び國民の利子附負債のことである。<sup>14)</sup>」

これを要するにナチスの謂ゆる利子奴隸制とは國民經濟に對する強大な金融資本の獨占的支配の謂に外ならない。而して、國民經濟をかくの如く國際金融資本の蹂躪に任せる至つた原因は一に利子の存在にあるが故に、利子を廢止しなければならぬと云ふのがナチスの主張である。

13) Feder ; a. a. O. S. 19 f.

14) Feder ; Der deutsche Staat auf nationaler und sozialer Grundlage, S. 81.

さてナチスは利子に對して如何なる對策を持つてゐるか？ ナチスのあらゆる金融政策に關する主張は例外なしに、此の「利子奴隸制の打破」を基礎とするものであり、前項銀行統制策も、後出貨幣問題も此の基礎を離れて考へられないが、直接に利子廢止に關する對策は左の如くである。

## 國內的

- 一、國家及び國民の大金融資本に對する利拂の免除
- 二、大公營事業の資金調達の爲にする無利子の國庫證券の發行
- 三、建築産業銀行の創設

## 對外的

利子付有價證券を無利子の銀行貸越に代へること。

一に關しては「利子奴隸制の打破」を言ひ代へたのみであつて、フェーダーも特殊な説明を加へてゐない。二に關する彼の説明は左の如くである。

「新たな價値の創造に基かずして、不用意に紙幣を發行することは結局インフレーションを意味する。しかしながら同時に新たに創造さるべき價値を基礎とする國庫證券の發行はインフレーションと目さるべきではない。

然るに今日大規模の事業は専ら借入金の方法を以て行はれてゐるが、此の方面にこそ國家の「紙幣發行權」を活用せしめねばならない。例へば水力發電所の建設は次の方法によつて何ら資金調達上の困難なしに行ふことが出来る。若しある地方團體に於て水力發電所を建設するとせば、此の地方團體に對して大藏大臣、隨つて國立銀行は銀行券を交付するが、此の紙幣に對する保證準備は建築中の發電所が當てられる。同時に當該地方團體は此の紙幣に對する保證を絶対に免れることが出来ない。工事完了と同時に電力は此の紙幣と引換へに供給され、隨つて數年後に右の紙幣は悉く國立銀行の手に復歸する。其の結果何らのインフレーションを惹起することなしに新規事業が起される。

しかるに現に國家的事業を起す際に實行されてゐる方法によれば、究極に於て國家は少

數金融資本家の資本を借入れることになり、其の結果永久に利子に縛られることになる。更に甚だしきは公債の發行による『追加購買力』の創造である。此の公債の發行は云ふまでもなく借金に對する擔保を意味し、一般國民の負擔の下に、新規事業を一部金融資本家をして壟斷せしめることになる。國民は高い電力使用料を支拂はねばならないのみならず、其の利拂は國民所得から徴收されるのである。<sup>15)</sup>」…

右のフェーダーの説明は稍々冗漫であるが、要するに従來の例によれば、國家又は公共團體が比較的長く利用價值ある設備を爲すには、原則として現在の負擔にならざる公債により、其の利拂には償還は數年後の負擔になり、従つて國民の租税から賄はれるのであるが、フェーダーによれば右の「無利子の國庫證券」に強制通用力を與へることによつて材料購入費、勞働賃銀支拂等に當て、以て國民を負擔から免れしめんとするのである。しかしながら其の結果、一方には一般經濟界の状態によつて増減する紙幣と、他方には此の種の間歇的に發行される紙幣との二種の貨幣が流通することになり、經濟界に混亂を惹起しはしないかの

15) Feder ; a. a. O., S. 39 ff.

疑問が生ずる（グレシャムの法則）。但しこれに關するナチスの文献はないやうである。

一九三一年二月四日の豫算委員會に於て、右の案がナチス側から具體的に提案された。それによれば次の通りである。

國家、支分國、地方團體は「將來利子付の負債」を爲さゞると共に、「これらの公共團體が新たな價值（例へば水力發電所、學校、病院、住宅、道路、運河等）を創造せんとする際には、無利子の國庫證券の發行によつて賄はんとする」にあつた。

第三に「建築産業銀行」設立に關する案も亦、一九二四年五月の議會に提案された。故に此の案の内容を見ることによつて最も的確に其の主張を知ることが出來やう。其の要旨は左の通りであつた。

一、各支分國は住宅難緩和の目的を以て社會的な建築産業銀行設立の權利を與へられる。

二、此の銀行の組織並に機能は左の通りである。

1、本銀行は法人である。

2、本銀行は住宅難緩和と、他の國民經濟上價值あるもの、建築との爲に、實價上の擔保ある建築銀行證券の發行、又は現金なき信用貸付を爲すことを以て任務とする。

3、本銀行に於て準備すべき最高額は政府の同意を要する。

4、此の證券の發行、又は信用の授與は、其の當時の總額が實物擔保による完全な保證ある場合に限る。建築其の他の收益による返済は一定期間、即ち最長五十年以内に限る。

5、其の資金として特に借家税 (Mietzinssteuer) の一部を銀行に交付する。

6、本銀行の發行證券は額面一、二、三、五、一〇、二〇、五〇、一〇〇マルクの八種とし、毎年最低二分を回收する。

7、銀行に提供された擔保の全部を以て、統一的擔保とし、以て發行證券には信用貸付の總額を保證する。

8、其の他の細則は別に定める。

9、本銀行證券の偽造は他の國家的支拂手段の偽造と同一の罰則に處せられる。

右によつて明らかな如く、此の案の本來の目的は建築資金の調達にあるが、寧ろ其の機能を見れば、二の場合の公營事業に對する無利子國庫證券發行と同一の効果を期待せるものゝ如くである。況んや住宅のみならず「國民經濟上價值ある建築」に對して悉く此の謂ゆる建築證券を發行する時は、相當巨額の證券が常に市場に流通すべきは明らかであつて、金融市場に及ぼす影響は尠くないであらう。随つて前の無利子國庫證券の發行と共に、此の案がそれ自體の中に何ら缺陷を含まず、有効に實行されるならば、それは確かに現代ドイツの資金難を緩和し、延いて利子低落の氣運を醸成するであらう。しかしながら此の案に對しても二に加へられたと同様に、他の一般通貨との關係をどうするかの疑問が課せられてゐる。

次に此の二種の流通證券に對して共通に加へられる非難は、それが必然的にインフレーションを惹起するといふことである。これに對してフェーダーはかく答へてゐる。

「此の非難は不當である。インフレーションは附加的購買力が異常に無準備の貨幣によつて創造される場合にのみ起る現象であつて、少額の擔保超過の如きは勿論インフレーション的

作用を及ぼさない。……まして此の場合には最初から實價上の擔保を有し、何ら附加的購買力を創造するものではない。<sup>16)</sup>」

此の場合問題の中心はインフレーションを如何に觀念するかと云ふことである。

從來インフレーションなる言葉が種々に定義されてゐることは、クルト・ジンガーも指摘せる通りである。彼は云ふ。「インフレーションとは一義的觀念に非ずして貨幣政策上の標語である。……その意義は不確定であり、其の用法は一定せず、其の性質には議論の餘地が多い。」

現代の文献に於てはインフレーションの意味を次の如く説く學者がある。インフレーションとは次の諸原因によつて惹起された物價の甚だしい騰貴である。即ち不換紙幣の増發、不換紙幣及び信用證券の増發、又は究極に於て一般的物價騰貴を惹起するが如き支拂手段としての本位貨幣の増加によるものである。此の場合には往々にして銀行信用の増加も亦含まれてゐる。……更に次の如く説く者もある。即ち究極に於て銀行信用の増加を促すが如き、確

16) Föder; a. a. O., S. 25.



定的公債や流動的借入に基く國家財政需要、國內支拂手段の増加を原因とする外國支拂手段の騰貴、又は支拂手段の増加に伴ふ物價騰貴による『需要供給の調和』に對する一般的障礙を意味すると。これらの觀念に共通なる根據は、貨幣數量と商品量との増減が相互に相關聯し、此の二つの量の増減が一致せざる結果として物價の變動が生ずると云ふことである。…

諸種の學派に屬する諸學者の見解の中心は要するに、一方では嚴格な意味に於ても貨幣を増加せる場合にそれが必要度を超えれば、物價のインフレーション的騰貴を防止することは出来ないが、他方に於ては假令それが紙幣であらうとも、貨幣の増加が、商業手形の割引其他これに類似の信用事業を伴ひ、其の他の關係が常態を失せざる限りは、インフレーション的影響も事實上殆んど防止することが出来る。<sup>17)</sup>」

此の見解によれば、支拂手段の増加は、紙幣又は銀行券であつても、その増加の背後にそれに相當する取引が行はれてゐれば、インフレーションの弊害を避けることが出来ると云ふのである。かく解する時は、あらゆる通貨の膨脹を悉くインフレーションと見做すことは出

17) Kurt Singer; Inflation, S. 444 f. Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Bd. 5.

來ない。先のフェーダーの主張も亦、恐らく此の見解によるものであらう。

最後に對外的には利子付有價證券を無利子の銀行貸越に代へんとする案は、クラッゲスの主張であるが、其の説明は甚だ簡單である。彼によれば其の結果ドイツに對する外國の投資が無くなるが、フェーダー案による流通證券の發行によりてドイツは何ら産業資金の缺乏に悩むことなく、却つて國際金融資本家を驅逐する効果が得られるといふにある。<sup>18)</sup>

以上がナチスの利子對策であるが、一面に於て此の利子廢止の主張は、フェーダーの次の言葉によつて幾分緩和されてゐる。

「貸金の返済と共に給付と反對給付との關係は消滅し、特別な辨濟要求の理由は最早、道德的にも經濟的にも失はれる。借金によつて借主が其の經濟的能力を著しく高め、其の收益を増大することが出來た結果、借主は貸手に對する返済金の外に、其の收益の一部を與へてもそれは公平とか、又は感謝の行爲と見做すべきである。<sup>19)</sup>」

此の言葉は利子の根據を倫理的立場から説かんとする點に於て特色を有するが、明らかに

18) Klagges; Nationalsozialistische Briefe, V., S. 25 ff.

19) Feder; Staat, S. 73.

信用はより多くの収益を可能ならしめるものたることを承認し、元金以上の返済金の存在を認めてゐる。

更に彼の「何人も貯金や質札、又は國債の二、三マルクの利子を以て利子奴隸制と考へる者はあるまい」と云ひ、「貯蓄は正しい理解の下に於ては貪慾な蓄積ではない」<sup>20)</sup>と云ふこれらの言葉は、綱領第十八條の高利貸に對する處罰の規定と併せて、ナチスは利子の廢止と云ふも、それは過重な利子の負擔を斥け、且つ獨占的金融支配の弊を匡正することを主眼とするものであつて、急激な利子の全廢を主張するのではないものゝ如くである。

利下に關してはナチスは一九三〇年十月十三日の議會に左の提案を爲した。

利率は最高五分とし、其の中最低一分は元金償却に充當する。あらゆる貸金は最長五十年以内に償却すること。

右の利率を超える時は暴利として二ヶ月以上懲役に處する。

外資の投下には大藏大臣に届出を必要とし、これに違反する者は、此の額に相當する罰金

20) Feder ; Programm, S. 14.

を科せられる。

爲替手形はそれに基く取引の證明ある場合にのみ限り割引を許す。(然らざる場合は一萬ライヒスマルクの罰金を科する。)

定期取引及び空取引を禁止し、取引は總て現金取引でなければならない。株式賣買の禁止。無記名證券は記名式とする(それが土地所有に關するものなる時は登記を要する) 以上の四項に互る提案の中で、ナチスの重點は勿論、結局に於て貸金利子を最高四分に制限せんとする第一項にあつた。しかし此の案は少數の差によつて葬り去られた。

人或ひは云ふ、ナチスの上の「利子奴隸制の打破」は徒らに大言壯語する其の一流のデマゴギーの一つの現はれに過ぎないと。しかしながら我々は此の主張が國民大衆の犠牲に於て大資本の獨占利益を齎したところの一九二一年乃至二三年のインフレーション時代に現はれ、それに續く産業資本缺乏による高金利時代に益々熾烈な要求となつて動いて來た事實を見れば、それが徒らに空想な宣傳に非ずして、極めて切實な經濟的事情を反映せる要求たる

ことを認めざるを得ないのである。

シャハトも亦現在の高金利について一定の制限を加ふべきことを力説してゐる。彼は云ふ「現代の如く資本が極度に缺乏せる非常時にあつては、利子の高低を金融市場の需給關係に放置してはならない。勿論暴利取締規則があるにはあるがそれは別問題である。……」

今日我々が世界金融市場を見るならば、戰勝國及び中立國に於ては資金は低利に、しかも容易に獲られるにも拘らず、ドイツ及び其の舊同盟國は資金の供給に對しては暴利を支拂はねばならないと云ふ悲しい事實に直面する。……私は金融關係に對して、急激に債權者又は債務者を一方的に利するが如き統制を加ふべきではないと思ふ。しかしながら何らかの干渉を加へ、時によつて個人的利益をも阻害せざると同時に、全體の福祉に資すべき統制方法はあると信ずる。……我々は何人も害せざるのみか、却つて萬人を裨益するが如き一定の干渉を利子に加へることによつて、最も急迫せる問題、殊に失業問題の如きをも、解決すること<sup>21)</sup>が出来る。」

21) Hjalmar Schacht; Grundsätze deutscher Wirtschaftspolitik, S. 52 ff.

## 第三項 税 制

ドイツの租税負擔は、巨額の賠償金支拂に加ふるに、マルク安定政策が絡つて一九二四年乃至二五年以後急激に増大した。試みに戦前との比較を見れば左の通りである。<sup>22)</sup>

(單位十億ライヒスマルク) 一九一三年 一九二五年 一九二八年

國家及公共團體費	七・一八	一四・四七	二一・五〇
社會保險費	一・〇五	二・七一	四・八五
總負擔額	八・二三	一七・一五	二六・三五
評價國民所得	四四・二五	五四・三〇	六九・〇〇
免稅所得部分	三六・〇二	三七・一二	四二・六五
租稅負擔(國民所得に對する割合)	一八・六%	三一・六%	三八・二%

これを見ても明らかな如く國民の租税負擔は著しく増大したが、わけても顯著な現象は免稅所得部分が著しく減じたことである。即ちそれが大戰前には總國民所得の八割、一九二五

22) Hjalmar Schacht ; Das Ende der Reparationen, S. 88 f.

年には七割、一九二八年六割と加速度に減じた。此の現象が一九二九年乃至三一年には更に甚だしくなつたことは想像するに難くない。

此處に於てかフェーダー綱領第三條第六項は「社會的國民經濟的原則に基く税制の根本的改正」を要求してゐる。

ナチスによれば「租税なき國家が國民社會主義國家の最高の理想」であり、又「新らしい財政政策上の任務は、國民から出来るだけ多くの租税を徵收することに非ずして、反對にあらゆる負擔を除き、國民經濟の繁榮を計ることを可能ならしめるが如き國家の實現にある」と<sup>23)</sup>

此の理想からナチスは次の如き租税原則を立てる。

一、内國債の利拂の目的には課税せず。

二、租税の徵收は非生産的目的、即ち行政、司法、軍事、警察、保健、教育等に關する經費が、鐵道、郵便、電信、國有林、國有財産、電力供給等の國家企業の收益を以て滿し

23) Feder ; Der Staat, S. 151.

得ざる場合のみに認めらる。

三、特別の必要、又は特に緊急の場合、殊に戦争の必要を滿すことを目的とする間接税及び直接税は嚴禁す。

四、直接税は各種の財産に累進的に課す。但し所得には廣汎なる免税點を置く。

五、官吏は原則として免税され、且つ子供手當の支給を受く。

六、間接税は差當り贅澤品、及び酒類、煙草等の如く保健上有害にして純粹な嗜好品のみに課す。

七、戰時利得及び革命利得は徵收す。

八、印紙税並に自由なる財産處分權を制限するが如き租税は、此の取引により一般の幸福が阻害されざる限り、これを避くるを原則とす。相続税、贈與税に關しても亦同じ。

右によつて明らかな如く、ナチスは原則として租税を認めず、殊に間接税の賦課を極めて狭い範圍に限つてゐる。



今一つの著しい特徴は、ナチスが私有財産制を承認し、個人の創意を認めることによつて個人に廣汎な活動の餘地を與へんとする結果、必然的に所得及び財産を尊重し、所得には廣汎な免稅點を置き、相續稅を全く廢止せんとすることである。

戰時利得及び革命利得の徵收は、綱領第十三條に於ても、これらの致富を「國民に對する犯罪」と見做す結果から生ずる當然の要求である。

次に軍事費の財源を租稅に求めることを否定してゐるが、然らば公債によらんとするか、或ひは官業收入によらんとするか？ 此の問題は大戦中ドイツが公債政策に偏倚した結果、戦後の經濟界に惡影響を残したとのヘルフェリッヒの蒙つた非難と對比して考究すべき問題であらう。

以上の如くナチスは可及的に租稅の徵收を避けんとする結果、國家の財源を後に述べる獨占企業の國有を初め、各種の官業收入（鐵道、郵便、電信、電話等の國營、煙草、鹽、砂糖、燐寸等の專賣、電車、電力、ガス等の公營）<sup>24)</sup>に期待せるものゝ如くである。先の租稅原則の

24) Buchner; Grundriss; S. 31.

第二を見て、可なり廣汎な國營事業及び國有財産を認めんとすることが觀取されるのである。

## 第二節 工業

ナチスに於ける企業家の概念、其の労働者に對する關係については既に述べ、労働問題に關しては後節に譲る。故に此處には其の企業統制及び利潤分配の問題のみに付いて叙述を進める。

屢々反復した如くナチスは私有財産制と個人の自由な活動とを認めるが、其の反面に於て普遍主義的立場から「私益に對する公益の優先」を以て最高の經濟原則とする結果、企業に於ても國民全體の幸福に背馳するが如きものに對しては一定の制限を加へる。

其の第一は綱領第十三條に於ける「既に社會化された一切の企業（トラスト）の國有化」である。此處に極めて無難作に「社會化された事業」と云つてゐるが、其の謂は恐らく多數

従業員を使用し、恰も一社會を構成するかの如き一大集團化された大企業と解すべきであらう。即ちナチスの主張することは、集中化され獨占化された企業は、他の中小企業を壓迫し社會全體の利益に背くものとして、寧ろこれを國營に移さんとするにある。フェーゲーも亦其の綱領第十二項に於て「健全な國民經濟生活は大、中、小經營の適度な混合」によつて達せられることを主張し、更に次の如き説明を加へてゐる。

「大企業（コンツェルン、シンデケート及びトラスト）の國有化の要求も亦、資本主義制度に對する我々の一般的闘争から生ずる。シンデケートやトラストは究極に於ては產業界に於ける利益の獨占を企圖するものである。それは優秀にして廉價なる財貨を提供することに最大な努力を拂はずして、却つて消費者に對して專斷に商品の質量、價格を決定するのである。營利經濟に於ては自由な競争によつて經濟の進歩發展が達せられるのであるが、トラストは同種の新企業を買收し、其の競争を根絶する。かくて供給關係が『利益配當』によつて統制され、隨つて價格は謂ゆる『需要供給』の根本法則によつて決定されることなく、——株主

の專斷に任され——最早競争による價格の低下は望まなくなる。<sup>25)</sup>」

然るにナチスに取つては經濟の目的は、最大の利潤獲得に非ずして、圓滿なる國民全體の需要の充足である。此の故に「最早全體の利益に役立たずして専ら金融資本の利益追求の機關化」した獨占的大企業を國有化するのである。

企業集中は資本主義發展過程の必然的所産であり、如何なる力を以てしても阻止し難いものであるが、其の獨占的弊害を國家の手によつて防止すべき必要はリーフマンも指摘せるところである。

「かゝる大企業と企業合同との構成によつて巨大資本の支配が少數者の手に歸することは事實である。かくて此の少數者は彼等の支配を専ら其の個人的利益に利用するのみならず、其の投機や財政的處置によつて國民經濟に大なる動搖を與へる。かゝる場合には其の社會的影響は甚大である。しかしながらこれは經濟政策的手段を以てしては容易に解決し難い問題である。此處では國家内に於ける國家、即ち其の資本力によつて國家に重大な影響を及ぼすべ

25) Feder ; Das Programm, S. 38

き組織を構成し、以て一般の利益に反して利用し、支配するに至るのである。此の場合に於ける最大の救助手段は國家的權力、即ち公共の手による大企業の監視である。<sup>26)</sup>」

さて此の場合起る疑問はトラストの國有と云ふも、本來のトラストのみであるか、又はカルテルをも含むかと云ふことである。此の點に關するナチスの明確な見解は知るを得ないが、ドイツ企業界の實狀、並に大規模企業國有化の目的が獨占的弊害の除去にある點よりすれば、單にトラストのみならず、カルテル、コンツェルン等あらゆる獨占企業を包含するものと考へるべきであらう。即ちドイツに於てはトラストは漸く一九〇一年に現はれ、其の數も比較的尠いに反して、カルテルはドイツ固有の獨占企業形態として早くも前世紀の中葉以來漸次發達し來つたのである。殊に加里、石炭、製鐵、化學等、ドイツ重要諸工業、殊に總株式會社數の約三分の二はカルテル化されてゐる。今試みに數字的に見れば左の通りである。

(一九二三年)

26) Robert Liefmann; Trusts, S. 319, Handwörterbuch der Staatswissenschaften, Bd. 8.

製鐵業	七三	電氣、光學器具	五六
金屬工業	一七	製材	四四
機械工業	一四七	皮革	四六
汽罐製造業	四八	石炭、土砂	三〇
鐵道汽罐車	一	製陶	一〇
航空機製作	八	ガラス	二〇
金屬商品製造	七八	被服	七一
化學	二〇	釀造及關係業	九七
石油脂肪	三六	砂糖	二四
紙	一〇七	食糧品	四九
紡績	二〇一	運送	四

更にドイツ政府は一九二五年半ばに於けるカルテル總數は約三、〇〇〇、其の内工業は約二千五百と發表してゐる。

しかしながら他面に於て右に擧げたカルテル全部の國有化を意味するものでもなからう。

何となればカルテル及びトラストを全部含むものとすれば、ドイツ工業の大半以上を國營に移す結果になるが、此のことは原則として企業を個人の自由な經營活動に委ねんとするナチスの原則に反する。故に極めて無難作に「社會化された企業の國有化」と云はれてゐることは、要するに特に國民全體の利益に反するが如き大規模獨占企業を指すものと考へねばならない。

次に個人の經營に任された企業の統制を如何にするか、此の點も亦明瞭でない。しかしながら此の場合にあつてもナチスはこれら一般企業に對しても、無制限な競争に放任することなく、全體の需要充足の立場から見ても、他の企業を壓迫せしめざると共に、差當り収益少き弱少企業をも保護するであらう。其の統制、監視を爲す機關として當該生産部門の職業階級會議の活動が豫想される。ブロイチガムも亦、かゝる見解を取つてゐる。且つ彼によれば、此の場合の職業階級會議による制限は大體に於て次の二點である。

## 一、一切の獨占利益追求の制限

## 二、不當な競争の制限

其の結果各企業が其の製品の價格、生産量、販賣區域等を協定することによつて利益を獨占することを禁止すると同時に、ダンピング其の他の激甚な競争による價格の不當な低下をも防止するのである。<sup>27)</sup>

大企業の利益獨占は、第二に綱領第十四の「利益參加」によつて制限される。しかしながら其の具體的方法是未だ解決されてゐない。試みにフェーダーの言葉を引用しやう。

「他人の勞働に基く利益分配への參加は、ナチスの嚴に排斥する不勞所得の問題に抵觸する。

しかし自己の勞働の所産に對する利益參加の要求は社會正義の上から正に當然であつて、根本的に反對すべき何らの理由も存在しない。

此の問題の困難は第一に其の實行、即ち個人の現實に爲した勤勞や熟練に基く結果と、其の事業の創始者、利用者、商人、企業支配人、其の他の經營條件に基く結果との間の、利益

27) Harald Braeutigam; Wirtschaftssystem des Nationalsozialismus, S. 48.



分配に關する限界如何にある。……

私見を以てすれば、全國民生産に對する利益參加の要求を充すべき、比較的正當にして有效な方法は、現實に獲得された企業利益によつて、賃銀を現狀に止めつゝ、他方に於て物價を引下げることだと信ずる。

しかしながら國民社會主義國家に於ては、利益參加の問題は資本主義やマルクシズムの團體組織に於てするよりも、遙かに廣く此の問題を實現することが可能であらう。

一般には利益參加の要求は、其の内部的本質上資本主義的な利己心からか、或ひはマルクス主義的な義望から出發してゐる。

國民社會主義の考へるが如き理想的意味に於てのみ、それは正當な要求たり得るのである。蓋し此の問題の解決には、大株主に利益を壟斷せしむることを専ら目的とする資本主義的な株式の觀念も、表面上『各人に對する均等』を主張しつゝ、個人の價値を認めず、全體の利益を害することによつて、實際には何物をも與へないマルクス主義的義望の觀念も共に

退けねばならないからである。この事實を次の實例によつて明らかにしやう。

例へば製靴工場に於て『利益參加の權利を與へられた』労働者が、假りに僅かばかりの株式や僅少の利益を分配され、或ひは數足の靴を原價で賣つて貰つたところで、彼等が他方は其の衣類や食糧品を買ふ場合に、これら商品製造家も亦、彼等の労働者に許した『利益分配』の損失を其の製品の價格によつて補はんとするならば、前記の労働者は何ら得る所はないであらう。

故に一切の國民をして全國民生産の利益に與らしめる最善の方法は物價引下げである。<sup>28)</sup>

同じくブロイチガムもフェーダーの所説を布衍して云ふ「國民需要に國民生産を最も適當に合致せしめる爲には、其の全生産を最大の利益追求の見地から行ふことなく、利益を最少にするのみならず、出來得べくんば、利益を期待してはならない。……それ故に利益參加の要求から、國民經濟上有害な資本主義的利益追求を支持したり、人爲的に獨占的生産制限や價格釣り上げによつて得られた利益を、偶然此の獨占的企業に従事せる労働者のみに分配するこ

28) Feder; Das Programm, S. 53. ff.

とは社會正義に反する。……かゝる獨占企業にあつては、寧ろ生産制限を止め、物價を引下げ、全國民をして此の利益に與らしめることによつてのみ、初めて正常な利益分配を行ふことが出来る。<sup>29)</sup>」

ロイプケも亦此の説に賛成して云ふ。剩餘價值は現代にあつては労働者から奪はれるのではなくて、搾られる者は消費大衆である。故に彼等一般をして繁榮せる事業の利益に拘泥せしめるには、かゝる企業に於ける物價の引下げによる外はない。<sup>30)</sup>

以上がナチスの生産統制の要旨であるが、要するに一部獨占企業を國有化、ある程度の競争の制限、物價騰貴の防止の外は、大體に於て個人の自由な活動に任し、生産制限其の他の統制は行はざるかの如くである。

#### 第四節 農業

ヒットラーは云ふ。工業偏重の結果は大都市プロレタリアートの數を増大すると共に、他

29) Braeutigam; a. a. O., S. 182 f.

30) Reupke; a. a. O., S. 31.

方では著しく農民階級の勢力を弱め、やがてはそれがドイツ經濟破綻の重大な原因を爲したと。<sup>31)</sup>

農業がドイツ經濟の上に極めて重要な地位を占めてゐることは、單に農民數を見たゞけでも明白である。即ち一九二五年六月の國勢調査の結果によれば總人口六三・一八〇・六四九名に對して、農業者數は一四・三三八・五四九名にのぼつてゐる。

殊にナチスの見解によれば、國民經濟の最も健全な狀態は完全に自由自足の行はれてゐることである。ゾムバルトの如きも國民經濟の進むべき途は自給自足にあるが、其の爲には現在總人口の三%を占める農民を、一八八二年當時の四二・五%にまで増加せしめねばならぬと主張してゐる。<sup>32)</sup>

此の見地からナチスは後の農業綱領に於けるが如く、ドイツ經濟上に於ける農業の重要性を高調し、農民階級の健全な發達を要求してゐる。このことは先にナチスの構成分子の項に於て述べた如く、國民社會主義運動の中心勢力を構成するものが、本來中産階級と共にこれ

31) Hitler ; a. a. a. O., S. 255.

32) Werner Sombart ; Die Zukunft des Kapitalismus, S. 44.

ら農民であつたことから見れば當然であらう。

然らばナチスは具體的に如何なる農業對策を持つてゐるであらうか。一九三〇年五月六日ナチスは初めて其の農業綱領を發表した。それによれば、第一條、第二條及び第五條は大體に於てドイツ農民階級の重要性の主張であり、第三條、第四條が具體的對策である。故に此處には前記三ヶ條に關しては其の大要のみを紹介し、後の二ヶ條に付いてのみ其の全文を掲げよう。

## 第一條　ドイツ國民に對する農民及び農業の意義。

ドイツ國民は其の食糧品の極めて多くの部分を外國品の輸入に仰いでゐる。戰前には我々は此の輸入を、我が國の工業輸出品、商業の收入、及び在外資本によつて拂つて來た。然るに今や此の方法は戰敗の結果不可能になつた。

今日では我々は輸入食糧品を主として外資の借入れによつて支拂はねばならない。其の結

果ドイツ國民は漸次國際的金融支配者の奴隸的地位に墮しつゝある。現状が続くならば、ドイツ國民の財産は益々多く失はれるであらう。一度此の信用の途が梗塞され、食糧品の輸入が杜絶されるならば、食糧品の騰貴によつて、就中ドイツのプロレタリアートは口を糊することさへ困難になり、奴隸的な地位に甘んじて海外に出稼ぎを爲す必要に迫られるであらう。

此の奴隸化からの解放は、一にドイツ國民が自己の土地によつて需要を充し得る方法を講ずる外にはない。

しかるに國內市場に於てさへ、健全な農民は工業によつて甚だしく壓迫されつゝある。

我々はドイツ國家に對する農民階級の重要性を認めるのみならず、此の階級にこそドイツ民族更生の眞の源泉と、國防力の中心とを見出すのである。

生産力に富み、且つ人口増加に比例して數に於ても優勢な農民階級の維持は、全民族の幸福を意味するを以て、我々國民社會主義運動の重要な目標の一でなければならない。

## 第二條 現ドイツ國家に於ける農民階級の輕視。

農民階級の輕視の結果、現ドイツ國家に於ては、彼等の地位は經濟的に甚だしく脅かされてゐる。

經營資金の缺乏、利潤の減少による努力心の減退等によつて農業は漸次萎縮しつゝある。更に農業が現代の如く不利になつた原因は、次の諸點に見出されるであらう。

- 1、農民租稅負擔の過重
  - 2、保護關稅の不備
  - 3、生産者と消費者との間の仲介業者の利益獨占
  - 4、人造肥料、電力等のユダヤ的ユンツェルンによる暴利
- これらの結果、農民は奴隸化し、父祖傳來の家、田畑を失ひつゝある。

かくの如くナチスは農民の國民經濟上占める高き地位の承認と、右の没落の原因とから次

の主要原則を擧げてゐる。以下其の全文である。

### 第三條 我々の企圖する將來の國家はドイツ土地法と

ドイツ土地政策との遂行を期すべきこと。

1、ドイツ國民の所有し、維持する土地は、全ドイツ國民の居住と生活維持との爲に存在す。故にドイツの土地は此の趣旨に従つて各所有者の管理すべきところとす。

2、ドイツ土地所有者は總てドイツ國民たることを要す。

3、ドイツ國民が合法的に取得したる土地は相續財産と見做す。但し此の所有權は全國民の幸福の爲にする土地利用の義務を伴ふ。此の義務遂行の監視は、總ての農民職業團體と政府との代表者によつて構成されたる職業階級裁判所の權限に屬す。

4、ドイツの土地は金融的投機の對象、及び所有者の不勞所得の源泉たらしむることを得ず。爾今土地の所有を爲す者は總て、自ら耕作するを要す。故に一切の土地賣買に



對し、國家は先買權を有す。國家又は國家に承認されたる農業組合は、農業に必要な資金を有利な條件を以て貸與す。土地を以て民間金融業者に對する抵當たらしむることを得ず。

5、ドイツの土地利用の代償として、土地所有者は其の範圍と性質とに應じて決定されたる納稅義務を有す。此の土地收益稅に基き、農地及び農事經營に關する他の一切の國稅を廢止す。

6、農業經營規模の大小に關しては一定の規準を置かず。

多數の中小自作農民の存在は、人口政策的見地より極めて重要なりと認む。但し大規模經營と雖も特殊な任務を有するを以て、中小經營との圓滿な關係を維持せざるべからず。

7、土地相續權は總括的相續法を以て、所有地の分割、經營上の債務負擔禁止の制限を受く。

8、國家は左の場合に一定の賠償による土地沒收の權利を有す。

a、ドイツ國民の所有に非ざる土地。

b、當該職業階級裁判所の判決に基き、所有者の無責任にして誤れる經營により國民の幸福に資せずと見做されたる土地。

c、所有者自ら經營せざる大農地にして、自由なる農民移住の目的に供せられたる土地の一部。

d、國民全體の幸福を目的とする國家的事業（例へば交通路の開発、國民施設等）の爲に必要なる土地。不法に（ドイツ國法の意味に於ける）取得されたる土地は無償を以て沒收す。

9、國家は支配し得るに至れる領土に對し、人口政策的立場を以てする計畫的移住を任務とすべし。かゝる土地は自家經營を爲し得ることを條件として、移住者に對し相續財産として分與す。

右の土地を分與さるべき者は、國籍並に職業上の資格を標準として選擇す。農民の相續權なき子弟（七參照）は特に考慮さる。

最も重要なるは東部國境移住なり。但し此の移住を實現するには、單に農地開發のみならず、該地方に於ける商業都市の發達並に諸工業の新興に俟たざるべからず。かくて初めて新設中小農業者の生活保證たる販賣策は解決さる。ドイツ人口増加による大規模の扶養地並に移住地の創設は外交政策の任務なり。

#### 第四條 農民階級の經濟的文化的向上を期す。

國家は農民階級の全國民に對する重要性を認め、其の經濟的文化的向上を計り、以て農地放棄の最大原因を除去すべし。

1、爾今農民の窮迫を、租税の組織其の方法を以て緩和すべし。貸金資本に對する利率を戦前の標準まで合法的に引下げ、暴利の嚴重なる制限によつて、農業に對する

將來の負債を阻止すべし。

2、國家は農業をして有利な産業たらしむるが如き對策を講ずべし。

國內農産物は關稅、輸入の國家的統制、適切なる國民教育によつて保護すべし。

農産物の價格決定は投機によらしめず、且つ大取引業者による農民の搾取を禁壓すべし。國家は農業組合による農産物販賣實施を促進す。

農業の職業階級團體は農産物の原價を輕減し、生産を増加するが如き方策を考究すべし。(農具、肥料、種苗、種家畜等の有利な條件による交付、地質の改良、害蟲の驅除、無料農業相談、土地の化學的検査等)此の任務遂行の爲、國家は職業階級諸團體に援助を與ふ。特に國家は人造肥料と電力との低廉を期すべし。

3、職業階級諸團體は、社會正義に基ける勞働契約により農業勞働者團體と、農業團體との密接なる關聯を期すべき義務を負ふ。國家は監視權と最高決定權とを有す。

勤勉なる農業勞働者には移住民たる權利を與ふ。

農業全體の狀態改善に伴ひ、住宅の必要なる改善、農業労働者の賃銀引上げは、急速且つ確實に實現さる。國內農業労働者の狀態改善、及び農地放棄の禁止により、外人農業労働者使用の必要は消滅すべく、隨つて將來其の使用を禁止す。

4、國民に對する農民階級の重要性は、國家並に職業階級團體による専門教育、及び農村文化の復興によつて促進さる。(農村青年寄宿舎、無資産にして才能ある農村青年に對する農業高等専門教育の授與。)

次に第五條に於ては今一度農業の重要性と其の救済の必要とを力説してゐる。曰く、職業階級團體のみを以てしては、未だ農民を徹底的に救済するには不充分であつて、これが實現は一に國民社會主義運動の政治的運動に俟たねばならない。

現代の農民の窮迫はドイツ國民全體の窮迫の一原因である。ある一部の階級のみがドイツ全體の運命から脱出することは不可能であり、隨つて農村も都市も相共に助け合はねばなら

ない。故に農業階級團體は他の經濟的階級團體と一丸となつて職業階級組織を構成して、ドイツ全體の經濟的繁榮を計ると共に、政治的にも從來の奴隸化から解放されねばならないと。<sup>33)</sup>

以上がナチスの農業對策の要旨である。其の最も顯著な點は、土地の所有と相續との承認であるが、このことは綱領に於ても一般財産制の私有を認めてゐることの當然の結果である。第二に東部國境に於ける移住地の開發、及び殖民地の獲得はナチスの外交政策にも現はれてゐるところであり、これによつて自給自足の原則を實現せんとしてゐる。其の他右の綱領に見る如く國家が極めて多くの施設を爲すべきことを主張してゐるが、經營そのものについては大體に於て個人の自由な活動に任すかのやうである。

## 第五節 勞働問題

ドイツ勞働者は一八九〇年社會主義鎮壓法の廢止以來、頓に發達し來つた勞働組合運動と共に、漸次其の勢力を増大するに至つた。

33) Hermann Schneider; Unser tägliche Brot, S. 26 ff.

殊に革命以後のドイツ經濟界の混亂、世界的不況の影響、及びこれが切抜策としての産業合理化等による失業者の増加によつて、勞資の對立關係は益々尖鋭化し、勞働爭議の頻發を見るに至つた。これを數字的に見れば、一九二四年には一・六一四件、二五年には一・五四一件、二六年には三三九件、二七年には七五九件、二八年には六九一件、二九年には四三一件、三〇年には三四五件にのぼり、更に三一年には確定的數字を缺ぐも、農村の窮迫による農業勞働者爭議も加つて一層増加せることは確實である。其の中には數次のベルリン金屬勞働者のゼネストを初め、二六年のハムブルグ海港勞働者總罷業、三一年のルール地方鑛山勞働者のストライキ等の如き大規模のものも含まれてゐた。

更に勞働組合の現在（一九三〇年）の勢力を見れば左の通りである。

自由勞働組合

四、七一六、五六九

キリスト教國民系

七六九、八六三

自由國民系

一九八、一七五

共産黨系  
サンザカリスト  
革命派

六六、〇〇〇

經濟平和労働組合

一二一、八四六

獨立労働者同盟

七〇、八三五

合計

五、九四三、二八八

從來の觀念によれば、資本家と労働者との利害は絶対に對立するものであり、労働組合はこれが闘争の機關であつた。しかるにナチスの見解を以てすれば、かゝる階級感はマルクシズムによつて誤られた偏見であり、勞資の闘争は國民經濟を害する以外に何物をも齎らすものではない。

ナチスは先に述べた如く、企業家に對しても「共同の精神」に基いて企業活動を爲すべきことを主張するが、同時に労働者も亦「私益に對する公益の優先」の原則に支配さるべきことを要求する。随つて個人は全體の幸福の爲にのみ働くべきものであり、労働者は企業家と共に國民經濟の繁榮によつて初めて彼自身の幸福をも發見することが出来るのである。此の



故にナチスにあつては、労働者の生活條件改善に對する個人的權利のみの主張は認められない。ブルジョア支配はマルクシズムの云ふ如く、プロレタリア獨裁に解消さるべきではなく、支配する者は眞に價值あり、價值を創造する國民の全體でなければならぬ。それ故にマルクシズムの云ふが如き階級の對立はあり得ない。此の點に於てシュバンも亦同様な見解を表してゐる。曰く「經濟的階級なるものは統一的なものではない。大企業に於ける労働者自體の間に於ても、不熟練労働者、熟練労働者、有能な労働者等數多の階級に分たれる。更に農業労働者、小作人、手工業者等を初め、より高い精神的労働者たる技術家、官吏、支配人等の階級があるが、これらは決して經濟的階級ではない。……故に階級の分離が必然的に階級闘争を作ふと云ふことはマルクスの根本的な誤謬である。歴史をかゝる者として説くことは、恰も家族が、父、母、兄弟、姉妹の對立なりと説くのと同様な誤りである。多くの階級を一つの全體に綜合するところの、共通な統一的なものこそ、健全な社會の本質を爲すものなのである<sup>34)</sup>」と。

34) Spann; a. a. O., S. 151 f.

ナチスの國家に於ては、假りに社會的共同戰線を張るべき餘地ありとすれば、それは企業家に對する勞働者のそれではなくして、共同の利益に結び付けられた企業家と勞働者との、金融資本家及び其の反國民的態度に對してある。かくて勞働者は最早單なる賃銀勞働者に非ずして「經濟の協力者」なのである。

しかしながらナチスは其の貴族主義的原則から、企業經營に於ても統一的命令權の存在を認め、經營上の民主主義を排斥する。此の場合勞働者の權利は如何にして主張されるか。ナチスは勞働組合の組織を認め、勞働者の職業及び利益を代表する機關として經濟會議に参加せしめる。即ち此の勞働組合を通して勞働者は正當な權利の主張を爲すことを得るのであるが、それは決して階級闘争の機關ではない。ヒットラーは云ふ「現代に於ては勞働組合は單に必要なものみならず、國民の經濟生活上最も重要な制度の一である。しかしながら其の意味は單に社會政策的領域のみにあるのではなく、寧ろ一般國民政策的領域にある。何となれば正しい勞働組合運動によつて國民大衆は生活慾望を滿たされるのみでなく、教育さへも授け

られ、其の生存鬭争の爲の完全な抵抗力が強化されるからである。

就中労働組合は將來の經濟議會乃至身分階級會議の基礎として必要である。……しかしながら此の中央經濟議會及び職業階級會議は、國民社會主義的制度であるが故に、その重要な細胞たる労働組合も亦國民社會主義思想と意義とを持たなければならない。此の見地から國民社會主義運動は獨特な労働組合活動の必要を認める。故に國民社會主義運動は單に理論を教へ、志氣を鼓舞するのみでなく、實際の日々の鬭争によつて、國民全體の協同的構成要素としての企業家と労働者と共に國民社會主義教育を授けねばならない。實に我々の運動は實際の鬭争によつて個々の經濟的團體を教育し、それを廣い見地から統一することが出来るのである。此の前提がなければ、眞の國民共同體を組織せんとするも、それは空虚な幻影たるに終る。……此の故に國民社會主義運動は既存の労働組合の觀念を其の儘に容認することなく、これら組合員大衆に將來の國民社會主義國家の構成員たり得る資格を養成するのである。……

國民社會主義的勞働組合は階級闘争の機關に非ずして、職業代表の機關である。國民社會主義國家にあつては『階級』なるものは存在せず、在るものは政治的には完全に平等な權利と平等な義務とを有する國民と、政治上完全に無權利な外國人とのみである。

國民社會主義的意味に於ける勞働組合は、從來の如く國民團體内部の一定の人間の團結を漸次一階級に變形せしめ、それを他の階級に對する闘争の機關たらしめることを以て任務とするものではない。……本來勞働組合は決して階級闘争の機關ではないが、マルクシズムによつて誤られたのである。マルクシズムが自由な獨立の民族國家の經濟的基礎の破壊、自由な國民の奴隸化によつてユダヤ的超國家的世界金融支配を實現する爲の武器たらしめたのである。

これに反して國民社會主義的勞働組合は、國民經濟參加者による一定範圍の有機的團體組織によつて國民經濟を擁護し、其の生産力を高め、他方に於て國民、國家を損ひ、最後には經濟そのものをも破壊するが如き一切の弊害を除去するものである。……

國民社會主義的企業家は國民經濟の繁榮が彼自身の物質的幸福を意味することを知らねばならない。

國民社會主義的勞働者は企業家の幸福と満足とが、彼等自身の經濟的存在と發展との前提たることを覺らねばならない。

國民社會主義的企業家と勞働者とは、共に全國民團體の使用人であり、管理人である。<sup>35)</sup> 以上によつてナチスは勞働問題の解決に當つても、個人主義思想に代へるに全體的觀念を植ゑ付け、物質的根據のみからでなしに倫理的立場から勞資の協調を計らんとするものであることが明らかになつた。隨つて一方に於ては飽くなき政治的賃銀要求に基く階級闘争を拒否すると同時に、他方では資本主義的搾取を排斥するのである。

## 第六節 失業問題

前節に於て述べた勞働問題に對するナチスの見解から、延いて失業問題に對する態度も容

35) Hitler; a. a. O., S. 672 ff.

易に觀取することが出来る。其の前に一應現在のドイツ失業者の狀態を一瞥しやう。

ドイツ失業者數は現在約六百萬を超過してゐる。勿論此の數字には季節的變化、景氣變動によつて多少の増減はあるが、略々これに近いものが絶對的過剩勞働力として勞働市場に溢れてゐる。此處に其の理由を今少しく詳しく點檢せねばならない。

第一にそれは從業者數の絶對的增加の結果である。戦前の一九一三年に於ける勞働者數は一千八百五十萬であつたが、一九三一年には二千百七十萬に激増した。これらの中には、從來利子收入によつて生活してゐた者が、インフレーションの結果無資産となり、自ら街頭に食を求めらるゝ必要に迫られた者も少くない。しかしながら最も著しい現象は婦人從業者の増加であつて、戦前に比し約三百三十萬方の増加を示してゐる。今一つの原因は海外移民數の減少である。即ち舊ドイツ殖民地からは百五十萬のドイツ人が歸國したに反して、海外移住者は百十萬であつて、其の差四十萬は國內勞働市場に増加した。更に領土の割讓によつて、領土に於ては約一三パーセントを失つたが、人口に於ては六乃至七パーセントに過ぎなかつ

た。これらの結果はドイツ人口密度を高め、一九一四年には一平方キロメートルに付き人口一二五・三であつたが、一九二五年には一三四・二に上つた。

しかもこれら労働力の増加に反して、ドイツ産業界の萎縮は益々労働力を過剰にした。外國關稅障壁によるドイツ工業製品の輸出減少、農村不況による購買力の減退、及び不況打開策としての機械化、合理化の結果は益々失業者數を増大せしめる結果になつた。その結果失業者數は左の如く増加の傾向を辿つた。

一九二七年	二、四六〇、〇〇〇
一九二八年	一、八九六、〇〇〇
一九二九年	二、八五〇、〇〇〇
一九三〇年	三、二一七、〇〇〇
一九三一年	四、八九六、〇〇〇

更に一九三二年二月には六百十三萬と激増し、今や總労働者の三分の一は失業者として街

頭に投げ出されたのである。此の中失業保險の支給を受ける者は三一・四パーセント、危機手当の支給を受ける者二六・六パーセント、公費の支給を受ける者二八・五パーセントであつて、現状を以てする時は其の總費用月額三億八千萬ライヒスマルク、即ち年額四十五億ライヒスマルクに達する。

此の數字のみを以てしても、失業對策はドイツに取つて焦眉の急を要する重大問題たることがわかるが、政府の必死の努力にも拘らず、未だ著しい効果を擧げることが出来ない。前ブリューニング内閣蹉跌の一原因も亦、此處にあつた。

此處に於てか我々はナチスの失業對策の問題に歸らねばならない。

前に述べた如くナチスは勞働爭議を否定するが、他方に於て資本家が専ら個人的利益のみを追求することをも排斥し、單に利潤減少の故を以て直ちに勞働者を解雇することをも禁止する。果して人件費節約が其の企業繼續の上に必要なりや否かの問題は總て經濟會議の決定するところである。其の結果勞働者は一方的決定による失業を免るゝことが出来る。



同時にナチスは綱領第十一條に於て「不勞所得の廢止」を要求し、其の結果として一切の國民に勞働の義務を課する。ナチスの失業對策に於て最も異色あるは、此の勞働義務實現に關する案である。以下エーベルの所說に従つて述べやう。

第一に政府は特別の一省を設け、地理的状況に従つて各地方に監督官署を置く。各監督官署の下には約三萬人の勞働者を擁し、これを十乃至十六の勞働團體に分ち、此の勞働團體は更に十二の小勞働部隊に區分される。此の小勞働部隊が一團となつて勞務に従事せしめられるのであるが、此の場合最大の問題は其の財源である。しかるにナチスによれば、此の問題は容易に解決される。現時の失業救済費用は年額平均一人當七百五十ライヒスマルクであるが、食費、被服費、宿泊費、小使、行政費をこめて八百五十マルクに増額する。此の額算出の基礎は舊軍隊の經驗に徴し、其の後の生計費の膨脹を斟酌したものである。

此の制度による勞働は原則として一般の利益、又は國家的必要ある事業にのみ向けられる。即ち此の制度による他の個人的事業への影響を出来るだけ回避せんとするのである。

此の種の勞働による第一の對象は土地の改良である。ベッチヒャーの發表によれば、現在ドイツに於ける改良又は開墾を要する土地は左の通りである。

排水施設を要する土地

八、五〇〇、〇〇〇 ヘクタール

草 原

二、〇〇〇、〇〇〇

沼澤地(主としてウエルテムベルヒ)

一、九〇〇、〇〇〇

荒蕪地(主としてオルデンブルグ)

六〇〇、〇〇〇

第二は治水工事である。治水工事による國民經濟上の利益は、一九二六年一月及び六月二度の洪水の損害のみで二億ライヒスマルクに達した事實を見ればわかる。治水工事の恩恵に浴する土地は百萬ヘクタールに達する。

右の土地改良並に治水事業の外に、なほ各種の土木事業がある。例へば農業移住地の開墾、道路の開墾等は相當永年の繼續的事業たり得る。<sup>36)</sup>

以上の勞働義務制度による失業救済策の外、一時的對策として考へられてゐるものに住宅

36) Horst Ebel; Arbeitslosigkeit und Arbeitsbeschaffung, S. 133 ff.

の建築がある。このことはナチスの建築産業銀行設置案と關聯して極めて有效な失業救済案として推稱されてゐる。

エーベルによれば現在ドイツに於ける住宅の需要は六十萬乃至八十萬と評定されてゐるが、人口増加と結婚とによる住宅の需要増加は約二十萬に達する。故にナチスの唱道せるが如き建築産業銀行の創設によりて、建築資金難を緩和し、建築業の振興を計るならば、極めて多くの勞働力を消化することが出來ると云ふにある。

第二に現在ドイツ工業及び農業に従事せる外國人勞働者は約十萬に達するが、これを解雇してドイツ人失業者を代らしめることはナチスの綱領からも當然の要求である。<sup>37)</sup>

しかしながらナチスの失業對策の中心は前述の勞働義務制度にあることは勿論である。

37) Ebel ; a. a. O. S. 141 f.

## 第六章 國民社會主義とファッシズム

人或ひはナチスの強權主義乃至行動主義的な一面のみを目して、それが暴力團體に過ぎないと云ひ、其の國家主義的主張を以て其の反動性を云々し、其の理論に於ける矛盾を指摘して御都合主義、機會主義とけなす。同様な非難はイタリヤのファッシズムも亦等しく蒙るところである。かゝる見解を採る者はこれらの點に於てのみ兩者の類似點を求め、國民社會主義も亦ファッシズムと同一だと見做すのみならず、現代流れてゐるあらゆる國粹的な思潮は勿論、思想的に淺薄な行動的團體をさへも一括して甚だ無雜作にファッシズムの名の下に包含せしめ勝ちである。

しかしながら一つの運動乃至思想を眺め、批判する時に、かゝる皮相な見地に立つことの誤りでゐることは云ふまでもない。

次に簡単に國民社會主義とファッシズムとを比較論評しやう。

國民社會主義とファッシズムとは同じであらうか？ 私は躊躇なくこれを類似のものだと斷言する。但しその所以は此の兩者が政策、主張を同じくする爲ではない。

もとより個々の政策、主張に於て甚だ多くの類似點を有することは明らかである。例へば此の兩者は私有財産制の基礎に立ち、個人の創意を認め、個人に廣い自由活動の範圍を残してゐる。ファッシスト政府によつて相續税の引下げが敢行されたと同じく、ナチスは相續税の廢止を主張する。政治的にも此の兩者は民主主義思想を退け、反議會主義的であり、獨裁政治を主張する。ファッシズムが其の賢良主義（エリタ）によつて新しい貴族主義的立場を採らんとするに對して、國民社會主義は最善者の支配を要求する。前者のゾウチェ Duce の觀念は其の儘に、後者のフェウラー（指導者 Führer）の思想でもある。又は此の兩者は眞の鞏固な國家の建設を新時代に期待し、國民教育に熱心である。ムッソリニが教會と妥協した如く、ナチスは信教の自由を認める。

かくの如く國民社會主義とファッシズムとの間に政策、主張の類似點は數限りなく求められる。しかしながらこれらは二次的な類似に過ぎない。假りにファッシズムが其の社會性を喪失して、完全な金權政治に墮し、ナチスが反對により社會化的傾向を示すに至つたとしても、其の本質的類似は失はれない。

兩者の本質的類似は寧ろ其の思想的方面に求めねばならない。

國民社會主義もファッシズムも浪漫主義の復活である。勿論ドイツとイタリアとの國民性、歴史的地理的條件等の制約を受けて、其の復興の形式に於ては多少の相違があるだらう。しかしながら浪漫主義の社會觀は等しく兩者に傳へられた。かくて社會國家を個人の自由意志による原子的な連帶と見做す、自由主義、個人主義の反動としての國民社會主義及びファッシズムの有機的社會觀が生れた。随つて其の思想は普遍主義的であり、精神主義的であつて、其の國家觀經濟觀には極めて多くの倫理的要素が加味されてゐる。彼等にあつては個人は全體の爲に存在するのであつて、其の逆であつてはならない。ファッシズムが從來の利己的な

經濟人の概念に代ふるに組合人の概念を以てした如く、國民社會主義は「私益に對する公益の優先」を以て最高の經濟原則と認める。社會の有機的關聯の主張からはイタリアの組合國家制度とナチスの身分階級國家思想とが生れた。感情主義、現實主義は此の兩者を民族的國家主義に導いた。彼等にあつては百の理論よりも一つの實行である。國際主義の理想は民族、國家の對立てふ現實の前には果敢ない幻影である。此の故に國民社會主義もファッシズムも階級的な横の連帶を退けて、何よりも民族を單位とする鞏固な國家を建設せんとする。

かゝる同一の思想的根柢から其の運動に於ても同一の主張の現はれることは當然である。しかしながら何故かゝる類似の運動が、特にイタリアとドイツとに、しかも殆んど時を同じくして現はれたのであらうか？

第一にそれは歴史的事情に基く。イタリアとドイツとは嘗て神聖ローマ帝國の二大支柱であつた。此の二國はナポレオン支配の下に分立主義に悩み、其の國民的統一は其後も久しく遂げられなかつた。此の國家的統一が二人の偉大な政治家、即ちイタリアに於てはカヴール、

ドイツに於てはビスマークの出現によつて初めて達せられた點まで軌を一にする。更に此の兩國には統一された瞬間に於て早くもインターナショナルな思想が醸成され始めてゐた。

以上の類似の歴史的事情は、更に相似た國民性を生んだ。勿論ラテン民族としてのイタリア人とゲルマン民族としてのドイツ人との間には見落し難い先天的國民性の相違があるだらう。しかし彼等は共に、幾度か他民族に襲はれ、他國の壓迫を受け、其の國土が荒廢せしめられたことさへ一再に止まらなかつた。其の結果彼等は民族的感情が強く、愛國心が熾烈であつた。彼等は又民族的自負心に富んでゐる。イタリアに取つてはローマ帝國の最盛期のみが唯一の歴史の偉大な現實であると共に、今日のイタリア人こそは此のローマ帝國の眞の後繼者であり、地上のあらゆる文化の源泉であると誇るに對して、ドイツ人は哲學に於てカント、ヘーゲル、文學に於てゲーテ、シルラー、音樂に於てベトーヴェンを産んだドイツ民族こそ世界に冠たるべき民族だと主張する。

彼等は又英雄主義的である。ガリバルデーやカヴールがイタリア國民崇敬の的である如



く、フリードリッヒ大王やビスマルクはドイツ人に取つて永遠の偶像である。かくてドイツに權力主義の詩人ニーチェがあれば、イタリアには愛國的情熱の詩人ダモンチヨがある。

第三には戦争直後に於ける社會的情勢の類似である。戦後のイタリア國民の間には、四年間の殘虐な戦争による唯一の成果たる土地までが奪はれたといふ憤激の念が高まつた。イタリアの過去の榮譽を物語る様々の都邑、建築物、記念碑を持つダルマチヤの奪回さへも許されなかつたことを憤つた。一方に於て戦地からの歸還兵を迎へたものは失業であつた。更にインフレーションによる物價高と失業とは下層階級を尖鋭化せしめた。ストライキの頻發と社會黨の進出、其の間に於ける極左共產分子の策動、等によつて國民一般の生活は極度に脅かされた。かくて一九一九年乃至二〇年のイタリア社會の混亂狀態は、戦敗國ドイツのそれをも彷彿せしめる位であり、國家は正に革命の一步前にあつたのである。しかも議會は徒らに騷擾を續け、政府は有效な對策を講じ得ず、最早民心を繋ぐべき何物も持たなかつた。

以上の如き類似の歴史的社會的背景との下にファッシズムと國民社會主義とが、酷似せる

相貌を以て生れたことに少しも不思議はない。

誠にファッシズムと國民社會主義とは時代の双生児であると云へやう。

とは云へ屢々言はれてゐる如く、國民社會主義は斷じてファッシズムの模倣ではない。勿論ナチスは其の政策に於ては先輩ファッシズムから學び、汲むところが多かつたであらう。しかしながらファッシズムと國民社會主義とは類似ではあるが、嚴密には同一ではない。嘗てムッソリニは云つた「吾人は外國にファッシズムを輸出せず」と。實にファッシズムは輸出品ではない、模倣は許されない。抽象的に云へばファッシズムは飽くまでもイタリヤ的であり、國民社會主義は飽くまでもドイツ的である。特殊な國民性、歴史的社會的事情から獨特なファッシズム的形態が生ずるのである。

以上によつて國民社會主義とファッシズムとの類似點を述べたが、此處に相當重要な相違がある。即ち民族的主張の程度の相違である。ファッシズムも其の初期に於てはゲマインチヨのイルレデンチズム運動と結び付き、國民主義者と同盟し、其の民族主義的色彩は相當濃厚

であつた。しかしそれはイタリアの人種的組成、其の他の理由によつて漸次稀薄になつた。これに反してナチスにあつては純血の主張が甚だ熾烈であつて、其の要求する國家は同一の血統によつてつながれた血族乃至種族國家でなければならぬ。此の點から必然的にナチスの反セミチズム思想が生ずるのであるが、ファッシズムには最初から此の要求はなかつた。例へばファッシズム運動の初期に於て要職にあつたフィンチ、マルゲリータ・サルファッチ、其の夫サルファッチ・ミラノ、オリヴィエール・オリヴェッチ等は何れもユダヤ系であつた。とは云へ今日絶對に純粹な人種存在は考へられず、隨つて此の唯一の相違も亦、程度の差と云ふ外はあるまい。

×

×

×

ムツソリニがファッシスト團體を組織したのは一九一九年三月であり、ヒットラーがナチスの母體ドイツ労働黨に加入したのはそれから半年も隔つてゐない。しかもファッシストの歴史的なローマ進軍は其の僅か三年後であつたが、ナチスは政黨としては類例なき躍進振り

を示し、現在ドイツ聯邦議會に於て第一黨の地位を占めてゐるとは云へ、未だ一度の政權をも握つてゐない。

我々は俄かに其の理由を發見するに苦しむ。勿論指導者としてのムッソリニとヒットラーとの經歷、手腕、人格の相異によるところもあらう。又其の陣營内に於ける人材の多少もあらう。しかしながら其の最大の原因は兩者の運動の背景を爲すところの社會的政治的事情に求められるであらう。

イタリヤに於ては工業の進歩は遙かにドイツよりも遅れ、労働者は數に於ても少く、それ程尖鋭化してゐるない。且つ無産階級に於て多數を占める者は、寧ろ保守的な小作人である。それ故に工場占領の如きでさへも純然たる政治闘争にまでは發展しなかつた。ファシズム擡頭以前イタリヤ社會黨は二十萬の黨員を擁し、二百萬の労働組合員を支配し、議會に於ても一大勢力を形勢してゐた。しかし彼等は概して日和見主義的であり、怯懦であり、識見を缺いてゐた。イタリヤ人であり、且つ反ファシストたるカルロ・スフォルツァは當時

のイタリヤ社會黨に次の如き批評を加へてゐる。「イタリヤ社會黨は結局個人の眞の幸福を考へず、徒らに空虚な祈禱のみを繰返す宗教團體と同じく、マルクシズムの信條の反復を以て業としてゐた爲に其の生活力を失つた。……若しも此のイタリヤ社會黨に道德心の高い指導者があつたならば、なほ其の使命は續いてゐたであらう。然るに彼等は死滅した理論を固執して、自由と民主主義との爲に戦ふべき時期を空費した。」

此の社會黨の無力はムツソリニの獨裁を容易ならしめた。

これに反してドイツ労働者は一度革命の焰をくゞつて來た。従つて社會民主黨は國民大衆、就中プロシヤを中心とする北方工業地帯に根深い勢力を張ると共に、他方には共產黨は労働者の尖鋭分子を其の旗下に集めることが出來た。加ふるにロシヤとの地理的距離の近さは、共產主義思想の宣傳を容易ならしめた。此の故にドイツに於ては社會民主主義の凋落は左右兩極の對立の餘地を残す。かくてドイツ共產黨はナチス以外に選舉毎に其の勢力を増大する唯一の政黨として残つてゐるのである。

スフォルツァは更にドイツが左右兩極の間を彷徨せる理由をドイツ國民性の缺陷に歸してゐる。彼は云ふ「ドイツ人は一時代に二つの明らかな途が與へられてゐる場合、其の一つを選ぶ能力を缺いてゐる。例へば宗教改革の時代に他の諸國は何れもカトリックかプロテスタントかに奔つたが、ドイツでは此の二つが共に混合した<sup>2)</sup>。」

全部の眞理を貫いてゐないとしても、玩味すべき言葉である。

2) Sforza ; a. a. O., S. 140.

## 後記

本書を草してから出版の運びに至るまでの短期間に、ドイツ政界は更に一つの轉換を見せた。シュライヘル内閣が一般の期待に反して脆くも倒れ、ヒットラーを首班とする國民政府が實現したことがこれである。それ故に次に簡單に其の間の經過を辿つて本文を補足しやう。

×

×

×

ドイツの現下の混亂に對する一半の責任は社會民主主義的政策にあつたことは前に説いた。そして右顧左眄する無力なブリュニンゲ政府の姿こそ、此の政策を續行せんとする最後の足掻きであつた。シャハトは云ふ、「最早我が國には補ふべき經濟的資源を涸渇して了つたといふ事實こそ、現時の如き救ひ難い状態に導いた原因である。不幸にもブリュニンゲ政府も亦、最後の經濟的餘力を國民から奪ひ去つたとの非難を免れることは出来ない。今や我が國に残された唯一の餘力は、これまで放置され、看過されたドイツ國民の國民的生活意思のみである。」

ドイツ經濟の恢復を國民の協力に求めんとする此の氣持は、今やドイツの輿論になつた。此の要望に答へる爲バーベン政府の採つた政策は「十二ヶ月經濟振興策」として、屢々雜誌その他によつて紹介されたが故に、此處には其の詳説を省くが、其の要點は、一、社會保險支給率の切下げ、二、租稅負擔の輕減、三、公定貨銀の引下げの三點にあつて、從來の政策との著しい對照が目立つてゐる。

過ぐる十一月六日の總選舉の結果、バーベンに代つて宰相の印綬を帶びたシュライヘルは、過去の經歷から見ても當然右の政策を踏襲強化すべき筈であつた。否、寧ろドイツ國民は「鐵の人」の再現をシュライヘルに於て見んとしたのである。しかるにシュライヘルの政策は、要するにブリュニングへの逆戻りをしか意味しなかつた。妥協政策や怯懦な社會政策が何の反應をも示さないことは、過去十四年間の長い實驗によつて試験済みになつてゐた筈である。ドイツを今日の窮乏から救ふものは、國民的感情によつて結ばれた強力政府以外にはない。ハルツブルグ戰線を中心とする新政府出現の意義は其處にある。



本年一月二十九日組閣された此の新國民政府は、國民の信認を問ふ爲に直ちに議會を解散し、次いで三月五日緊張裡に總選舉が行はれたが、左の如く政府派の壓倒的勝利に歸した。

政府派 國民社會黨

二八八

國權黨

五二

ドイツ人民黨

七

計

三四七

反對派

社會民主黨

一一九

共產黨

八一

中央黨

七三

バイエル人民黨

一九

國家黨

六

計

三〇〇

新聞紙の傳へるところによれば、中央黨及びバイエル人民黨も亦ヒットラー政府に好意的援助を惜まずと云ふ。かくてナチス年來の主張たる獨裁實現の日も遠くはあるまい。

では我々は此の鞏固な基礎に立つヒットラー政府の下に、如何なる政策の實現を期待するところが出来るであらうか。東部大農地方のユンカーを背景とするバーベン、及び重工業家の利益を代表するフーゲンベルグの政策と、大衆運動としてのナチスの主張との間には、かなりの逕庭が存在することは云ふまでもない。しかしドイツ經濟の恢復を鞏固な國民の協力の下に、國民の自己責任と個人の能力の發揮とによつて達せんとする點に於ては一致してゐる。此の國民的連帶の感情こそは、ヒットラーをして其の政策の遂行を容易ならしめるであらう。

事實、組閣早々の二月二日に發表された、新なる四ヶ年計畫の聲明には、ナチスの色彩がはつきりと現はれてゐる。其の要旨に云ふ――

「國民政府は我が國經濟恢復の大事業遂行の爲、次の二つの四ヶ年計畫を採用せんとする。即ち、

國民の扶養及び生活の基礎の維持を目的とする農民の救済。

失業に對する強制的總括的干涉によるドイツ失業者の救済。

十一月革命以來十四年間にドイツ農民は没落の淵に引き入れられた。

十四年間に失業群は増大せしめられた。國民政府は鐵の如き決心と、不屈不撓の精神とを以て次の計畫を實現せんとする。即ち、

四年間にドイツ農民を窮乏から救ひ、四年間に失業を徹底的に克服せねばならない。同時にこれが他のあらゆる經濟振興の前提である。國民政府は此の經濟救済の偉大な使命を有すると共に、他面には國家及び地方團體の行政並に財政改革の任務及び遂行を期する。此の目的を以て國家は最も鞏固な連帶的關係に立たなければならぬ。以上の計畫の核心を爲すものは、『勞働義務の觀念と移住政策』とである。……」

右の聲明に見られる如く、此の計畫の中心は農民の救済と失業者の一掃とにある。工業の偏重を退けて、自給自足を計らんとすることは、ナチス年來の主張であり、失業問題の解決を、

個人の依頼心を助長せしめる社會保險制度の濫用によらずして、強制勞働制度と移住政策とによらんとすることは、既にナチスの綱領に明白に現はれてゐるところである。しかし右の計畫は抽象的であつて、これを如何にして實現するか、具體的內容が與へられてゐない。此の點からフランクフルター・ツァイツング紙は、此の聲明が「計畫に非ずして、檄文だ」と揶揄してゐる。しかしヒットラーは其の經綸を行ふ上に四ヶ年の歳月を要求して居り、したがつて慎重な審議の結果による具體的計畫の發表は他日に期待される譯である。

要するに全體主義的立場からする經濟の統制と自給自足へ、これがヒットラーの辿らんとする途であらう。

昭和八年四月一日印刷  
昭和八年四月十五日發行

ナチス奥付

定價金壹圓二拾錢

警 告

長 守 善

發 行 書

東京市京橋區京橋三ノ四  
鈴 木 利 貞

印 刷 書

東京市小石川區久堅町一〇八  
君 島 潔

印 刷 所

東京市小石川區久堅町一〇八  
共同印刷株式會社

發 行 所

東京市京橋區京橋三ノ四

株式會社  
日 本 評 論 社

電話京橋(56)六二九一—  
振 替 東 京 一 六(4)

日 本 評 論 社 刊 行 書

平	下	F・レンツ著 小田垣光之輔譯	新	土	石	松	藤	藤	蝦	高
貞	村	宏	明	田	川	平	井	井	山	橋
藏	・	著	正	杏	三	齋	梯	梯	政	清
者	宏		道	村	四	光	著	著	道	吾
滿	著		著	著	郎	著			者	著
蒙	日	國	獨	ユートピア	社	フ	各	フ	無	現
移	本	家	逸	ア	會	ラ	國	ア	現	現
民	の	と	社	社	主	ン	勞	ッ	代	代
問	行	社	會	會	義	ス	働	シ	政	の
題	く	會	學	主	運	政	黨	ズ	黨	政
	べ	會		義	動	治	論	ム	論	黨
	き				史	思				
	道					想				
送	送	送	送	送	送	送	送	送	送	送
料	料	料	料	料	料	料	料	料	料	料
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
五	二	〇	〇	七	〇	三	二	九	五	五
〇	〇	八	六	〇	〇	〇	八	〇	四	四











